

名城大学FD・SD活動報告書

令和5年度

名城大学

大学教育開発センター委員会

目 次

1. はじめに	
● 令和5年度のFD・SD活動を振り返って	1
大学教育開発センター委員会委員長 山田 宗男	
2. 令和5年度大学教育開発センター委員会	
● 委員構成	5
● 活動記録	7
3. 令和5年度FD・SD活動一覧	
(FD・SDフォーラム、FD・SD学習会、新任教員FD・SD研修会、 授業改善アンケート、名城大学FD NEWS、名城大学教育年報、FD・SD活動報告書、 教育功労賞表彰、学外セミナー・研究集会等への派遣)	11
4. 令和5年度正課外教育活動一覧	
(入学前オリエンテーション、入学前学習プログラム(MECプログラム)、 名城サプリメント教育、学習サポートルーム)	15
5. 令和5年度各学部・研究科等におけるFD・SD活動報告	23
● 法学部・法学研究科	
● 経営学部・経営学研究科	
● 経済学部・経済学研究科	
● 理工学部・理工学研究科	
● 情報工学部	
● 農学部・農学研究科	
● 薬学部・薬学研究科	
● 都市情報学部・都市情報学研究科	
● 人間学部・人間学研究科	
● 外国語学部	
● 総合学術研究科	
● 教職センター	
6. トピックス	
● 第25回FD・SDフォーラム実施報告	119
● 第18回FD・SD学習会 実施報告	141
● 新任教員FD・SD研修会／第19回FD・SD学習会 実施報告	146
● 教育功労賞表彰報告	153
7. 資料	
● 大学教育開発センター要項	165
8. おわりに	
● あ と が き	167

1. はじめに

令和5年度のFD・SD活動を振り返って

大学教育開発センター委員会

委員長 山田 宗男

FDのミッションは、本学が掲げる教育理念・目標を達成するための学生への教授・指導法の開発、教育の質向上の取り組み、学習効果をあげるための学生支援などに寄与することです。また、SDとの協働・協調が必要不可欠であり、カリキュラムやプログラムの再構築に関する提言や、いわゆる「学位の質保証」を企図した学修環境の整備等について、直接的・間接的に貢献することが重要であると考えます。

本学においては、学部や組織の創意工夫を重視した「ボトムアップ型」の特色あるFD・SD活動を展開しており、そのスキームは認証評価においても高い評価を受けています。FD・SD活動は、教育の質的改善と質の高い人材育成を行うための重要な営みであり、その過程のすべてを可視化すると共に、FD・SD活動の成果を教職員全体で共有しながら、さらなる改善に向けて実践的に活用していくことが重要であると考えます。

本学においては、ダッシュボード分析、学修成果の可視化、外部評価の実施等による教育改善について、ミクロ・ミドル・マクロの3つのレベルでの質保証がなされており、各学部における教員／職員一体での取り組みの賜物であると思います。特に、総合企画部、大学教育開発センターをはじめ関係各署の職員の皆様には、質保証システムの提案・整備から自己点検書の作成に至るまで、毎年、膨大な作業に尽力いただいております。この場をお借りして、感謝申し上げます。

大学教育開発センター委員会では、授業改善アンケートや学修成果の可視化・分析、現状における問題や今後益々重要となる数理データサイエンス・DX人材育成を見据えたFD・SDフォーラム・学習会の開催、入学前教育および名城サプリメント教育の教材見直し、学習サポートルームのリモート対応、FDニュースの発刊など、各種取り組みを可能な限り行いました。以下に、今年度の取り組みについて省察します。

まず、授業改善アンケートについては、質問項目の継続的な見直しを図ると共に、学生自身の授業に対する姿勢についても振り返りができる質問を加えるなど、質問内容についても継続的に改善を重ねています。今年度の回答率は、前期：36.3%、後期：32.2%と比較の高い値となり、成長実感や授業満足度も年々、上昇傾向にあります。これは、コロナ禍における遠隔講義の経験によって、対面講義の内容や方法への関心がより一層高まった結果であると考えられます。アンケートの回答率に関しては、学生への周知徹底や動機付けとの相関も大きいことから、回答マニュアルの整備、アンケートの回答を促すポスターの講義室への貼付、学生ホールでの周知、授業改善アンケート集計結果閲覧コーナーの設置など、引き続き努力していきたいと考えています。

学修成果の可視化に関する外部調査については、全学部全学科にて実施していただいております。本調査の目的は、学生個々の学修行動・学修成果について調査・可視化することで、教育の成果がどの程度上がっているかを把握するものであり、今後の教育プログラムの在り方やFD・SDの進め方、さらには学生指導方法の見直し等に役立つ情報を得ようとするものです。現段階では、

PROG や GPS-Academic 等の外部団体提供による調査を活用する試行段階であり、本来は学部独自でアセスメントポリシーに基づく適正な調査・評価方法を検討いただくことが望ましいと考えています。またこの調査は、単年度対象の調査ではなく、年次推移に関する分析・検討が重要となります。今年度も多くの学部・学科において、複数年次を対象とした調査が実施され、学修成果の可視化に関する重要性の認知とその活用が進んでいることが伺えます。本調査の実施に関しては、引き続き援助の準備を進めていますので、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

今年度の FD・SD フォーラムは、メインテーマを「大学生の授業外学習時間について考える」としました。(株)ベネッセ・キャリアの村山和生 氏、本学都市情報学部の酒井順哉 教授を講師としてお招きし、授業満足度調査の結果に基づいて、主体的な学びを改善するための取り組み事例についてご紹介・講演いただきました(11月2日(木)、Zoom ウェビナーによるオンライン開催)。当日は多くの参加があり、質疑応答も活発に行われ、如何に分析し、その結果をいかなる手段で教育に反映させるかについて、関心の高さが伺えました。お忙しい中、貴重な時間を割いて参加いただいた教職員の皆様には、心より御礼申し上げます。

第18回 FD・SD 学習会は、青山学院大学の松尾睦 教授を講師としてお招きし、「働き方を学びほぐすアンラーニング」のテーマで開催しました(7月10日(月)、Zoom 開催)。「アンラーニング(学びほぐし)」とは、これまで当たり前になっていた概念や習慣を見直し、必要に応じて、既に確立した型やスタイルを壊して新たな型やスタイルへと作り直し、新しい知識やスキルを取り込むことであり、多くの参加者から好評を博し、活発な意見交換が行われました。

令和5年度新任教員 FD・SD 研修会については、名古屋大学 高等教育研究センター・東海国立大学機構 QTA・GSI トレーニングセンターの安部有紀子 准教授、竹永啓悟 特任助教を講師としてお招きし、第19回 FD・SD 学習会との共催にて「学生の主体的な学びを促す授業設計～学習到達目標から授業を見直そう!～」のテーマで開催しました(9月12日(火)、Zoom 開催)。グループワークでは、実際に参加者が書いたシラバスをグループ毎に取り上げ、学習目標の設定の仕方や表現等に関して議論を行いました。学習目標が「バックワードデザイン」に沿っているか、目標と評価が連関しているかなど、学問分野や大学教員キャリアを超えた意見交換が活発に行われました。本学の専任教員に着任された先生方を対象に、授業運営や学生指導に中って困っていることや苦心していることなどを意見交換し共有することで、FD・SD 活動の動機付けおよび教員の交流を深める機会としたく思っており、来年度も引き続き開催していきたいと考えています。

推薦入学者を対象に入学前に行われる入学前教育と入学後の学習をサポートする名城サプリメント教育に関しては、紙ベースの教材をオンライン教材に改編し、学習効率の向上や質問対応の即時性に関して改善を図りました。また、学習サポートルームに関してもリモートによる相談や質問対応を可能とし、学生の都合に合わせて、対面・リモートのいずれの方法でも利用が可能なようにしました。

FD ニュースについては、令和6年3月に Vol.18 を発刊し、今年度の FD・SD のメインテーマでもある「名城大生の授業外学習時間」について取り上げました。FD ニュースは、FD・SD に関する学内外の最新の取り組みおよび高等教育改革の最新動向等を、スピーディーかつ端的に情報提供・共有するための媒体として今後も積極的に発刊していきたいと考えています。

本学における FD・SD の取り組みは、本来の趣旨を念頭に教職員の創発によって取り組みを深めていく体制とすることで、現場感覚に基づいた実践的な FD・SD 活動が遂行可能である点が他大学にない特色であると思います。また、「After コロナ」時代においては、ICT 活用を主軸としたこれまでにない教育改革が必須であり、それに伴う FD・SD 活動も変革の時期を迎えていると思います。教職員の皆様におかれましては引き続き、より一層のご理解とご協力をお願いできれば幸いです。

2. 令和5年度

大学教育開発センター委員会

令和5年度 大学教育開発センター委員会委員

所属等	職名	氏名	職名	氏名
大学教育開発センター長	委員長・教授	山田 宗男		
学務センター長	教授	山本 雄吾		
法学部	教授	松本 俊太	准教授	仁井田 崇
経営学部	教授	堀川 新吾	准教授	相川 奈美
経済学部	教授	谷村 光浩	教授	名和 洋人
理工学部	教授	成田 浩久	准教授	榎本 和城
情報工学部	准教授	宇佐見 庄五	准教授	米澤 弘毅
農学部	教授	鈴木 康生	教授	大浦 健
薬学部	教授	大津 史子	教授	湯川 和典
都市情報学部	教授	稲葉 千晴	教授	酒井 順哉
人間学部	教授	岡戸 浩子	助教	高橋 香苗
外国語学部	教授	津村 文彦	助教	安達 孝信
総合学術研究科	准教授	神藤 定生		
教職センター	准教授	木村 美奈子		
学務センター	事務部長	犬飼 斉		
大学教育開発センター	事務部長	鶴田 弘樹		

令和5年度 大学教育開発センター委員会 専門委員会 分担表

【教育支援専門委員会（12名）】

所属等	職名	氏名	備考
大学教育開発センター	センター長	山田 宗男	座長
法学部	准教授	仁井田 崇	
経営学部	准教授	相川 奈美	
経済学部	教授	谷村 光浩	
理工学部	准教授	榎本 和城	
情報工学部	准教授	宇佐見 庄五	
農学部	教授	鈴木 康生	
薬学部	教授	湯川 和典	
都市情報学部	教授	稲葉 千晴	
人間学部	助教	高橋 香苗	
外国語学部	助教	安達 孝信	
学務センター	事務部長	犬飼 齊	

【FD・SD専門委員会（14名）】

所属等	職名	氏名	備考
大学教育開発センター	センター長	山田 宗男	
学務センター	センター長	山本 雄吾	
法学部	教授	松本 俊太	
経営学部	教授	堀川 新吾	
経済学部	教授	名和 洋人	
理工学部	教授	成田 浩久	
情報工学部	准教授	米澤 弘毅	
農学部	教授	大浦 健	
薬学部	教授	大津 史子	座長
都市情報学部	教授	酒井 順哉	
人間学部	教授	岡戸 浩子	
外国語学部	教授	津村 文彦	
総合学術研究科	准教授	神藤 定生	
教職センター	准教授	木村 美奈子	

令和5年度 大学教育開発センター委員会活動記録

- [第1回 令和5年4月6日(木)]

【はじめに】

1. 大学教育開発センター委員会について
 - (1) 令和5年度委員について
 - (2) 令和5年度開催日程について
 - (3) 令和5年度委員会欠席の際の取り扱いについて(委任状)

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 令和4年度 大学教育開発センター委員会(第11回)

【審議事項】

1. 令和5年度副委員長の選出について
2. 令和5年度委員会活動について
 - (1) 令和5年度事業活動計画(大学教育開発センター)について
 - (2) 令和5年度専門委員会の設置について
3. 院高度化費について
 - (1) 令和5年度院高度化費の使途及び予算配分額について
 - (2) 令和5年度大学院生研究助成(A)・(B)の募集要項、申請書等について
 - (3) 令和5年度大学院生研究助成(A)・(B)の審査方法・項目について
 - (4) 令和5年度大学院生研究助成(A)・(B)の審査担当及び審査スケジュールについて
 - (5) 令和5年度大学院生FD企画参加(プレFD)の助成について

【報告事項】

1. 令和5年度名城サプリメント教育及び学習サポートルームの実施について

- [第2回 令和5年5月11日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第1回)

【審議事項】

1. 各学部・研究科等におけるFD・SD活動の実施について
2. 令和5年度FD・SDフォーラム/FD・SD学習会の年間予定について
3. 令和5年度前期授業改善アンケートについて
4. 令和5年度FD・SD活動の刊行物の発刊について

【報告事項】

1. 大学教育開発センター委員会専門委員会の分担について
2. 令和5年度大学院生研究助成(A)・(B)の審査担当について
3. 令和5年度大学院生研究助成(A)・(B)の申請件数について

4. 令和5年度学習サポートルーム相談員（二次募集）結果について
5. 令和5年度入学者向け入学前オリエンテーションの報告について
6. 令和5年度入学者向け MEC プログラム最終報告について

• [第3回 令和5年6月1日（木）]

【確認事項】

1. 議事要旨（案）大学教育開発センター委員会（第2回）

【審議事項】

1. 令和5年度院高度化費の使途及び予算配分額について
2. 令和5年度大学院生研究助成の採択者決定等について
3. 第18回 FD・SD 学習会の実施について
4. 令和5年度名城大学教育年報（教育実践報告）募集要項について
5. 令和6年度入学者を対象とした入学前教育の見直しについて

【報告事項】

1. 令和5年度「スタディサプリ」の申し込み結果について

• [第4回 令和5年7月6日（木）]

【確認事項】

1. 議事要旨（案）大学教育開発センター委員会（第3回）

【審議事項】

1. 入学前自校教育の動画構成について
2. 入学前教育の見直しについて
3. 各学部・研究科における FD・SD 活動報告（中間）の作成について
4. 新任教員 FD・SD 研修会／第19回 FD・SD 学習会の実施について

【報告事項】

1. 令和5年度前期授業改善アンケートの実施について

• [第5回 令和5年9月7日（木）]

【審議事項】

1. 議事要旨（案）大学教育開発センター委員会（第4回）

【審議事項】

1. 令和5年度後期名城サプリメント教育・学習サポートルームの実施について
2. 授業改善アンケート結果データの利用願いについて（理工学部）
3. 令和6年度入学者向け入学前オリエンテーションについて（案）
4. 令和6年度入学者向け MEC プログラムについて（案）

【報告事項】

1. 令和5年度前期名城サプリメント教育の実績報告について

2. 令和5年度前期学習サポートルームの実績報告について
3. 令和5年度前期授業改善アンケート集計結果報告について
4. 第18回 FD・SD 学習会実施報告について

【その他】

1. 新任教員 FD・SD 研修会／第19回 FD・SD 学習会について

• [第6回 令和5年10月5日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第5回)

【審議事項】

1. 令和5年度教育功労賞の募集について
2. 令和6年度学修成果の把握にむけた外部調査実施の希望調査について
3. 令和5年度後期授業改善アンケートの実施について
4. 第25回 FD・SD フォーラムについて
5. 入学前自校教育課題について

【報告事項】

1. 新任教員 FD・SD 研修会／第19回 FD・SD 学習会の実施報告について
2. 令和5年度前期授業改善アンケートの結果報告について
3. 令和6年度入学者向け入学前オリエンテーションの実施方法について
4. 令和5年度「スタディサプリ」後期募集申込結果について

• [第7回 令和5年11月2日(木)]【メール開催】

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第6回)

【審議事項】

1. 入学前自校教育課題における個人情報の取り扱いポリシー(案)について
2. 令和5年度各学部・研究科等における FD・SD 活動報告の作成について

【報告事項】

1. 令和6年度学修成果の把握に係る外部調査実施の希望聴取結果について

• [第8回 令和5年12月6日(水)]【メール開催】

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第7回)

【報告事項】

1. 後期授業改善アンケートについて
2. 教育年報投稿結果及び原稿確認依頼・今後のスケジュールについて
3. 第25回 FD・SD フォーラム実施報告について

4. 令和6年度入学者向け入学前オリエンテーションについて
5. 令和6年度 MS-26戦略プラン／事業計画書について

• [第9回 令和6年1月11日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第8回)

【審議事項】

1. 令和5年度教育功労賞審査について
2. 令和6年度出前講義について

【報告事項】

1. 大学コンソーシアム京都「第29回FDフォーラム」の開催案内について

• [第10回 令和6年3月7日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第9回)

【審議事項】

1. 令和6年度名城サプリメント教育及び学習サポートルームの実施について
2. 令和6年度学習サポートルーム相談員の募集について
3. 令和6年度新任教員FD・SD研修会について
4. FDニュース vol.18の発刊について

【報告事項】

1. 令和5年度後期名城サプリメント教育の実績報告について
2. 令和5年度後期学習サポートルームの実績報告について
3. 大学教育開発センター刊行物の編集状況について
 - (1) 名城大学教育年報
 - (2) FD・SD活動報告書
4. 学修成果の可視化に係る外部調査の予算配布について
5. 令和5年度後期授業改善アンケート回答結果報告について
6. 令和5年度自己点検・評価報告書(兼事業報告書)について

3. 令和5年度 FD・SD活動一覽

令和5年度 FD・SD 活動一覧

1. 第25回 FD・SD フォーラム

日 時：令和5年11月2日（木）9：30～11：45

開催方法：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

テ ー マ：大学生の授業外学習時間について考える

基調講演テーマ：大学生の学習状況について～全国データからの考察～

基調講演講師：村山 和生 氏（(株)ベネッセ・キャリア まなぶとはたらくをつなぐ研究所
主席研究員）

事例報告テーマ：授業満足度調査から改善してきた主体的な学びの取り組み事例

事例報告講師：酒井 順哉 氏（都市情報学部 教授）

参加者数：136人

2. 第18回～第19回 FD・SD 学習会

（1）第18回 FD・SD 学習会

日 時：令和5年7月10日（月）13：00～14：20

開催方法：Zoom によるオンライン開催

テ ー マ：働き方を学びほぐすアンラーニング

講 師：松尾 陸 氏（青山学院大学 経営学部 経営学科 教授）

参加者数：86人

（2）第19回 FD・SD 学習会（兼新任教員 FD・SD 研修会）

日 時：令和5年9月12日（火）13：00～14：20

開催方法：Zoom によるオンライン開催

テ ー マ：学生の主体的な学びを促す授業設計～学習到達目標から授業を見直そう！～

講 師：安部 有紀子 氏、竹永 啓悟 氏（名古屋大学 高等教育研究センター・東海国立
大学機構 QTA・GSI トレーニングセンター 准教授、特任助教）

参加者数：66人

3. 新任教員 FD・SD 研修会

2.（2）に記載。

4. 令和5年度前・後期授業改善アンケート

実施期間：前期…令和5年7月1日～令和5年7月26日

後期…令和5年12月11日～令和6年1月12日

対象科目：学部の授業を担当する専任教員及び非常勤講師について、原則1人1科目以上対象科目を持つこととし、昨年度（令和4年度）前・後期にアンケートを実施した授業科目を中心として対象科目を設定した。昨年度の対象科目がない場合は、担当授業

科目のうち、最も履修者数が多いものを対象科目とした。(ただし、体育科目、オムニバス形式の科目、実験・実習・演習科目、履修者数が10名未満の科目は除く)

実施科目数：前期777科目（学生回答数：延べ28,670件）

後期781科目（学生回答数：延べ20,776件）

概要：学生の視点から授業改善の手がかりを探り、授業改善につなげることで教育の質を向上させることを目的に実施した。アンケートはLMSであるWebClass上で実施。集計結果は教員個人にフィードバックするほか、分析結果を報告書としてまとめ、学内及びホームページにて公開している。

5. 名城大学 FD NEWS

(Vol.18) 発刊日：令和6年3月

内容：名城大生の授業外学習時間について考える

6. 名城大学教育年報 第18号発刊

発刊日：令和6年3月

投稿資格：名城大学の教職員（教員・事務職員）。本大学の教育に携わる他大学等の教育職員（非常勤講師）の投稿も可。退職者については退職後3年以内を目安とする。

概要：本学における教育活動の研究・実践活動を共有・蓄積し、広く教育の質の向上に資することを目的として、教育実践報告を募集、教育功労賞受賞者による特別寄稿を依頼した。投稿・寄稿された原稿は、大学教育開発センターの専門委員会委員によるチェックを経たうえで、本学ホームページ上に掲載する。教育年報の種別・内容等は次のとおりである。

区分	令和5年度件数	内容等
特別寄稿	3件	教育功労賞受賞者による特別寄稿
教育実践報告	4件	教育実践を対象とした取り組みで、本学及び他大学の学部・研究科・センター・部署の参考になる報告

7. 令和5年度FD・SD活動報告書発刊

発刊日：令和6年3月

概要：令和5年度の本学におけるFD・SD活動についてまとめたもの。本学ホームページ上に掲載する。

8. 教育功労賞表彰

概要：教育功労賞は、教職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的とし、各学部及び研究科等において、教育活動及び教育改善に大きく貢献した専任教員またはグループ（事務職員を含む）に授与するもの。令和5年度は計4件の申請があり、大学教育開発センター委員会による審査を経て、大学協議会で協議の結果、相応しい内容であることから、表彰すると共に本報告書に活動内容を記載し、周知を図ることとする。

【令和5年度教育功労賞受賞一覧】

1. 教育功労賞受賞者

NO.	氏名・グループ名	所属学部等	活動・テーマ
1	交換留学生受入れ 国際日本学・日本語プログラム	外国語学部 国際化推進 センター	交換留学生受入れ 国際日本学・日本語プログラム
2	新学部検討ワーキンググループ (PBL導入関係)	情報工学部	情報工学部設置に伴うPBL導入の検討
3	都竹 愛一郎	理工学部	「モノづくり」を担う人材育成のための実感教育
4	高井 宏之	理工学部	アジア4都市の超高層住宅に関する研究成果の社会への普及

2. 特別教育功労賞受賞者

該当者なし

9. 令和5年度学外セミナー・研究集会等への派遣

【大学教育開発センター把握分のみ掲載】

No.	開催日	企画名称	主催機関	派遣人数
1	令和5年 6月7日	事例報告会	公益財団法人大学基準協会	8名
2	8月21日	職業実践力育成プログラム及びキャリア形成促進 プログラム実施機関向け リカレント教育説明会	文部科学省総合・生涯学習推進課	1名
3	8月24日	令和5年度 公開FSD研修会	愛知みずほ大学・愛知みずほ短期 大学	3名
4	8月25日	2023年度 ICT利用による教育改善研究発表会	公益社団法人 私立大学情報教育協会	1名
5	9月15日	大学職員のための「学修成果の可視化と活用を考 えるセミナー」Peatix	河合塾グループ	1名

No.	開催日	企画名称	主催機関	派遣人数
6	10月18日	BI ツール (Tableau) ハンズオンセミナー	株式会社セールスフォース・ジャパン	6名
7	10月19日	第1回東海ブロック会議	数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 東海ブロック	3名
8	11月15日	「学修成果可視化」セミナー	ビズアップ総研	2名
9	11月27日	カレッジマネジメント PLUS	株式会社リクルート まなび進学情報 Division	5名
10	12月14・15日	GPS-Academic 活用事例セミナー	株式会社ベネッセ i-キャリア	1名
11	12月21日	年末特別セミナー「文理融合教育と STEM/STEAM 教育の世界最新動向」	ビズアップ総研	1名
12	令和6年1月18日	数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 2023年度関東ブロック 第6回ワークショップ	数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 関東ブロック	5名
13	2月2日	オープンバッジ大賞受賞 業界別セミナー	一般財団法人 オープンバッジ・ネットワーク	1名
14	2月23・24日	2023年度 第29回 FD フォーラム	大学コンソーシアム京都	6名
15	2月26日	第9回大学評価研究所公開研究会	公益財団法人大学基準協会	1名
16	3月2日	大学教育改革フォーラム in 東海2024	大学教育改革フォーラム in 東海2024実行委員会	4名
17	3月5日	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」説明会	文部科学省高等教育局専門教育課	7名
18	3月8日	中央大学教育力研究開発機構講演会	中央大学教育力研究開発機構	1名

4. 令和5年度 正課外教育活動一覽

令和5年度正課外教育活動一覧

1. 令和6年度入学者向け 入学前オリエンテーション

(1) 概要

- ・対象者：総合型選抜、学校推薦型選抜、特別入試の合格者を対象とし、以下の方法で実施。
- ・視聴・出席人数：846名（令和6年3月11日時点）

学部名	期間	方法	出席人数
法学部	12/8～3/31	学部HP	115名
経営学部	12/8～3/31	YouTube	106名
経済学部	12/8～3/31	YouTube	134名
理工学部	12/8～3/31	YouTube	195名
農学部	12/23	対面	80名
薬学部	12/8～3/31	YouTube	45名
都市情報学部	12/8～3/31	YouTube	45名
人間学部	12/8～3/31	YouTube	55名
外国語学部	12/8～3/31	YouTube	37名
情報工学部	12/23	Zoom	34名

(2) アンケート結果

質問1. 入学前オリエンテーションについて伺います。あなたは、主にどのような方法で視聴・参加されましたか？

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
スマートフォン	94.8%	96.2%	91.0%	91.3%	0.0%	88.9%	93.3%	94.5%	83.8%	52.9%
パソコン	4.3%	2.8%	8.2%	7.2%	0.0%	8.9%	6.7%	0.0%	13.5%	38.2%
対面	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.9%	0.9%	0.7%	1.5%	0.0%	2.2%	0.0%	5.5%	2.7%	8.8%

質問2. 学部・学科の学びについて理解できましたか。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強く思う	56.5%	48.1%	51.5%	47.7%	60.0%	71.1%	68.9%	61.8%	59.5%	55.9%
やや思う	42.6%	51.9%	47.0%	51.3%	38.8%	28.9%	28.9%	38.2%	40.5%	44.1%
どちらともいえない	0.9%	0.0%	1.5%	1.0%	1.3%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
あまり思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全く思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 3. 大学と高校の違いについて理解できましたか。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強くそう思う	69.6%	70.8%	73.9%	72.3%	73.8%	84.4%	80.0%	83.6%	75.7%	76.5%
ややそう思う	28.7%	29.2%	25.4%	27.2%	26.3%	15.6%	20.0%	16.4%	24.3%	23.5%
どちらともいえない	1.7%	0.0%	0.7%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 4. 大学で学びたい学問について考えるようになりましたか。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強くそう思う	65.2%	60.4%	53.0%	56.4%	71.3%	82.2%	71.1%	65.5%	67.6%	67.6%
ややそう思う	33.0%	39.6%	45.5%	40.5%	28.8%	17.8%	26.7%	32.7%	29.7%	32.4%
どちらともいえない	1.7%	0.0%	1.5%	2.6%	0.0%	0.0%	2.2%	1.8%	2.7%	0.0%
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 5. 大学入学前に、高校までの学習の復習が必要だと感じましたか。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強くそう思う	69.6%	75.5%	73.1%	84.1%	81.3%	100.0%	86.7%	78.2%	73.0%	88.2%
ややそう思う	26.1%	23.6%	23.1%	13.8%	15.0%	0.0%	13.3%	18.2%	21.6%	2.9%
どちらともいえない	4.3%	0.9%	3.7%	1.5%	3.8%	0.0%	0.0%	3.6%	2.7%	8.8%
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%
全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 6. クラブ・サークル活動に興味関心を持つことができましたか。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
とても興味関心を持った	53.0%	47.2%	53.0%	50.8%	53.8%	55.6%	57.8%	52.7%	45.9%	58.8%
やや興味関心を持った	39.1%	44.3%	40.3%	43.6%	41.3%	40.0%	37.8%	40.0%	40.5%	29.4%
どちらともいえない	7.8%	5.7%	6.0%	4.6%	5.0%	4.4%	4.4%	5.5%	8.1%	8.8%
あまり興味関心を持てなかった	0.0%	2.8%	0.7%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	5.4%	2.9%
全く興味関心を持てなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 7. 入学前オリエンテーションを振り返って、全体として満足しましたか。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強くそう思う	67.8%	60.4%	62.7%	59.0%	68.8%	82.2%	73.3%	70.9%	64.9%	67.6%
ややそう思う	29.6%	38.7%	33.6%	37.4%	28.8%	17.8%	24.4%	25.5%	35.1%	29.4%
どちらともいえない	2.6%	0.9%	3.7%	3.1%	2.5%	0.0%	2.2%	3.6%	0.0%	0.0%
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%
全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

2. 令和6年度入学者向け入学前学習プログラム（MECプログラム）

（1）概要

本学の総合型選抜、学校推薦型選抜、特別入試に合格後、学習習慣を維持するとともに、入学後に大学での学習を円滑に開始するための一助とすることを目的とした教育プログラム。本プログラムは、各学科で指定されている講座の中から3講座を選択し、受講する。各講座は、「プレテスト」、「オンライン授業・演習」、「課題提出」、「添削結果の確認・オンライン授業復習」、「アフターテスト」の5つのステップで構成されている。

【1講座の受講の流れ】

- ① 1講座は12単元で構成。自宅でオンライン授業を受講前にプレテストを受講。
- ② オンライン授業（DVDも可）を自宅で受講。
- ③ 各講座の指定された単元に、課題をWEB上で提出。
- ④③の課題の添削結果の確認、およびオンライン授業で復習。
- ⑤ 12単元まで受講後、アフターテストを受講。



01 プレテスト

自宅で授業を受ける前に、自分の理解力を確認。
プレテスト実施後WEB上で提出。



02 オンライン授業（DVDも可）・演習

大学の専門教育の基礎となる内容をわかりやすく解説した
授業を自宅で受講。



03 課題提出（該当单元のみ）

授業の内容を、どれだけ理解できたかを確認。
該当单元のみ、WEB上で課題を提出。



04 添削結果の確認・授業復習

03の課題の添削結果を確認し、間違えた部分については、
再度授業を確認することで復習。



05 アフターテスト

12単元の内容を、どれだけ理解できたかを確認。
アフターテスト実施後WEB上で提出。

(2) 受講者の選択科目状況（令和5年3月14日時点）

学部名	対象者数	受講者数	申込率	選択された科目名						
				国語	英語	数学	物理	化学	生物	社会
法学部	263名	132名	50.2%	132名	132名	20名	-	-	-	112名
経営学部	228名	164名	71.9%	92名	178名	111名	-	-	-	111名
経済学部	198名	137名	69.2%	43名	131名	119名	-	-	-	118名
理工学部	529名	291名	55.0%	20名	160名	376名	252名	59名	6名	-
農学部	164名	67名	40.9%	1名	60名	12名	9名	56名	63名	-
薬学部	78名	70名	89.7%	-	-	51名	46名	66名	47名	-
都市情報学部	105名	65名	61.9%	65名	65名	65名	-	-	-	-
人間学部	108名	88名	81.5%	75名	85名	36名	-	-	-	68名
外国語学部	119名	43名	36.1%	11名	98名	-	-	-	-	20名
情報工学部	96名	40名	41.7%	29名	26名	54名	11名	-	-	-
合計	1888名	1097名	58.1%	468名	935名	844名	318名	181名	116名	429名

※同一科目内で複数講座が設定されているため、選択された科目数が受講者数を超える場合があります。

(3) 実施スケジュール

【スケジュール】

案内冊子発送	12月19日（火）
申し込み締切	1月5日（金）
教材発送日	1月31日（水）
学習期間	2月5日（月）～3月24日（日）

3. 名城サプリメント教育

本学の専門教育を履修する上で特に重要な内容であるにもかかわらず、高等学校段階において未履修、もしくは学習が不十分な教科・科目について補習を行い、正課における学修の充実を図る教育プログラム。

(1) 対面実施について

実施期間：前期：令和5年4月20日～7月26日

後期：令和5年9月21日～12月22日

実施回数：各科目10回～13回

実施方法：原則対面

〈開講科目〉

科目名称	開講期・曜日・時間（キャンパス）		実施回数	参加者数※
レポート書き方 入門	前期	水曜日 16：30～18：00（天白）	13回	14名
		木曜日 16：30～18：00（ナゴヤドーム前）	13回	0名
	後期	水曜日 16：30～18：00（天白）	13回	0名
		木曜日 16：30～18：00（ナゴヤドーム前）	12回	0名
化 学	前期	月曜日 16：30～18：00（天白）	12回	22名
	後期	月曜日 16：30～18：00（天白）	12回	10名
薬学部向け物理	前期	金曜日 16：30～18：00（八事）	10回	498名

※参加者数は延べ人数

(2) スタディサプリ（オンライン実施）について

実施期間：令和5年6月1日～令和6年3月31日

実施方法：オンライン

◀受講状況（令和6年2月20日現在）▶

スタディサプリの1講座の平均講義数は、24講義となります。1講義の動画時間は平均1時間であり、倍速視聴を考慮し、12時間以上を受講完了者として算出しました。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	情報工 学部	農学部	都市情報 学部	人間 学部	外国語 学部	薬学部	全体	率
登録者数	14	9	7	34	5	38	18	14	6	12	157	－
受講完了者数 ※1	1	0	0	2	3	1	1	2	1	0	11	7%
受講未完了者数 ※2	8	4	3	18	2	25	5	8	4	6	83	53%
未着手者数 ※3	5	5	4	14	0	12	12	4	1	6	63	40%
確認テスト未着手者数 ※4	2	7	4	20	0	16	12	5	2	6	74	47%
平均視聴時間 (時間)	2.7	0.3	0.1	1.7	16.5	2.4	1.1	3.5	4.8	0.3	3.3	－
最低視聴時間 (時間)	0	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	0.0	－
最大視聴時間 (時間)	27.6	1.8	0.4	22.5	25.7	26.2	18.1	18.9	25.5	3.3	17.0	－

※1：講座視聴時間が12時間以上

※2：講座視聴時間が12時間未満（講座視聴時間が0時間の者を除く）

※3：講座視聴時間が0時間

※4：確認テスト受講数が0件

4. 学習サポートルーム

(1) 概要

主に学部生の学びに関する相談を受け付ける窓口。大学教育開発センター委員会にて選考した大学院生を在室させ、時間割を組むことにより、授業時間中は安心して相談できる体制を構築している。Zoomによる遠隔相談を選択できる形でも実施している。

また、自習スペースとして利用できるほか、室内限定で利用できるスタディサプリ学習用の端末も備えている。

〈開室時間帯〉

	前期	後期
天白キャンパス	月～木：10：50～16：20 金：10：50～12：20 13：10～16：20	月・火・水・木：10：50～16：20 金：10：50～12：20 14：50～16：20
ナゴヤドーム前 キャンパス	月・火：10：50～16：20 水・木：13：10～14：40 金：10：50～14：00	月：10：50～14：40 ※10/16以降閉室 火：10：50～16：20 ※10/16以降 14：40～16：20 水：10：50～12：20 木：10：50～14：40 金：10：50～14：30

(2) 利用者数延べ数

天白キャンパス	前期（令和5年4月20日～7月26日）	22名
	後期（令和5年9月21日～12月22日）	11名
ナゴヤドーム前 キャンパス	前期（令和5年4月20日～7月26日）	4名
	後期（令和5年9月21日～12月22日）	5名

(3) 相談内容（利用実績）

- 授業の内容、課題についての相談
- レポートの書き方に関する相談
- 学習計画に関する相談
- 履修登録に関する相談
- 発表方法・プレゼンテーションスキル・グループワークに関する相談
- 研究室配属に関する相談

**5. 令和5年度
各学部・研究科等における
FD・SD 活動報告**

各学部・研究科等における FD・SD 取組を推進する組織一覧

学部	推進組織名	推進組織構成メンバー
法学部	FD・SD 委員会	法学部長、協議員、大学教育開発センター委員 (教務委員、学生委員の兼任を含む)、FD・SD 委員
法学研究科	FD・SD 研究会	修士課程部会および博士後期課程部会構成員全員
経営学部	GP 等教育支援プロジェクト 委員会・経営学部 FD・SD 委員会	経営学部長、経営学部協議員、経営学科長、国際経営学科長、 キャリア委員、教務委員、大学教育開発センター委員、担当 委員
経営学研究科	研究科委員会	経営学研究科長、主任教授、経営学部協議員、経営学研究科 長が指名した者
経済学部	経済学部 FD・SD 委員会	経済学部長、協議員、経済学科長、産業社会学科長、教務委員
経済学研究科	経済学研究科 FD・SD 委員会	研究科長、主任教授、研究科委員
理工学部	理工学部 教育改善委員会	委員長、学科委員 (11名)、教養教育委員、物理教室委員、 教務委員長、学部評価副委員長、大学教育開発センター委員 (2名)、事務職員 (2名)
理工学研究科	理工学研究科 教育改善委 員会	委員長、専攻委員 (11名)、教養教育委員、物理教室委員、 教務委員長、学部評価副委員長、大学教育開発センター委員 (2名)、事務職員 (2名)
情報工学部	情報工学部 FD・SD 委員会	委員長 (協議員) 1名、委員 4名、担当事務職員 1名
農学部	農学部 FD・SD 委員会	農学部 FD・SD 委員を中心とする農学部関係教職員 (生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の各学科 会議および農場教員会議を分科会と位置づける)
農学研究科	農学研究科 FD・SD 委員会	農学研究科大学院運営委員会 (農学研究科主任教授、農場長、 生物資源学科長、応用生物化学科長、生物環境科学科長、農 学部学務担当職員で構成)
薬学部	薬学部 FD・SD 委員会	FD・SD 委員長、協議員、教務委員長、学生委員長、就職委 員長、国試・CBT 対策委員長、教育開発センター長、前 FD・SD 委員長、教務係事務職員 1名
薬学研究科	大学院薬学研究科 FD・SD 委員会	薬学研究科主任教授、FD・SD 委員 2名、大学院担当事務職 員 1名。委員長は薬学研究科主任教授を充てる。
都市情報学部	都市情報学部 FD・SD 委員会	委員長、委員 4名、担当事務職員 1名
都市情報学研究科	大学院学務委員会	委員長 (主任教授)、委員 4名、担当事務職員 1名
人間学部	人間学部 FD・SD 委員会	FD・SD 委員長、FD・SD 委員 (4名)、教務事務職員 1名
人間学研究科	人間学研究科 FD・SD 委員会	FD・SD 委員長 (主任教授)、FD・SD 委員 (2名)、教務事 務職員 1名
外国語学部	外国語学部 FD・SD 委員会	FD・SD 委員会委員長、FD・SD 委員会委員 (3名)
総合学術研究科	総合学術研究科教育検討部会	◎志村ゆず准教授 ○神藤定生准教授 伊藤康児教授 衣斐大祐准教授 香村恵介准教授
教職センター	教職センターFD・SD 委員会	木村美奈子 (准教授・大学教育開発センター委員会委員) 谷口正明 (教授・教職センター)

5) 成績評価基準の平準化について (FD/SD)

学部にかかる授業科目の GP 分布を算出し、現状について周知を行い、授業方法の改善と GP の制度設計のあり方について意見交換を行った (9月21日実施)。とりわけ同一科目で担当者が異なる場合については、担当者同士の情報交換を密にしながら授業を展開することが妥当との結論に達し、各部門においてそのための取り組みが始められることとなった。また GP の制度設計については、全学的な GP 制度の変更にともない、とくに演習科目における S 評価のあり方について議論が深められた。

2. 今後の課題、方向性

本学部においては、とりわけ初年次教育研究会を中心とした FD・SD 活動が定着しつつあり、教員間の授業運営にかかる意識と知識の共有はかなりの程度において進んできている。したがって、基本的には大きく体制を変化させることなく、これまでの成果をさらに発展させる方向での活動を行いたい。ただし、FD・SD 活動を組織的かつ系統的なものとし、学部での定着を図るため、FD・SD 委員会の運用を改善する試みが必要であると思われ、実際にその取り組みを開始しているところである。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和5年 4月3日～5月31日	GPS-Academic の実施 (1年次対象)	SD	【実施主体】 FD・SD 委員会
2	令和5年4月28日	GPA 制度の見直しにかかる検討 [第1回 FD・SD 委員会 (メール審議)]	SD	仁井田、松本、西村、萩野、代田 計5名
3	令和5年5月25日	今年度における FD・SD 活動計画の策定 [第2回 FD・SD 委員会]	SD	仁井田、松本、西村、萩野、代田 計5名
4	令和5年7月14日	入学前教育における科目選定について [第3回 FD・SD 委員会 (メール審議)]	SD	仁井田、松本、西村、萩野、代田 計5名
5	令和5年7月31日	新任教員との意見交換会	SD	仁井田、萩野、代田、見崎、薬袋、 濱村 計6名
6	令和5年9月13日	成績評価基準の平準化にかかる検討 [第4回 FD・SD 委員会 (メール審議)]	SD	仁井田、松本、西村、萩野、代田 計5名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
7	令和5年9月21日	授業運営のあり方という観点からの成績評価基準の平準化にかかる検討	FD	【出席教員】 伊川、伊藤（博）、伊藤（亮）、植木、 仮屋、河北、川元、北見、近藤、 庄村、高松、西村、二本柳、野口、 日比野、前田、松田、松本、柳澤、 柳沢、渡邊、高橋、田中、米田、 川原、笹岡、代田、杉浦、滝谷、 仁井田、萩野、長谷川、見崎、薬袋、 矢嶋、山口、山下、久米、佐藤、 仲 計40名
		GPのより良い制度設計についての検討	SD	
8	令和5年9月28日 ～10月30日	GPS-Academicの実施（3年次対象）	SD	【実施主体】 FD・SD委員会
9	令和6年1月5日	小論文講評会の実施	SD	【実施主体】 FD・SD委員会
10	令和6年1月25日	初年次を対象にした正課授業の展開における成果と課題について〔第5回FD・SD委員会〕	FD	仁井田、松本、西村、萩野、代田 計5名
11	令和6年2月29日	【初年次教育研究会】 「法学入門」における反転授業の展開	FD	【出席教員】 伊川、伊藤（亮）、伊藤（博）、植木、 仮屋、河北、川元、川原、北見、 近藤、庄村、代田、高橋、滝谷、 田中、仲、仁井田、西村、二本柳、 野口、萩野、長谷川、濱村、前田、 松本、薬袋、見崎、矢嶋、柳澤、 柳沢、山下、山口、渡邊 計33名
		【初年次教育研究会】 GPS-Academicと小論文試験、「政治学入門」定期試験の結果から見る学修成果の状況について	SD	

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 法学研究科 ）

1. 令和5年度の活動報告

（1）修士論文中間報告会

修士課程2年の学生1名が、修士論文のテーマに関する判例を挙げて分析する形で報告を行った。ひきつづき、参加した教員・学生と報告者の間で質疑応答が行われた。質疑応答後、研究科委員会FD・SD部会として論文指導・中間報告のあり方について議論を行った。

（2）大学院法学研究科修士課程一般入学試験の面接試験の運用の検討・改革

従来の論文試験2科目と外国語1科目による試験およびその名称を、「専修科目」1科目・「選択科目」1科目の「筆記試験」に改めたことをうけて、面接試験の運用について検討を加えた。

その結果、「面接官の人数および構成」について、従来の2名から「2名または3名」に変更するとともに、外国語を選択科目とした受験者の面接官のうち1名は、受験者が選択した専修科目以外の担当教員とすること、面接官の人数および構成は、専修分野の意思を尊重のうえ、研究科長・大学院主任教授・専修科目担当教員の合意に基づいて決定した。

（3）博士後期課程のコースワーク（平成31年度導入）とリサーチワークの検証

平成31年度より博士後期課程のコースワークとリサーチワークを明確に分けたカリキュラム改正を行い、令和3年度に完成年度を迎えたことを受け、博士後期課程指導教員・科目担当教員から報告を行った。

2. 今後の課題、方向性

（1）修士論文中間報告会

今年は報告者が1名であったため質疑応答を長くとったが、来年は報告者が多くなることが予想されるため、質疑応答の時間がより短くなる。

（2）大学院法学研究科修士課程一般入学試験の面接試験の運用の検討・改革

今年度は従来の2名に加えて、3名の面接官による面接試験も行われることになるが、その効果や問題点を確認したうえで、来年度の運用を検討することになる。

（3）博士後期課程のコースワーク（平成31年度導入）とリサーチワークの検証

博士後期課程論文提出者が1名出たことから、コースワーク（平成31年度導入）とリサーチワークの検証を踏まえて、今後の指導の在り方を検討する。また、博士論文公聴会も実施されたため、そのあり方についても、検討することになる。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和5年9月6日	修士論文中間報告会 ・修士論文指導のあり方について ・修士論文中間報告会のあり方について	FD	【出席教員】 前田(研究科長)、渡邊(主任教授)、伊川(指導教員)、河北、北見、庄村 計6名(大学院生5名参加)
2	令和5年9月7日	第9回大学院法学研究科委員会【修士課程部会】 ・大学院法学研究科修士課程一般入学試験の面接試験の運用について	SD	【出席教員】 伊川、伊藤(博)、伊藤(亮)、植木、仮屋、河北、川元、北見、近藤、庄村、高松、西村、二本柳、野口、日比野、前田、松田、松本、柳沢、渡邊、川原、笹岡、代田、杉浦、滝谷、仁井田、萩野、長谷川、見崎、薬袋、矢嶋、山下 計32名
3	令和5年9月8日 ～9月15日	大学院法学研究科委員会【修士課程部会】(メール会議) ・大学院法学研究科修士課程一般入学試験の面接試験の運用について	SD	【出席教員】 伊川、伊藤(博)、伊藤(亮)、植木、仮屋、高松、西村、二本柳、野口、前田、松田、松本、柳澤、柳沢、渡邊、笹岡、代田、滝谷、仁井田、萩野、長谷川、見崎、薬袋、矢嶋 計24名
4	令和5年9月21日	第10回大学院法学研究科委員会【修士課程部会】 ・大学院法学研究科修士課程一般入学試験の面接試験の運用について	SD	【出席教員】 伊川、伊藤(博)、伊藤(亮)、植木、仮屋、河北、川元、北見、近藤、庄村、高松、西村、二本柳、野口、日比野、前田、松田、松本、柳澤、柳沢、渡邊、川原、笹岡、代田、杉浦、滝谷、仁井田、萩野、長谷川、見崎、薬袋、矢嶋、山口、山下 計34名
5	令和5年12月21日	令和5年度第1回FD・SD研究会 【FD】 ・修士論文中間報告会・博士論文公聴会について ・博士後期課程のコースワーク(平成31年度導入)とリサーチワークの検証 【SD】 ・修士の面接試験3人制の運用の検証	FD・SD	【出席教員】 伊藤(博)、伊藤(亮)、植木、仮屋、河北、川元、北見、近藤、高松、西村、野口、日比野、前田、松田、松本、柳澤、柳沢、渡邊、川原、笹岡、代田、杉浦、滝谷、仁井田、萩野、長谷川、見崎、薬袋、矢嶋、山口、山下 計31名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
6	令和6年2月16日	<p>令和5年度第2回FD・SD研究会</p> <p>【FD】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①ディプロマポリシーに基づくシラバスの作成、それに沿った授業、 ②学生の主体的な参加を促す授業形態、③研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導、④学生の学修時間（予習・復習）を確保するための方策、⑤厳格な成績評価を行うための方策 ・修士課程修了までの研究指導の振り返り <p>【SD】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士論文審査のあり方（予備審査、本審査、公聴会等）について 	FD・SD	<p>【出席教員】</p> <p>伊川、伊藤（博）、伊藤（亮）、植木、 仮屋、河北、川元、北見、近藤、 庄村、高松、西村、二本柳、野口、 日比野、前田、松田、柳澤、柳沢、 渡邊、川原、笹岡、代田、杉浦、 仁井田、萩野、長谷川、見崎、薬袋、 矢嶋、山口、山下 計32名</p>

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経営学部 ）

1. 令和5年度の活動報告

①学修成果を可視化する取組

- ・2023年度第2回経営学部FD・SD研修会において、本年度も「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の実施を決定した。
- ・2023年度第4回経営学部FD・SD研修会において、「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の実施形態、実施体制と役割分担、周知方法について決定した。
- ・経営学部懇談会の援助によって、簿記・情報処理・TOEIC他の各種資格取得を促している。
- ・専門ゼミナール単位での、インゼミ他に参加することを支援している。

②学部独自の取組

(i) 学生の主体的な学びに関する取組、かつ、多様な学修経験に関する取組

- ・「学びのコミュニティ創出支援事業」の資金的支援によって、「産官学」連携による新たなスマートモビリティサービス事業の創出、「ビジネスモデル」をキーワードとした創造的課題解決能力の育成事業、女子学生のキャリア形成支援事業、「会計実務能力」の形成などの事業を実施した。
- ・多様な学修経験の機会のため、ゼミナールなどで、企業訪問を行う予算を実験実習費で措置している。
- ・多様な学修経験の機会のため、ゼミナールなどで、企業の方を外部講師として招く予算を実験実習費で措置している。
- ・基礎ゼミナールの一部において、FSP講座を導入し、入学初年度から、実際の企業の現場での課題に触れる機会を持ち、大学での学びについて主体的に考えるよう促している。
- ・FSP講座を4社の協力により「基礎ゼミナール」(1年配当)4クラスで実施した。
- ・「輝く女性講演会」等の行事として講演会およびマナー講座を実施した。
- ・アカデミック・ハラスメント事例をもとにハラスメント研修会を実施した。

(ii) カリキュラム改正検討委員会の設置

- ・現行カリキュラムの問題点を検討し、より質の高い教育を可能とするカリキュラムの策定を行うためにカリキュラム改正検討委員会を設置し、議論を進めている。

(iii) 経営学部将来構想検討委員会の設置

- ・現行カリキュラムの検討とは別に、より長期的な視点に立って学部の在り方を検討する委員会を設置し、議論を進めている。

2. 今後の課題、方向性

名城大学および経営学部が目指す「生涯学びを楽しむ」「学びのコミュニティを創り広げる」ため、継続的な産官学連携を可能とする（特定の個人に依存しない）制度的な受け皿の形成が課題となっている。そして、学部の取組については、今後もPDCAサイクルを推進する組織として、FD・SD委員会とGP等教育支援プロジェクト委員会を一体化し、実学としての経営学部の教育についてFD活動を進めていく。

同委員会は、学部長・協議員・両学科長・キャリア委員・教務委員・FD委員（オブザーバーとして事務長）をメンバーとして、毎月1回の開催を目安に招集し、その都度、学部のGP/FD・SD活動の年度計画のPDCA活動を行うとともに、教授会開催前に、全構成員で教育改善のための議論を行っている。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	【FD・SD研修会】 2023年度 第1回 令和5年4月13日	2023年度学びのコミュニティ創出支援事業について、2022年度被災地支援活動にかかる寄付について、経営学部教員・ゼミへの産官学連携依頼について、東邦高等学校との高大連携プロジェクトについて、輝く女性講演会について、FSPについて	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、木下（委任者：大西には別途資料配布）（計30名）
2	【教授会】 第1回 令和5年4月13日	障がい等を理由とする修学支援について	SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、木下（委任者：大西には別途資料配布）（計30名）
3	【教授会】 第2回 令和5年4月27日	障がい等を理由とする修学支援について	SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、東、澤田（慎）、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、木下（計29名）（委任者：新美、田中には別途資料配布）深川、木下

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	【教授会】 第3回 令和5年5月11日	定期試験の実施方法及び試験アンケートについて、令和6年度学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、深川、木下（委任者：中川には別途資料配布）（計30名）
5	【FD・SD 研修会】 2023年度 第2回 令和5年5月25日	2023年度 PROG テストの実施について、各種「学びのコミュニティ」募集結果について、2023年度経営学部「学びのコミュニティ創出支援事業」の支援額について、経営学部教員・ゼミへの産官学連携依頼について、東邦高等学校との高大連携プロジェクトについて、輝く女性講演会について、令和5年度（2023年度）学部就職関係費執行について	FD・SD	五十畑、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、槇野、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、木下（委任者：伊藤、橋場、田中、柳田には別途資料配布）（計27名）
6	【教授会】 第4回 令和5年5月25日	GPA 制度の見直しについて	FD	五十畑、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、槇野、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、木下（委任者：伊藤、橋場、田中、柳田には別途資料配布）（計27名）
7	【教授会】 第5回 令和5年6月8日	障がい等を理由とする学生の試験時の対応依頼について、令和6年度学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、木下（委任者：堀川には別途資料配布）（計30名）
8	【教授会】 第6回 令和5年6月22日	シラバスに記載したフィードバックの実施について	FD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、森田、金丸（計32名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
9	【教授会】 第7回 令和5年7月13日	令和5（2023）年度夏期英語研修実施に伴う単位認定の検討について	FD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、榎野、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、森田、金丸（委任者：五十畑には別途資料配布）（計31名）
10	【FD・SD研修会】 2023年度 第3回 令和5年7月27日	「学びのコミュニティ」関連について、ミライアンス・中小企業家同友会とのキャリアイベントについて、2024年度キャリア特論開講に向けて、2023年度FSP振り返り、PROGテストの実施時期について、愛知県社会保険労務士会寄附講座について、海外インターンシップに係るプログラムの紹介と要望について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、榎野、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、森田、金丸（計32名）
11	【教授会】 第8回 令和5年7月27日	腰椎椎間板ヘルニア学生の試験時の配慮・対応について、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に関わる科目整備に伴う対応について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、榎野、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、森田、金丸（計32名）
12	【教授会】 第9回 令和5年9月7日	障がい等を理由とする修学支援について	SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、長尾、橋場、榎野、柳田、相川、東、澤田（慎）、村上、関、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、森田、金丸（委任者：鳥居、新美、大西、桑島には別途資料配布）（計28名）
13	【FD・SD研修会】 2023年度 第4回 令和5年9月21日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について、各種「学びのコミュニティ」について、ミライアンス・中小企業家同友会とのキャリアイベントについて、PROGテストについて	FD・SD	五十畑、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、森田、金丸（委任者：伊藤、榎野には別途資料配布）（計30名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
14	【教授会】 第10回 令和5年9月21日	2023年度後期 資格等による単位認定について、2024年度 編入学試験入学前修得単位認定（案）について、障がい等を理由とする修学支援について	FD・SD	五十畑、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、森田、金丸（委任者：伊藤、楨野には別途資料配布）（計30名）
15	【教授会】 第11回 令和5年10月12日	経営学部将来構想検討委員会について	FD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、楨野、柳田、相川、東、澤田（慎）、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、森田、金丸（委任者：新美には別途資料配布）（計31名）
16	【FD・SD 研修会】 2023年度 第5回 令和5年10月26日	第25回 FD・SD フォーラムについて、外部テスト CASEC の受験について、各種「学びのコミュニティ」について、ミライアンス・中小企業家同友会とのキャリアイベントについて、PROG テストについて、東邦高等学校・経営学部ゼミ体験会について、キッチンカー販売による収益の寄附贈呈式について、ハラスメント研修について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、楨野、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、森田、金丸（委任者：田中には別途資料配布）（計31名）
17	【教授会】 第12回 令和5年10月26日	「海外語学実習」の単位認定について、愛知学長懇話会 令和6年度単位互換事業について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、楨野、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、森田、金丸（委任者：田中には別途資料配布）（計31名）
18	【教授会】 第13回 令和5年11月9日	「基礎ゼミナール」の統一シラバスについて	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、楨野、柳田、相川、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、森田、金丸（委任者：東、田中には別途資料配布）（計30名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
19	【教授会】 第14回 令和5年11月30日	PROG テストの結果について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、大西、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、森田、金丸（委任者：関には別途資料配布）（計31名）
20	【教授会】 第15回 令和5年12月14日	次年度の学びのコミュニティ創出支援事業の申請について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、橋場、槇野、柳田、相川、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、桑島、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、森田、金丸（委任者：長尾、東、田中には別途資料配布）（計29名）
21	【教授会】 第16回 令和6年1月11日	高等教育の修学支援新制度に係る実務経験のある教員・担当科目等の情報提供及びシラバスへの実務経験と授業内容の関係の確認について、教員業績評価の評価項目・評価基準等について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、東、澤田（慎）、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本、深川、森田、金丸（委任者：新美、大西には別途資料配布）（計30名）
22	【教授会】 第17回 令和6年1月25日	令和5（2023）年度春期海外英語研修実施に伴う単位認定の検討について、大学設置基準に定める主要授業科目の調査について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、澤田（慎）、新美、村上、大西、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、深川、森田、金丸（委任者：東、関、山本には別途資料配布）（計29名）

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経営学研究科 ）

1. 令和5年度の活動報告

①研究科独自の取組

- ・後期に修士論文事前報告会を実施。
- ・在学生向けの対面での説明会、交換留学生および海外指定校向けのオンライン対面併用での説明会をそれぞれ前期・後期に1回計4回開催。

2. 今後の課題、方向性

入学定員確保に向けての説明会の在り方、特に社会人を含む学外者への周知方法が課題である。また、学生確保における日本語運用力問題解決の試みを含め、海外協定校との連携強化および愛知県社会保険労務士会等との連携強化の他、学内の他研究科との連携についても協議する。また、学生の学修成果を可視化する取組として、学部における「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の結果を踏まえ、大学院における学修成果可視化の外部調査導入の検討（予算措置含む）を行う。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	【研究科委員会】 令和5年4月13日	令和5年度経営学研究科修士課程指導教員について、2023年度（9月）修士学位論文提出要領について	FD	相川、五十畑、伊藤、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本、深川、木下（委任者：大西、中川には別途資料配布）（計21名）
2	【研究科委員会】 令和5年4月27日	令和5年度経営学研究科修士課程指導教員について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山本、深川、木下（委任者：田中、山岡には別途資料配布）（計21名）
3	【研究科委員会】 令和5年5月11日	9月修了修士学位論文事前報告会について、令和6年度学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本、深川、木下（委任者：中川には別途資料配布）（計22名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	【研究科委員会】 令和5年5月25日	令和5年度大学院学業優秀奨学生候補者の選考について	FD	相川、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、西垣、東田、堀川、山岡、山本、深川、木下（委任者：五十畑、伊藤、田中、橋場、柳田には別途資料配布）（計18名）
5	【研究科委員会】 令和5年6月8日	令和6年度学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検の実施について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、柳田、山本、深川、森田（委任者：田中、堀川、山岡には別途資料配布）（計20名）
6	令和5年6月22日	令和5年度 後期追加（変更）履修登録について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本、深川、森田（計23名）
7	令和5年7月13日	令和5年度 大学院学業優秀奨学生候補者の推薦について	FD	相川、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本、深川、森田（委任者：五十畑には別途資料配布）（計22名）
8	令和5年7月27日	入学者受け入れ方針（AP）と令和6年度入試方法との対応表について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、山岡、山本、深川、森田（委任者：柳田には別途資料配布）（計22名）
9	令和5年9月7日	令和5年度 修士学位論文審査日程について	FD	相川、五十畑、伊藤、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、長尾、中川、西垣、橋場、東田、柳田、山岡、山本、深川、森田（委任者：大西、田中、鳥居、堀川には別途資料配布）（計19名）
10	令和5年9月21日	令和5年度 修士学位論文提出要領について	FD	相川、五十畑、大西、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、柳田、堀川、山岡、山本、深川、森田（委任者：伊藤、澤田（慎）、田中には別途資料配布）（計20名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
11	令和5年10月12日	2024年度経営学研究科（修士課程） 時間割編成について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本、深川、森田（計23名）
12	令和5年10月26日	2024年度経営学研究科（修士課程） 時間割編成について《継続》、2023年度 経営学研究科修士学位論文事前報告 会（案）について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本、深川、森田（委任者：田中には別途資料配布）（計22名）
13	令和5年11月9日	2024年度経営学研究科（修士課程） 時間割編成および時間割案について 《継続》、2024年度シラバスの作成に ついて	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、堀川、柳田、山岡、山本、深川、森田（委任者：田中、東田には別途資料配布）（計21名）
14	令和5年11月30日	令和5年度経営学研究科修士学位論文 一覧について、2024年度経営学研究 科（修士課程）時間割編成および 時間割案について《継続》、「MS-26 戦略プラン（部署版）」「2024年度事業 計画書（部署版）」について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本、深川、森田（計23名）
15	令和5年12月14日	令和6年度経営学研究科《修士課程》 入学試験出題委員等について、2024 年度経営学研究科（修士課程）時間 割案について《継続》	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本、深川、森田（委任者：田中、長尾には別途資料配布）（計21名）
16	令和6年1月11日	令和5年度大学院入学試験出題（採 点）委員等について	FD	相川、五十畑、伊藤、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本、深川、森田（委任者：大西には別途資料配布）（計22名）
17	令和6年1月25日	2024（令和6）年度経営学研究科（修 士課程）入学試験判定について、 2023年度修士学位論文審査委員およ び審査日程案について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、深川、森田（委任者：山本には別途資料配布）（計22名）

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経済学部 ）

1. 令和5年度の活動報告

今年度の活動目標を「新型コロナ5類移行後も、前年度から引き続き“誰一人取り残さない”という考え方を継承し、教育内容、教育環境、教育技法の改善に取り組む」とし、FD・SD取組を推進する組織一覧表に明記した。7月のFD・SD懇談会において「ハラスメント防止に向けた取り組み」としてDVDの視聴と意見交換を行った。12月にはFD・SD懇談会「一人一人の修学意欲の向上を促す対策の検討」を開催し、具体的な事例をもとに教員間で活発な意見交換を行った。

全学的な今年度の共通テーマとなった「学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善」については、10月に学部3年生を対象として「大学生調査 ジェイ・サーブ」を実施した。2月中に集計結果を分析し、教育改善へとつなげていく所存である。

大学教育開発センターの主催で開催された第18、19回FD・SD学習会に、それぞれ3名から5名の教員が、第25回FD・SDフォーラムには6名の教員が参加した。

2. 今後の課題、方向性

春にコロナ感染対策上の行動制限が撤廃されたことから、今年度はコロナ後の大学教育活動の充実を図ってきたが、この点については今後も継続する必要がある。また「MS-26戦略プラン（部署版）」「2023年度事業計画書（部署版）」に即した取り組みも求められている。とくに「FD・SD取組を推進する組織」の中の今年度の具体的取り組み内容で、「“誰一人取り残さない”という考え方を重視し、一人一人の修学意欲の向上を促す対策」について今年度新たに言及したなかで、これに即したFD・SD懇談会を可能な限り進めてきたが、この先もさらに継続して取り組んでいきたい。

全学的な今年度の共通テーマとなった「学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善」については、ダッシュボード掲載の各種資料とジェイ・サーブや卒業時アンケートなどの集計結果をふまえて学部FD・SD懇談会において報告し教育改善に結びつけることを検討する。なお来年度は、学修成果を可視化する取り組みについて、GPS-Academic を利用しての把握を実施予定である。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和5年5月19日	経済学部FD・SD委員会「FD・SD取組を推進する組織について」(新年度の修正、更新)	SD	勝浦、伊藤(健)、伊藤(志)、杉本、赤木、名和、薄井(以上7名)
2	令和5年5月25日	経済学部FD・SD懇談会「FD・SD取組の推進組織の更新について」(新年度の修正、更新)	SD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、松尾、赤木、大瀧、蓑輪、焼田、李、伊藤(健)、井内、蟹、渋谷、杉本、山本、門、小泉、山田、澤田、薄井(以上26名)
3	令和5年7月3日	経済学部FD・SD委員会「ハラスメント防止に向けた取り組み」(FD・SD懇談会での視聴DVDの選定)	SD	勝浦、伊藤(健)、赤木、名和、薄井(以上5名)
4	令和5年7月6日	経済学部FD・SD懇談会「ハラスメント防止に向けた取り組み」(DVD『パワハラと指導の違いを学ぶ』(本編約26分)の視聴と意見交換)	SD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、野口、松尾、赤木、大瀧、神野、蓑輪、焼田、伊藤(健)、井内、蟹、渋谷、杉本、太田、門、小泉、山田、澤田、薄井(以上26名)
5	令和5年7月10日	名城大学第18回FD・SD学習会「働き方を学びほぐすアンラーニング」(大学教育開発センター)	SD	山本、澤田、名和(以上3名)
6	令和5年9月7日	教授会「教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について」(成績評価(得点分布)一覧によって各科目の分布状況を共有し、個々の担当科目と他の教員、教科との比較を行った。)	FD	勝浦、川森、斎藤、谷村、名和、西山、野口、赤木、大瀧、蓑輪、焼田、伊藤(健)、蟹、渋谷、杉本、山本、太田、門、山田、薄井(以上20名)
7	令和5年9月12日	新任教員FD・SD研修会/第19回FD・SD学習会「学生の主体的学びを促す授業設計～学習到達目標から授業を見直そう」(大学教育開発センター)	FD	山本、蟹、小泉、壺内、名和(以上5名)
8	令和5年9月13日	経済学部FD・SD委員会「FD・SD活動報告(中間)、前期のFD・SD活動、後期のFD・SD活動」	SD	勝浦、伊藤(健)、伊藤(志)、杉本、赤木、名和、薄井(以上7名)
9	令和5年9月21日	経済学部FD・SD懇談会「FD・SD活動報告(中間)、前期のFD・SD活動、後期のFD・SD活動」「全学避難訓練の事前確認」	SD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、松尾、大瀧、神野、焼田、伊藤(健)、井内、蟹、渋谷、杉本、門、小泉、澤田、薄井(以上21名)
10	令和5年10月19日	経済学部FD・SD委員会「学修成果の把握に向けた外部調査の実施について」	FD	勝浦、伊藤(健)、伊藤(志)、杉本、赤木、名和、薄井(以上7名)
11	令和5年10月	「大学生調査ジェイ・サーブ」実施	FD	-

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
12	令和5年11月2日	名城大学 第25回 FD・SD フォーラム「大学生の授業外学習時間について考える」(大学教育開発センター)	FD	野口、山本、谷村、名和、澤田、伊藤 (以上6名)
13	令和5年12月15日	経済学部 FD・SD 委員会「一人一人の修学意欲の向上を促す対策の検討」	FD	勝浦、伊藤(健)、伊藤(志)、杉本、赤木、名和、薄井 (以上7名)
14	令和5年12月21日	経済学部 FD・SD 懇談会「一人一人の修学意欲の向上を促す対策の検討」	FD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、野口、松尾、赤木、大瀧、神野、蓑輪、李、伊藤(健)、井内、蟹、渋谷、杉本、山本、太田、門、山田、澤田、薄井 (以上27名)
15	令和6年1月17日	経済学部 FD・SD 委員会「今年度(2023年度)のFD・SD活動に関する報告書(案)について」	SD	勝浦、伊藤(健)、伊藤(志)、杉本、赤木、名和、薄井 (以上7名)
16	令和6年1月25日	経済学部 FD・SD 懇談会「今年度(2023年度)のFD・SD活動に関する報告書(案)について」	SD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、松尾、赤木、大瀧、蓑輪、伊藤(健)、井内、蟹、渋谷、杉本、山本、太田、門、小泉、澤田、薄井 (以上24名)
17	令和6年2月10日	経済学部 FD・SD 委員会「学修成果の可視化・評価・改善に向けて - 「ジェイ・サープ」と「学部ダッシュボード」による検討を中心に -」(学生の主体的な参加を促す授業形態の検討、学修時間の状況把握と増加策の模索、その他)	FD	勝浦、伊藤(健)、伊藤(志)、杉本、赤木、名和、薄井 (以上7名)
18	令和6年2月14日	経済学部 FD・SD 懇談会「学修成果の可視化・評価・改善に向けて - 「ジェイ・サープ」と「学部ダッシュボード」による検討を中心に -」(学生の主体的な参加を促す授業形態の検討、学修時間の状況把握と増加策の模索、その他)	FD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、野口、松尾、赤木、大瀧、蓑輪、李、伊藤(健)、井内、蟹、渋谷、杉本、山本、太田、山田、澤田、薄井 (以上25名)

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経済学研究科 ）

1. 令和5年度の活動報告

今年度の活動目標を「新型コロナ5類移行後も、前年度から引き続き“誰一人取り残さない”という考え方を継承し、教育内容、教育環境、教育技法の改善に取り組む」とし、FD・SD取組を推進する組織一覧表に明記した。7月のFD・SD懇談会において「ハラスメント防止に向けた取り組み」としてDVDの視聴と意見交換を行った。12月にはFD・SD懇談会「一人一人の修学意欲の向上を促す対策の検討」を開催し、具体的な実例をもとに教員間で活発な意見交換を行った。

大学教育開発センターの主催で開催された第18、19回FD・SD学習会に、それぞれ3名から5名の教員が、第25回FD・SDフォーラムには6名の教員が参加した。

2. 今後の課題、方向性

春にコロナ感染対策上の行動制限が撤廃されたことから、今年度はコロナ後の大学教育活動の充実を図ってきたが、この点については今後も継続する必要がある。また「MS-26戦略プラン（部署版）」「2023年度事業計画書（部署版）」に即した取り組みも求められている。

全学的な今年度の共通テーマとなった「学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善」については、ジェイ・サープや卒業時アンケートを活用できる学部と異なり、研究科での手法は更なる検討が必要であり、この点をFD・SD懇談会などにおいて追究する。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD区分	出席者
1	令和5年5月19日	経済学研究科FD・SD委員会「FD・SD取組を推進する組織について」(新年度の修正、更新)	SD	勝浦、佐土井、赤木、名和、薄井(以上5名)
2	令和5年5月25日	経済学研究科FD・SD懇談会「FD・SD取組の推進組織の更新について」(新年度の修正、更新)	SD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、松尾、赤木、大瀧、蓑輪、焼田、李、伊藤(健)、井内、蟹、渋谷、杉本、山本、門、山田、薄井(以上24名)
3	令和5年7月3日	経済学研究科FD・SD委員会「ハラスメント防止に向けた取り組み」(FD・SD懇談会での視聴DVDの選定)	SD	勝浦、佐土井、赤木、名和、薄井(以上5名)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	令和5年7月6日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「ハラスメント防止に向けた取り組み」(DVD『パワハラと指導の違いを学ぶ』(本編 約26分)の視聴と意見交換)	SD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、野口、松尾、赤木、大瀧、蓑輪、焼田、伊藤(健)、井内、蟹、渋谷、杉本、太田、門、山田、薄井(以上24名)
5	令和5年7月10日	名城大学 第18回 FD・SD 学習会「働き方を学びほぐすアンラーニング」(大学教育開発センター)	SD	山本、澤田、名和(以上3名)
6	令和5年9月12日	新任教員 FD・SD 研修会/第19回 FD・SD 学習会「学生の主体的学びを促す授業設計～学習到達目標から授業を見直そう」(大学教育開発センター)	FD	山本、蟹、小泉、壺内、名和(以上5名)
7	令和5年9月13日	経済学研究科 FD・SD 委員会「FD・SD 活動報告(中間)、前期のFD・SD 活動、後期のFD・SD 活動」	SD	勝浦、佐土井、赤木、名和、薄井(以上5名)
8	令和5年9月21日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「FD・SD 活動報告(中間)、前期のFD・SD 活動、後期のFD・SD 活動」「全学避難訓練の事前確認」	SD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、松尾、大瀧、焼田、伊藤(健)、井内、蟹、渋谷、杉本、門、薄井(以上18名)
9	令和5年11月2日	名城大学 第25回 FD・SD フォーラム「大学生の授業外学習時間について考える」(大学教育開発センター)	FD	野口、山本、谷村、名和、澤田、伊藤(以上6名)
10	令和5年12月15日	経済学研究科 FD・SD 委員会「一人一人の修学意欲の向上を促す対策の検討」	FD	勝浦、佐土井、赤木、名和、薄井(以上5名)
11	令和5年12月21日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「一人一人の修学意欲の向上を促す対策の検討」	FD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、野口、松尾、赤木、大瀧、蓑輪、李、伊藤(健)、井内、蟹、渋谷、杉本、山本、太田、門、山田、薄井(以上25名)
12	令和6年1月17日	経済学研究科 FD・SD 委員会「今年度(2023年度)のFD・SD 活動に関する報告書(案)について」	SD	勝浦、佐土井、赤木、名和、薄井(以上5名)
13	令和6年1月25日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「今年度(2023年度)のFD・SD 活動に関する報告書(案)について」	SD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、松尾、赤木、大瀧、蓑輪、伊藤(健)、井内、蟹、渋谷、杉本、山本、太田、門、薄井(以上22名)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
14	令和6年2月10日	経済学研究科FD・SD委員会「学修成果の可視化・評価・改善に向けて－「ジェイ・サープ」と「学部ダッシュボード」による検討を中心に－」(学生の主体的な参加を促す授業形態の検討、学修時間の状況把握と増加策の模索、その他)	FD	勝浦、佐土井、赤木、名和、薄井 (以上5名)
15	令和6年2月14日	経済学研究科FD・SD懇談会「学修成果の可視化・評価・改善に向けて－「ジェイ・サープ」と「学部ダッシュボード」による検討を中心に－」(学生の主体的な参加を促す授業形態の検討、学修時間の状況把握と増加策の模索、その他)	FD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、野口、松尾、赤木、大瀧、蓑輪、李、伊藤(健)、井内、蟹、渋井、杉本、山本、太田、山田、薄井 (以上24名)

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 理工学部 ）

1. 令和5年度の活動報告

学部教育に必要な学生の基礎学力向上と教育改善を推進し、学生が満足できる教育体制の構築を目的とした。具体的な取り組みとして、基礎演習科目の履修促進、数学相談室・物理相談室の開設などを行い、目標とする基礎学力向上、教育改善への取り組みを引き続き進める。更に、教員の学生指導能力向上に関わる教育フォーラム（FD・SD フォーラム）への参加を促した。また、各学科のFD・SD会議の活動を強化し、推進組織である本教育改善委員会で各学科のFD・SD会議議事録を集約した。今後、各学科FD・SD会議の活動内容を検討し、連携を図る。

「学生の学修成果を可視化する取組」としては、JSAAP、PROGを用いた外部機関による調査を行っている。ただし、理工学部には10の学科があり、統一的な外部調査を実施するのではなく、先にあげた2つの外部調査機関が実施する調査方法の有効性判断を含め、各学科が独自に外部調査方法を選択し、実施している。選択した外部調査方法はJSAAP（数学科、材料機能工学科、機械工学科：以上3年次実施）、PROG（電気電子工学科、応用化学科、交通機械工学科、メカトロニクス工学科、社会基盤デザイン工学科、環境創造工学科、建築学科）である。将来的には理工学部全体として同一の学修成果調査方法を選定し、学科間で連携が取れるように各学科のFD・SD会議の母体となる教育改善委員会で検討を進めていきたい。

理工学部では基礎学力に自信がない新入学生向けに数学・物理学・化学・英語の基礎演習科目を置くとともに、数学・英語に関しては更に発展的な内容を勉強できるよう基礎演習（アドバンスコース）科目も開講している。入学時に、数学習熟度診断テストを実施し、学生が自ら習熟度の判断ができるように診断テストの点数により、これらの科目の活用を促すように指導した。

例年、数学相談室、物理相談室の運営状況は本委員会で報告され、実施結果等に基づき、今後の実施方法等について、検討を行っている。

2. 今後の課題、方向性

学修成果の追跡調査は、教育を改善していく上で重要な情報を与える。そのためには、複数年にわたり個々の学生の調査を実施することが必要となる。現在、各学科が独自に外部調査を実施し、その有効性を判断している段階である。このような中で、FD・SDに取り組む教育改善委員会としては、学部全体としての方向性を示し、統一した学修成果可視化の調査が必要かどうかを検討する必要がある、今後の課題としたい。

現在、各学科のFD・SD会議は順調に機能しており、個々の課題解決に向けた検討がなされている。多様な学科から成る理工学部では、このような個別会議は重要な役割を果たす。しかし、それらを取りまとめる教育改善委員会では、共通の課題を設定して理工学教育の改善に反映していきたい。

3. 活動記録

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
1	令和5年5月1日 ～5月10日 [遠隔]	令和5年度物理相談室について	FD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 藤井 (職員 計2名)
		令和5年度理工学部および理工学研究科の事業計画について, 東海工学教育協会 会員入会のご案内	SD	
2	令和5年6月9日 ～各締切日まで [遠隔]	FD・SD 学習会「働き方を学びほぐすアンラーニング」への協力について MEC プログラム (推薦入学者向けの入学前教育) の見直しについて	FD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 藤井 (職員 計2名)
3	令和5年7月7日 ～7月14日 [遠隔]	令和5年度FD・SD活動報告書(中間)の作成について, 令和5年度前期数学相談室の開催について, 第4回大学教育開発センター委員会報告	FD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 橘 (職員 計2名)
4	令和5年7月11日 ～8月25日 [遠隔]	推薦入学者向けの入学前教育の科目選択について	FD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 橘 (職員 計2名)
5	令和5年8月21日 ～9月15日 [遠隔]	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 橘 (職員 計2名)
6	令和5年9月11日 ～9月22日 [遠隔]	令和6年度入学者向け入学前オリエンテーションについて, 第5回大学教育開発センター委員会報告	FD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 橘 (職員 計2名)
7	令和5年10月17日 ～10月26日 [遠隔]	附属高校特別推薦入学者への入学前指導について	SD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 橘 (職員 計2名)
		学修成果把握に向けた外部調査の実施について	FD	
8	令和5年11月8日 ～11月14日 [遠隔]	令和5年度理工学部教育推進フォーラムの開催について	FD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 橘 (職員 計2名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
各学科 FD・SD 会議				
数学科 FD・SD 会議				
1	令和5年6月22日	数学教員希望学生の指導方法	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計19名)
		卒業研究およびその事前指導の方法		
2	令和5年7月20日	障がい学生支援について	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計19名)
		研究用学術雑誌と図書の活用方法	SD	
3	令和5年8月21日 ～8月31日 [遠隔]	成績評価基準の平準化について	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計19名)
4	令和5年9月28日	工学系数学教育について	FD・SD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計19名)
5	令和5年12月21日	障がい学生への対応について	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計19名)
電気電子工学科 FD・SD 会議				
1	令和5年5月11日	GPA 制度について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
2	令和5年5月25日	数理・データサイエンス・AI 教育について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
3	令和5年6月8日	学業優秀学生について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
4	令和5年6月15日	アンラーニングについて	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
5	令和5年6月22日	成績不振者への対応について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和5年7月6日	修士・卒研生の間接発表について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
7	令和5年7月20日	入学前教育について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
8	令和5年9月7日	成績評価基準の平準化について 三者面談について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
9	令和5年11月16日	大学生の授業外学習時間について	SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
10	令和5年12月21日	卒論修論発表法について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
		学修成果の可視化・検証について	SD	
材料機能工学科 FD・SD 会議				
1	令和5年4月6日	入試総括・大学院推薦基準確認	FD	宇佐美, 岩谷, 上山, 赤堀, 今井, 田中, 宮嶋, 成塚, 服部, 六田, 竹内 (計11名)
2	令和5年4月20日	令和6年度学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について	FD	宇佐美, 宮嶋, 田中, 今井, 服部, 岩谷, 榎本, 六田, 成塚 (計9名)
3	令和5年5月25日	化学・物質学科の他コース履修の扱いに関して 理工学部・情報工学部統一試験の変更について	FD	宇佐美, 服部, 赤堀, 成塚, 上山, 竹内, 岩谷, 六田, 田中, 今井, 宮嶋 (計11名)
4	令和5年9月7日	成績評価基準の平準化に関する件	FD	宇佐美, 宮嶋, 榎本, 赤堀, 今井, 六田, 竹内, 上山, 岩谷 (計9名)
5	令和5年10月26日	卒業研究の成績の付け方について	FD	宇佐美, 岩谷, 服部, 竹内, 宮嶋, 赤堀, 今井, 成塚, 六田, 田中 (計10名)
6	令和5年12月21日	外部評価委員会(12月1日開催)の議事録共有と対応の検討	FD	宇佐美, 服部, 竹内, 宮嶋, 赤堀, 榎本, 今井, 岩谷, 成塚, 六田, 上山 (計11名)
応用化学科 FD・SD 会議				
1	令和5年4月6日	・実験室の設備充実について ・将来問題として、学科組織の改善による教育の効率化について	SD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
2	令和5年4月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症に基づく欠席者の対応について ・他学部の教授との座談会への学生の参加について ・在籍期間が長期化した学生への対応について ・教員補充の際の補強分野について ・学科レクリエーション実施について 	SD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
3	令和5年5月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの改善について ・実験室の設備充実について ・将来問題として, 学科組織の改善による教育の効率化について ・ハラスメント防止啓発についての講習会開催 	SD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
4	令和5年5月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の開講方式の変更について ・履修系統図の見直しについて 	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦 (計8名)
		<ul style="list-style-type: none"> ・学生の TOEIC-IP 受講について ・将来問題として, 学科組織の改善による教育の効率化について ・学科運営を効率的に進める実験実習費の配分について 	SD	
5	令和5年6月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開講回数の効率化について 	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
		<ul style="list-style-type: none"> ・将来問題として, 学科組織の改善による教育の効率化について ・実験科目の講師の選定 ・実験設備の充実について 	SD	
6	令和5年7月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開講回数, 日時の変更による教育の効率化について 	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
		<ul style="list-style-type: none"> ・将来問題として, 学科組織の改善による教育の効率化について ・学科カリキュラム改定について ・外部評価委員の選定について ・実験設備の充実について ・学生への合理的配慮について 	SD	
7	令和5年9月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について ・授業開講回数, 日時の変更による教育の効率化について 	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
		<ul style="list-style-type: none"> ・教員補充による学科体制について ・実験設備の充実について ・実験科目へのティーチングアシスタントの補充 	SD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
8	令和5年10月26日	・他学部・他学科履修の方針検討	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
		・学修成果把握に向けた外部調査実施について方針検討 ・欠席学生の情報交換と対応 ・契約図書の充実について	SD	
9	令和5年11月30日	・将来問題として, 学科組織の改善による教育の効率化について ・研究室所属学生の研究費用の充実について	SD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
10	令和6年1月25日	・実験科目の指導方針	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
		・転学部・転学科試験の実施方針 ・再試験の実施科目の選定 ・定期試験実施にかかる運用効率 ・将来問題として, 学科組織の改善による教育の効率化について	SD	
機械工学科 FD・SD 会議				
1	令和5年5月25日	ハラスメント防止啓発動画「令和時代の教員育成 Vol.3-快適な教育環境をつくろう-」を視聴	SD	大島, アブラハ, 池本, 来海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川 (計13名)
2	令和5年7月20日	数理・データサイエンス・AI教育(応用基礎レベル)について	SD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 来海, 久保, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計14名)
		FD・SD学習会「働き方を学びほぐすアンラーニング」への参加	FD	
3	令和5年9月7日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	SD	大島, 池本, 川村, 来海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計14名)
交通機械工学科 FD・SD 会議				
1	令和5年4月20日	・フレッシュマンセミナーの実施方法について ・Science direct transaction の利用状況について	SD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計14名)
2	令和5年5月11日	・ハラスメント防止DVDの視聴について ・スタディサブリ受講者対応について	SD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計15名)
3	令和5年5月25日	・学科内FD委員会および教員間ネットワークの提案について ・学科内教育改善WGでの検討事項について	FD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計15名)
		・成績不振者への対応について ・試験における障がい学生への対応について	SD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
4	令和5年6月20日	・障がいのある学生と健康上不安のある学生への対応運用について ・MATLABの運用について	SD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 村尾, 山崎, 早藤 (計12名)
5	令和5年7月6日	・学科内教育改善WGでの検討事項について ・教員業績評価について ・外部評価委員会について	FD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計15名)
		・2年生対象フレッシュマンセミナーの実施について ・購入図書に関する情報共有について	SD	
6	令和5年7月20日	・入学前教育の科目選定について ・成績不振者への面談について	SD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計15名)
7	令和5年9月7日	・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について ・外部評価委員会について	FD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 中島, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎 (計12名)
8	令和5年9月28日	・2年次フレッシュマンセミナー代替事業について ・地区懇談会と成績不振者の面談状況について	SD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計14名)
9	令和5年10月12日	・外部評価委員会の実施について	FD	西村, 加鳥, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計14名)
10	令和5年10月26日	・学科内教育改善WGでの検討事項について	FD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計14名)
		・PROGテストの実施について	SD	
11	令和5年11月9日	・学生への合理的配慮について	SD	西村, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 横谷, 菅野, 仙場, 村尾, 山崎, 早藤 (計12名)
12	令和5年12月21日	・外部評価委員会による点検結果について	FD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計14名)
		・学科カリキュラムの改正について	SD	
13	令和6年1月25日	・教員業績評価の記載事項について	FD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 山崎, 早藤 (計14名)
		・次年度フレッシュマンセミナーの実施について	SD	
14	令和6年2月29日	・学科カリキュラムの改正について	FD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 山崎, 早藤 (計14名)
メカトロニクス工学科 FD・SD 会議				
1	令和5年4月6日	1) メンターの割り振りと面談について 2) フレッシュマンセミナーの活用方法について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
2	令和5年4月20日	1) JABEE 対応について 2) 推薦入試について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
3	令和5年5月11日	1) カリキュラム改正について 2) ハラスメント防止について 3) 学位授与方針について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
4	令和5年5月25日	1) 障がい学生の対応について 2) 数理・データサイエンス・AI等 の科目設置について 3) 成績不振者への対応について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
5	令和5年6月8日	1) メンター面談の指導内容につ いて 2) MATLAB の運用について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
6	令和5年6月22日	1) JABEE 対応について 2) 理工学部共通施設の運用につ いて	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
7	令和5年7月6日	1) 演習講義の内容見直しについて 2) カリキュラム改正について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
8	令和5年7月20日	1) 不正行為防止について 2) カリキュラム改正について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
9	令和5年9月7日	1) 講義担当教員について 2) カリキュラム改正について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
10	令和5年9月19日 ～ 9月20日 [遠隔]	教員間もしくは授業科目間の成績評 価基準の平準化について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
11	令和5年9月28日	・カリキュラム改正について ・JABEE 対応について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
		・メンター学生の指導方法について	SD	
12	令和5年10月26日	・カリキュラムと講義内容について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
13	令和5年11月16日	・次年度講義担当について ・欠席の多い学生の対応について ・入学前指導懇談会実施について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
14	令和5年11月30日	・メンター学生への就活指導につ いて ・演習科目の実施方法について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
15	令和5年12月21日	・科目担当教員について ・講義で使用する教材について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
16	令和6年1月11日	・優秀学生の評価について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 星野, 野々川, 太田 (計11名)
		・卒業研究の質疑応答について	SD	
17	令和6年1月25日	・学科委員の選出について ・基礎ゼミナール担当について ・転学部転学科の試験科目と担当について ・学生便覧の校正について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
社会基盤デザイン工学科 FD・SD 会議				
1	令和5年4月6日	「日建連の現場見学会」について	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下 (計11名)
2	令和5年4月20日	「社会基盤デザインセミナーI」について	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 渡辺, 岩下, 岡本 (計11名)
		「指定校推薦」「在学年限注意学生」「学位授与方針及び教育課程編成方針対応表」について	SD	
3	令和5年5月25日	「理工学部統一試験」「試験における障害者対応」について	SD	石川, 葛, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本 (計11名)
4	令和5年6月22日	「社会基盤デザインセミナーI」の実施体制について	FD	石川, 葛, 小高, 原田, 藤井, 松本, 渡辺, 岩下, 岡本 (計9名)
		「プレイスメントテストの結果」「入学後意識調査アンケート」について	SD	
5	令和5年7月20日	「入試動向」「2年生のリフレッシュセミナー」について	SD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本 (計11名)
6	令和5年9月7日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本 (計12名)
7	令和5年9月28日	2年生リフレッシュセミナーについて	SD	石川, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 渡辺, 岩下, 岡本, 中村 (計10名)
8	令和5年10月26日	外部評価委員会について	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本 (計12名)
9	令和5年11月30日	副査面談結果について	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本 (計12名)
10	令和5年12月21日	令和7年度以降の測量学実習の見直し	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本 (計12名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
11	令和6年1月11日	履修進捗確認表（卒業前）の確認と提出等について	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本（計12名）
12	令和6年1月25日	教員業績評価検証依頼	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本（計12名）
環境創造工学科 FD・SD 会議				
1	令和5年4月6日	新カリキュラムの教育方針案について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤（計10名）
2	令和5年4月20日	・教育方針について ・スタディサプリの受講について ・他大学等のFD企画に院生が参加する場合の制度について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤（計10名）
3	令和5年6月22日	・卒業時アンケートと卒業後アンケートの結果について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤（計10名）
		・FD・SD学習会について ・アンラーニング事例の募集 ・MECプログラムについて	FD	
4	令和5年7月20日	・新カリキュラムの3つのポリシーや科目群について ・学生面談の記録について ・数学相談室の開催について ・入学前教育の内容の見直し	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤（計10名）
5	令和5年9月7日	・成績評価基準の平準化について ・FD・SD学習会について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤（計10名）
		・PROGテストの実施について	SD	
6	令和5年10月26日	・次年度の外部調査の調査手法・実施形態・対象年次・実施時期について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤（計10名）
7	令和5年11月30日	・附属高校特別推薦入学者への入学前指導について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤（計10名）
8	令和6年1月25日	・PROGテストの結果および返却について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤（計10名）
建築学科 FD・SD 会議				
1	令和5年4月6日	学科HPの改善について	FD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原（計17名）

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
2	令和5年5月11日	理工談話会企画について GPA 制度の見直しについて	FD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計17名)
		フレッシュマンセミナー代替事業 (2年生対象) について	SD	
3	令和5年7月6日	教員業績評価について	FD	石井, 吉久, 高井, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計15名)
4	令和5年7月20日	成績不振者への対応について	SD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計17名)
5	令和5年9月28日	成績評価基準の平準化について	FD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計17名)
		PROG テストの実施について	SD	
6	令和5年10月12日	フレッシュマンセミナーについて イヤーズブックの継続体制について	SD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計17名)
		外部評価委員会について	FD	
7	令和5年10月26日	外部評価委員会資料について	FD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 平岩, 谷田, 高橋, 三浦, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計16名)
8	令和5年11月30日	フレッシュマンセミナーについて	SD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計17名)
9	令和5年12月21日	令和6年度新入生オリエンテーショ ン・在学生ガイダンスについて	SD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計17名)
10	令和6年1月11日	イヤーズブック論文編の体裁について 来年度のワークショップについて	SD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計17名)
教養教育 FD・SD 会議				
1	令和5年4月20日	障がい学生について	SD	中村, 田中, 大久保, 中山, 土屋, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 齊藤, 森口, 松村, 宮北, 榎本, 長澤, 大知, 加藤, 鈴木, 遠藤, 山本 (計20名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
2	令和5年5月25日	ハラスメント啓発動画の視聴について	FD	中村, 田中, 大久保, 中山, 土屋, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 齊藤, 森口, 松村, 宮北, 榎本, 長澤, 大知, 加藤, 鈴木, 遠藤, 山本 (計20名)
3	令和5年6月22日	FD・SD 学習会について MEC プログラムの見直しについて	FD	中村, 田中, 大久保, 中山, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 齊藤, 森口, 松村, 宮北, 榎本, 長澤, 大知, 加藤, 鈴木, 遠藤, 山本 (計19名)
4	令和5年7月20日	JABEE 資料の提出について	FD	中村, 田中, 大久保, 中山, 土屋, 日比野, 景山, 神藤, 齊藤, 森口, 松村, 宮北, 榎本, 長澤, 大知, 加藤, 鈴木, 遠藤, 山本 (計19名)
5	令和5年9月7日	FD・SD 研修会 / FD・SD 学習会について 成績評価基準の平準化について 授業改善アンケートについて JABEE 資料の提出について	FD	中村, 田中, 大久保, 中山, 土屋, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 齊藤, 森口, 松村, 宮北, 榎本, 長澤, 大知, 加藤, 鈴木, 遠藤, 山本 (計20名)
6	令和5年9月28日	避難訓練の実施について	FD	中村, 田中, 景山, 加藤, 鈴木, 土屋, 長澤, 中山, 日比野, 松村, 宮北, 榎本, 大知, 齊藤, 神藤, 遠藤, 大久保, 森口, 山本, 本田 (計20名)
7	令和5年10月26日	教員自己評価結果について 後期授業アンケートの実施について 学修成果の把握に向けた外部評価の実施について FD・SD フォーラムの実施について	FD	中村, 田中, 景山, 加藤, 鈴木, 土屋, 長澤, 中山, 日比野, 松村, 宮北, 榎本, 大知, 齊藤, 神藤, 遠藤, 大久保, 森口, 山本, 本田 (計20名)
8	令和5年11月30日	けが、急病人発生時の連絡先について 入学試験問題作成の今後の方針について	FD	中村, 田中, 鈴木, 長澤, 景山, 神藤, 加藤, 松村, 鈴木, 中山, 大久保, 本田, 斎藤, 森口, 日比野, 山本, 遠藤, 土屋 (計18名)

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 理工学研究科 ）

1. 令和5年度の活動報告

高等教育の改革に伴い、令和2年度から大学院博士（後期）課程において授業科目の単位制を導入した。これによりリサーチワークだけでなくコースワークとして特殊講義科目を設定し、博士（前期）課程・特論科目との連携体制を敷いた。このような連携により修士（博士前期）課程と博士（後期）課程が密接に関わり合い、学生の多様な要望に応える基盤となりうる。また、各専攻科の大学院FD・SD活動については、各学科のFD・SD会議において、合同で大学院FD・SDに関する議題の報告および審議を行っている。

昨年度までは、感染症拡大防止のため、学生に対して例年通りの教育、研究指導を実施することができなかったが、今年度に入り感染症拡大防止政策が緩和され、対面での特論や実験、ゼミ、学会発表や学外実験設備を利用した実験などが従前通りにできるようになっている。理工学研究科では、各専攻FD・SD会議を中心として、修士課程の特論講義の実施方法、実験活動、学会発表などの教育研究分野において、新型コロナ禍で培った手法と従前の教育研究手法の良い点を組み合わせた教育が行われ、日常の教育や研究活動に社会状況や環境の影響を受けにくい堅牢な教育、研究環境を構築しつつある。

大学院生は国内外での積極的な学会発表により、大きな成長を遂げることが多い。今年度においては、昨年度のように各種学会の中止やリモート開催のみの学会が減り、対面あるいはハイブリッドでの学会開催、ウェビナーなど新しい試みが多数行われ、学生の積極的な参加が可能となり、その参加数も増えてきている。このような新しいフェーズを迎えるにあたり、発表方法や質疑応答、情報発信の方法などを各専攻FD・SD会議を中心として検討を行っている。

理工学分野における英語教育の重要性は、学際的情報を全世界に発信するという観点から必要不可欠である。入学条件としてもTOEIC受験を課し、理工学部3年在籍時に全学生が受験している。幅広くコミュニケーションを行う能力を追求するTOEICは、学際的情報発信という観点に立ち学生たちに大学院進学を意識させ、大学院の英語教育へと円滑に導く一翼を担うものである。このことに加え、各専攻で独自に開設する科学技術英語は、専門性を高めるとともに国際的に活動できる知識・能力をもつ若手研究者・技術者養成の礎となる。このように学部から大学院教育へと円滑に導く体制の整備活動を継続して実施している。

2. 今後の課題、方向性

大学院FD・SDの中心組織は、大学院理工学研究科教育改善委員会であり、各専攻FD・SD会議（各学科FD・SD会議と合同）と連絡を密にしながら理工学専攻科としての大学院FD・SD活動を推進する。「集中講義」については、専攻横断的な研究プロジェクトとして始め、教員間の研究プロジェクトを基盤として発足させ、学生に対する啓蒙を行い学生が自主的に参加し

ていくという方向性を出したが、昨今の感染症拡大防止の方策に追われ、具体的な実施方法の議論がなされていない状況である。今後、議論を進め、学生の自主的な研究活動をバックアップするための体制作りを優先させなければならない。このため単位制度のみに注目するのではなく、大学院生が早い段階で研究方針を立て、自ら実践して結果を得ることができる能力を身につけさせることが重要であり、教育偏重にならないように検討し、方向性を打ち出す必要がある。

3. 活動記録

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
1	令和5年5月1日 ～5月10日 [遠隔]	令和5年度物理相談室について	FD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 藤井 (職員 計2名)
		令和5年度理工学部および理工学研究科の事業計画について, 東海工学教育協会 会員入会のご案内	SD	
2	令和5年6月9日 ～各締切日まで [遠隔]	FD・SD 学習会「働き方を学びほぐすアンラーニング」への協力について MEC プログラム (推薦入学者向けの入学前教育) の見直しについて	FD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 藤井 (職員 計2名)
3	令和5年7月7日 ～7月14日 [遠隔]	令和5年度FD・SD活動報告書(中間)の作成について, 令和5年度前期数学相談室の開催について, 第4回大学教育開発センター委員会報告	FD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 橘 (職員 計2名)
4	令和5年7月11日 ～8月25日 [遠隔]	推薦入学者向けの入学前教育の科目選択について	FD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 橘 (職員 計2名)
5	令和5年8月21日 ～9月15日 [遠隔]	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 橘 (職員 計2名)
6	令和5年9月11日 ～9月22日 [遠隔]	令和6年度入学者向け入学前オリエンテーションについて, 第5回大学教育開発センター委員会報告	FD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 橘 (職員 計2名)
7	令和5年10月17日 ～10月26日 [遠隔]	附属高校特別推薦入学者への入学前指導について	SD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 橘 (職員 計2名)
		学修成果把握に向けた外部調査の実施について	FD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
8	令和5年11月8日 ～11月14日 [遠隔]	令和5年度理工学部教育推進フォーラムの開催について	FD	來海, 松本, 山中, 小澤, 田崎, 榎本, 田中, 成田, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 松村, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 橘 (職員計2名)
各専攻 FD・SD 会議				
数学専攻 FD・SD 会議				
1	令和5年6月22日	数学教員希望学生の指導方法	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計19名)
		卒業研究およびその事前指導の方法		
2	令和5年7月20日	障がい学生支援について	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計19名)
		研究用学術雑誌と図書の活用方法	SD	
3	令和5年8月21日 ～8月31日 [遠隔]	成績評価基準の平準化について	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計19名)
4	令和5年11月30日	数学特殊講義について	SD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計19名)
5	令和6年1月25日	大学院生の受け入れ態勢について	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計19名)
電気電子工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和5年5月11日	GPA 制度について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
2	令和5年5月25日	数理・データサイエンス・AI教育について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
3	令和5年6月8日	学業優秀学生について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
4	令和5年6月15日	アンラーニングについて	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
5	令和5年6月22日	成績不振者への対応について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
6	令和5年7月6日	修士・卒研究生の中間発表について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
7	令和5年11月16日	大学生の授業外学習時間について	SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
8	令和5年12月21日	卒論修論発表法について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
		学修成果の可視化・検証について	SD	
材料機能工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和5年4月6日	入試総括・大学院推薦基準確認	FD	宇佐美, 岩谷, 上山, 赤堀, 今井, 田中, 宮嶋, 成塚, 服部, 六田, 竹内 (計11名)
2	令和5年4月20日	令和6年度学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について	FD	宇佐美, 宮嶋, 田中, 今井, 服部, 岩谷, 榎本, 六田, 成塚 (計9名)
3	令和5年5月25日	化学・物質学科の他コース履修の扱いに関して 理工学部・情報工学部統一試験の変更について	FD	宇佐美, 服部, 赤堀, 成塚, 上山, 竹内, 岩谷, 六田, 田中, 今井, 宮嶋 (計11名)
4	令和5年9月7日	成績評価基準の平準化に関する件	FD	宇佐美, 宮嶋, 榎本, 赤堀, 今井, 六田, 竹内, 上山, 岩谷 (計9名)
5	令和5年12月21日	外部評価委員会(12月1日開催)の議事録共有と対応の検討	FD	宇佐美, 服部, 竹内, 宮嶋, 赤堀, 榎本, 今井, 岩谷, 成塚, 六田, 上山 (計11名)
応用化学専攻 FD・SD 会議				
1	令和5年4月6日	・実験室の設備充実について ・将来問題として, 学科組織の改善による教育の効率化について	SD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
2	令和5年4月20日	・感染症に基づく欠席者の対応について ・他学部の教授との座談会への学生の参加について ・在籍期間が長期化した学生への対応について ・教員補充の際の補強分野について ・学科レクリエーション実施について	SD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
3	令和5年5月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの改善について ・実験室の設備充実について ・将来問題として、学科組織の改善による教育の効率化について ・ハラスメント防止啓発についての講習会開催 	SD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
4	令和5年5月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の開講方式の変更について ・履修系統図の見直しについて 	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦 (計8名)
		<ul style="list-style-type: none"> ・学生のTOEIC-IP受講について ・将来問題として、学科組織の改善による教育の効率化について ・学科運営を効率的に進める実験実習費の配分について 	SD	
5	令和5年6月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開講回数の効率化について 	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
		<ul style="list-style-type: none"> ・将来問題として、学科組織の改善による教育の効率化について ・実験科目の講師の選定 ・実験設備の充実について 	SD	
6	令和5年7月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開講回数, 日時の変更による教育の効率化について 	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
		<ul style="list-style-type: none"> ・将来問題として、学科組織の改善による教育の効率化について ・学科カリキュラム改定について ・外部評価委員の選定について ・実験設備の充実について ・学生への合理的配慮について 	SD	
7	令和5年9月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について ・授業開講回数, 日時の変更による教育の効率化について 	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
		<ul style="list-style-type: none"> ・教員補充による学科体制について ・実験設備の充実について ・実験科目へのティーチングアシスタントの補充 	SD	
8	令和5年10月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・講義担当者の選出 	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
		<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果把握に向けた外部調査実施について方針検討 ・欠席学生の情報交換と対応 ・契約図書の実況について 	SD	
9	令和5年11月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・将来問題として、学科組織の改善による教育の効率化について ・研究室所属学生の研究費用の充実について 	SD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
10	令和6年1月25日	・実験科目の指導方針	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
		・定期試験実施にかかる運用効率	SD	
機械工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和5年5月25日	ハラスメント防止啓発動画「令和時代の教員育成 Vol.3-快適な教育環境をつくろう-」を視聴	SD	大島, アブラハ, 池本, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川 (計13名)
2	令和5年7月20日	FD・SD 学習会「働き方を学びほぐすアンラーニング」への参加	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計14名)
交通機械工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和5年4月20日	・フレッシュマンセミナーの実施方法について ・Science direct transaction の利用状況について	SD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計14名)
2	令和5年5月11日	・ハラスメント防止 DVD の視聴について ・スタディサブリ受講者対応について	SD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計15名)
3	令和5年5月25日	・学科内FD委員会および教員間ネットワークの提案について ・学科内教育改善WGでの検討事項について	FD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計15名)
		・成績不振者への対応について ・試験における障がい学生への対応について	SD	
4	令和5年6月20日	・障がいのある学生と健康上不安のある学生への対応運用について ・MATLAB の運用について	SD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 村尾, 山崎, 早藤 (計12名)
5	令和5年7月6日	・学科内教育改善WGでの検討事項について ・教員業績評価について ・外部評価委員会について	FD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計15名)
		・2年生対象フレッシュマンセミナーの実施について ・購入図書に関する情報共有について	SD	
6	令和5年7月20日	・入学前教育の科目選定について ・成績不振者への面談について	SD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計15名)
7	令和5年9月7日	・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について ・外部評価委員会について	FD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 中島, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎 (計12名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
8	令和5年9月28日	・2年次フレッシュマンセミナー代替事業について ・地区懇談会と成績不振者の面談状況について	SD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計14名)
9	令和5年10月12日	・外部評価委員会の実施について	FD	西村, 加鳥, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計14名)
10	令和5年10月26日	・学科内教育改善WGでの検討事項について	FD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計14名)
		・PROGテストの実施について	SD	
11	令和5年11月9日	・学生への合理的配慮について	SD	西村, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 横谷, 菅野, 仙場, 村尾, 山崎, 早藤 (計12名)
12	令和5年12月21日	・外部評価委員会による点検結果について	FD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計14名)
		・学科カリキュラムの改正について	SD	
13	令和6年1月25日	・教員業績評価の記載事項について	FD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 山崎, 早藤 (計14名)
		・次年度フレッシュマンセミナーの実施について	SD	
14	令和6年2月29日	・学科カリキュラムの改正について	FD	西村, 加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 山崎, 早藤 (計14名)
メカトロニクス工学専攻 FD・SD会議				
1	令和5年4月6日	1) メンターの割り振りとは面談について 2) フレッシュマンセミナーの活用方法について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
2	令和5年4月20日	1) JABEE対応について 2) 推薦入試について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
3	令和5年5月11日	1) カリキュラム改正について 2) ハラスメント防止について 3) 学位授与方針について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
4	令和5年5月25日	1) 障がい学生の対応について 2) 数理・データサイエンス・AI等の科目設置について 3) 成績不振者への対応について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
5	令和5年6月8日	1) メンター面談の指導内容について 2) MATLABの運用について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
6	令和5年6月22日	1) JABEE対応について 2) 理工学部共通施設の運用について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
7	令和5年7月6日	1) 演習講義の内容見直しについて 2) カリキュラム改正について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
8	令和5年7月20日	1) 不正行為防止について 2) カリキュラム改正について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
9	令和5年9月7日	1) 講義担当教員について 2) カリキュラム改正について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
10	令和5年9月19日 ～9月20日 [遠隔]	教員間もしくは授業科目間の成績評 価基準の平準化について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
11	令和5年9月28日	・カリキュラム改正について ・JABEE 対応について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
		・メンター学生への指導方法について	SD	
12	令和5年10月26日	・カリキュラムと講義内容について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
13	令和5年11月16日	・次年度講義担当について ・欠席の多い学生の対応について ・入学前指導懇談会実施について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
14	令和5年11月30日	・メンター学生への就活指導につい て ・演習科目の実施方法について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
15	令和5年12月21日	・科目担当教員について ・講義で使用する教材について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
16	令和6年1月11日	・優秀学生の評価について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 星野, 野々川, 太田 (計11名)
		・卒業研究の質疑応答について	SD	
17	令和6年1月25日	・学科委員の選出について ・基礎ゼミナール担当について ・転学部転学科の試験科目と担当に ついて ・学生便覧の校正について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
社会基盤デザイン工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和5年4月6日	「日建連の現場見学会」について	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下 (計11名)
2	令和5年4月20日	「社会基盤デザインセミナーI」につ いて	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 渡辺, 岩下, 岡本 (計11名)
		「指定校推薦」「在学年限注意学生」「学 位授与方針及び教育課程編成方針対 応表」について	SD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
3	令和5年5月25日	「理工学部統一試験」「試験における障がい者対応」について	SD	石川, 葛, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本 (計11名)
4	令和5年6月22日	「社会基盤デザインセミナーI」の実施体制について	FD	石川, 葛, 小高, 原田, 藤井, 松本, 渡辺, 岩下, 岡本 (計9名)
		「プレイスメントテストの結果」「入学後意識調査アンケート」について	SD	
5	令和5年7月20日	「入試動向」「2年生のリフレッシュセミナー」について	SD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本 (計11名)
6	令和5年9月7日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本 (計12名)
7	令和5年9月28日	2年生リフレッシュセミナーについて	SD	石川, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 渡辺, 岩下, 岡本, 中村 (計10名)
8	令和5年10月26日	外部評価委員会について	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本 (計12名)
9	令和5年11月30日	副査面談結果について	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本 (計12名)
10	令和5年12月21日	令和7年度以降の測量学実習の見直し	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本 (計12名)
11	令和6年1月11日	履修進捗確認表(卒業前)の確認と提出等について	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本 (計12名)
12	令和6年1月25日	教員業績評価検証依頼	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本 (計12名)
環境創造工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和5年4月6日	新カリキュラムの教育方針案について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
2	令和5年4月20日	・教育方針について ・スタディサプリの受講について ・他大学等のFD企画に院生が参加する場合の制度について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
3	令和5年6月22日	・卒業時アンケートと卒業後アンケートの結果について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
		・FD・SD学習会について ・アンラーニング事例の募集 ・MECプログラムについて	FD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
4	令和5年7月20日	・新カリキュラムの3つのポリシー や科目群について ・学生面談の記録について ・数学相談室の開催について ・入学前教育の内容の見直し	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
5	令和5年9月7日	・成績評価基準の平準化について ・FD・SD 学習会について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
		・PROG テストの実施について	SD	
6	令和5年10月26日	・次年度の外部調査の調査手法・実 施形態・対象年次・実施時期につ いて	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
7	令和5年11月30日	・附属高校特別推薦入学者への入学 前指導について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
8	令和6年1月25日	・PROG テストの結果および返却に ついて	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
建築学専攻 FD・SD 会議				
1	令和5年4月6日	・学科 HP の改善について	FD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計17名)
2	令和5年5月11日	・理工談話会企画について ・GPA 制度の見直しについて	FD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計17名)
		・フレッシュマンセミナー代替事業 (2年生対象) について	SD	
3	令和5年7月6日	教員業績評価について	FD	石井, 吉久, 高井, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計15名)
4	令和5年7月20日	成績不振者への対応について	SD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計17名)
5	令和5年9月28日	成績評価基準の平準化について	FD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計17名)
		PROG テストの実施について	SD	
6	令和5年10月12日	大学院学業優秀奨学生・大学院奨学 生選考判定資料における投稿中あるい は不採用学術論文等の扱いについて	SD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 大塚, 平岩, 谷田, 高橋, 三浦, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計17名)
		外部評価委員会について		

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
7	令和5年10月26日	外部評価委員会資料について	FD	石井, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 岡田, 吉永, 生田, 平岩, 谷田, 高橋, 三浦, 松田, 佐藤, 米澤, 萩原 (計16名)
教養教育 FD・SD 会議				
1	令和5年4月20日	障がい学生について	SD	中村, 田中, 大久保, 中山, 土屋, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 齊藤, 森口, 松村, 宮北, 榎本, 長澤, 大知, 加藤, 鈴木, 遠藤, 山本 (計20名)
2	令和5年5月25日	ハラスメント啓発動画の視聴について	FD	中村, 田中, 大久保, 中山, 土屋, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 齊藤, 森口, 松村, 宮北, 榎本, 長澤, 大知, 加藤, 鈴木, 遠藤, 山本 (計20名)
3	令和5年6月22日	FD・SD 学習会について MEC プログラムの見直しについて	FD	中村, 田中, 大久保, 中山, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 齊藤, 森口, 松村, 宮北, 榎本, 長澤, 大知, 加藤, 鈴木, 遠藤, 山本 (計19名)
4	令和5年7月20日	JABEE 資料の提出について	FD	中村, 田中, 大久保, 中山, 土屋, 日比野, 景山, 神藤, 齊藤, 森口, 松村, 宮北, 榎本, 長澤, 大知, 加藤, 鈴木, 遠藤, 山本 (計19名)
5	令和5年9月7日	FD・SD 研修会 /FD・SD 学習会について 成績評価基準の平準化について 授業改善アンケートについて JABEE 資料の提出について	FD	中村, 田中, 大久保, 中山, 土屋, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 齊藤, 森口, 松村, 宮北, 榎本, 長澤, 大知, 加藤, 鈴木, 遠藤, 山本 (計20名)
6	令和5年9月28日	避難訓練の実施について	FD	中村, 田中, 景山, 加藤, 鈴木, 土屋, 長澤, 中山, 日比野, 松村, 宮北, 榎本, 大知, 齊藤, 神藤, 遠藤, 大久保, 森口, 山本, 本田 (計20名)
7	令和5年10月26日	教員自己評価結果について 後期授業アンケートの実施について 学修成果の把握に向けた外部評価の実施について FD・SD フォーラムの実施について	FD	中村, 田中, 景山, 加藤, 鈴木, 土屋, 長澤, 中山, 日比野, 松村, 宮北, 榎本, 大知, 齊藤, 神藤, 遠藤, 大久保, 森口, 山本, 本田 (計20名)
8	令和5年11月30日	けが、急病人発生時の連絡先について 入学試験問題作成の今後の方針について	FD	中村, 田中, 鈴木, 長澤, 景山, 神藤, 加藤, 松村, 鈴木, 中山, 大久保, 本田, 齊藤, 森口, 日比野, 山本, 遠藤, 土屋 (計18名)

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 情報工学部 ）

1. 令和5年度の活動報告

教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化については、GPAの換算方法の変更および成績評価基準における評価の変更を行うとともに、成績評価が著しく厳しい教科について調査報告を行った。次に新入生の入学前教育について、教材作成業者と教育内容を変更し、受講生の科目の選択方法に関するチャートを作成した。次に2023年度以降の授業エビデンスの保存方法を変更するとともに、卒業研究の成績評価の配点方法を再度検討することとした。さらに名城大学附属高校スーパーサイエンスハイスクール卒業生の早期研究室配属の検討、GPS-Academicの結果の検討、およびデータサイエンス・AI応用基礎サブカリキュラムに関する検討を行った。

2. 今後の課題、方向性

教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化については、講義によっては理工学部と共同で運営しているものもあるため改善が難しく、引き続き関係各所との調整を行う。またデータサイエンス・AI応用基礎サブカリキュラムに関しては、令和6年度から本格的に始動することに合わせ、サブカリキュラムの点検および評価体制を整える。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和5年5月11日	・GPAの換算方法の変更 ・成績評価基準における評価の変更	FD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 高比良, 田中, 寺本, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 鷺見, 山木 計23名
2	令和5年6月13日	・授業エビデンスの保存方法の検討	FD	田中, 宇佐見, 中野, 山田(宗), 米澤 計5名
3	令和5年6月22日	・新入生の入学前教育の内容変更	FD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 高比良, 田中, 寺本, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 楯, 辻永, 山木 計24名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	令和5年7月6日	・授業エビデンスの保存方法の周知	FD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 佐川, 高比良, 田中, 寺本, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 楯, 辻永, 山木 計22名
5	令和5年7月20日	・新入生の入学前教育に関するチャートの作成	FD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 高比良, 田中, 寺本, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 楯, 辻永, 山木 計23名
6	令和5年9月7日	・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化	FD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 高比良, 田中, 寺本, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 楯, 辻永, 山木 計23名
7	令和5年11月10日	・名城大学附属高校スーパーサイエンスハイスクール卒業生の早期研究室受け入れに関する検討	FD	田中, 宇佐見, 中野, 高比良, 米澤 計5名
8	令和5年11月16日	・GPS-Academicの結果の検討	SD	田中, 宇佐見, 中野, 高比良, 米澤 計5名
9	令和5年11月26日	・データサイエンス・AI応用基礎サブカリキュラムに関する検討	FD	田中, 宇佐見, 中野, 高比良, 米澤 計5名
10	令和6年2月19日	・Paizaによるプログラミング教材に関する検討	FD	田中, 宇佐見, 高比良, 向井, 山田(宗), 山本 計6名

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 農学部 ）

1. 令和5年度の活動報告

農学部は、生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の各学科会議および農場教員会議を分科会と位置づけFD・SD活動に取り組んでいる。これらの分科会および分科会を統括する教授会において、学生の修学および生活について教職員間で意見交換を行い、農学部のディプロマ・ポリシーに基づく教育および研究活動の充実を行っている。具体的な取り組みとして、定例で開催されている学科会議や農場教員会議等において、教育改善のための意見交換を行い、授業満足度調査からの授業内容のほかに、実験実習、研究活動、キャリア教育などの充実も視野に入れ、総合的な教育改善を検討し推進している。そのために、学部FD・SD委員を中心に現状を分析し、各学科にて改善策を講じ、学務委員会や学部FD・SD委員会でそれらをまとめてカリキュラムの検討・検証および、同系の授業科目群の目標を設定し、それらを各教員が教育や研究に反映する。学科および農場に共通する案件については学部教授会等の時間に学部全教員で情報交換することで、教育改善への具体的取り組みについてのイメージを共有できるようにする。下記の活動記録に記述した通り、各分科会で具体的に取り組んでいる。

- ①昨年度に引き続き今年度も学修成果を可視化する取組に基づく教育改善のために、外部調査として1年次、3年次を対象にGPS-Academicによるアンケート調査を実施した。3年間実施したことで1年次から3年次までの2年間の学修成果の可視化が可能になったことから、外部調査委託先のベネッセiキャリアに解析を依頼した。その結果概要を報告してもらうFD・SD学習会を開催した。
- ②各学科ともに「履修系統図」「ポートフォリオ」への取り組みに加え、各学科の教育・研究の発展に向けた教員編成の更新などに伴い、カリキュラムの見直しが求められた。そこで、カリキュラム改正委員会を立ち上げ2025年度のカリキュラム改正に向けて議論を行った。

2. 今後の課題、方向性

経常的な課題として、入試区分や入学時の成績、在学中のGPAベースでの成績、キャリア形成支援に至る学生個別のポートフォリオを作成することで、より学修行動に限定せず、学生そのものの属性と動向を紐付け調査し、教育効果を高める方法について検討する必要がある。そのため、入試委員会、学務委員会、キャリア委員会との連携が必要である。

今後も学科会議および農場教員会議単位での検討体制に変わりなく、従来からの一貫性と継続性を強く意識した対応のあり方を模索する。また、個別の学科に限定せず、学科横断的に検討すべき、ならびに学部全体で取り組むべき、ひいては大学院教育ともリンケージさせた対応を提言する、という立場から、農学部FD・SD委員会で積極的に情報交換を行うこととする。

遠隔授業の実施を経て、学部や学科等の組織単位ならびに教員個々の単位でメリットとデメ

リットが蓄積され、原則講義は対面で実施することが決定している。今後オンライン授業が浸透した中高生に対して、大学の講義の在り方について議論する必要がある。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和5年4月13日	第1回農学部教授会 ・ハラスメント防止について ・2023年度新入生の英語クラス分けについて	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、加藤、鈴木、田村、津呂、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原、武藤：計43名
		・令和5年度名城サプリメント教育及び学習サポートルームの実施について ・出張旅費申請の記載方法について ・附属農場の利用方法について ・2023年度学校法人名城大学事業計画について ・第3期認証評価における大学評価結果について	SD	
2	令和5年4月13日	第1回生物資源学科会議 ・研究室環境チェックリストに関して	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、太田垣、兒島、塚越、平見、黒川、藤原、武藤、上船：計13名
3	令和5年4月13日	第1回応用生物化学科会議 ・オムニバス科目の出欠と成績について ・令和5年度研究室配属スケジュールについて ・令和5年度実験テキストの校正・修正について ・2年次ミキサーについて	FD	加藤、志水、奥村、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本、湊：計12名
		・ハラスメントへの理解について ・障がいをもつ学生について	SD	
4	令和5年4月20日	第1回生物環境科学科会議 ・教員組織の編成方針について	FD	汪、長田、日野、細田、近藤、藤、大浦、村野、橋本、檜崎、磯井：計11名
		・研究室配属について ・研究室環境チェックリストについて	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
5	令和5年4月27日	第2回農学部教授会 ・ハラスメント防止について ・「数理・データサイエンス・AIプログラム」認定制度について ・全国学生調査（第3回試行実施）の結果報告について ・数理・データサイエンス・AI教育の充実（応用基礎レベル）について ・再試験の評価方法変更について ・実験・実習科目における欠席対応について ・GPA制度の見直しについて ・TAの担当授業科目および業務の拡大について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、加藤、鈴木、津呂、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口、天野、荒川、奥村、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原、武藤：計40名
		・Enjoy Learning プロジェクトについて ・英語外部試験利用入試の方向性について ・入試問題の共通利用について ・学生出張の手続きについて	SD	
6	令和5年4月27日	第2回生物資源学科会議 ・教授会よりハラスメント対策について	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、太田垣、兒島、塚越、平見、黒川、藤原、武藤、上船：計13名
		・障がい者の対応に関して	SD	
7	令和5年4月27日	第2回応用生物化学科会議 ・学修ポートフォリオの活用について ・令和5年度研究室配属スケジュールについて	FD	加藤、志水、奥村、前林、近澤、林（利）、長澤、天野、松儀、山口、濱本、湊：計12名
		・学生の学外への派遣について	SD	
8	令和5年4月27日	第2回生物環境科学科会議 ・学位授与方針対応表を用いた自己点検について ・教員組織の編成方針について	FD	汪、長田、日野、細田、近藤、藤、大浦、村野、橋本、檜崎、磯井：計11名
		・ハラスメント防止対策について ・ミキサーについて ・学生派遣に関する申し合わせについて	SD	
9	令和5年5月11日	第4回生物環境科学科会議 ・カリキュラム改正について	FD	汪、長田、田村、細田、近藤、藤、大浦、村野、橋本、檜崎、磯井：計11名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
10	令和5年5月18日	第3回農学部教授会 ・2023年度国際専門研修プログラムについて ・英語のクラス分けプレイズメントについて ・FD・SD フォーラムについて ・授業改善アンケートについて	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、加藤、鈴木、田村、津呂、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、橋本、濱本、林（義）、平児、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原、武藤：計41名
		・2024年度指定校推薦入試にかかる対象校の選定について ・公募制推薦入試基礎学力調査への物理基礎導入について ・FD・SD フォーラムについて ・令和4年度農学部年報について ・農学部公開講座について	SD	
11	令和5年5月18日	第3回応用生物化学科会議 ・e-ラーニングの活用の推進について ・推薦入試における指定校の選定について ・オープンキャンパスについて ・令和5年度研究室配属スケジュールについて（継続）	FD	加藤、志水、奥村、近澤、長澤、前林、天野、松儀、濱本、湊：計10名
12	令和5年5月18日	第5回生物環境科学科会議 ・カリキュラム改正について	FD	汪、長田、日野、田村、細田、近藤、藤、大浦、村野、橋本、檜崎、磯井：計12名
		・研究室配属について ・成績不振学生について	SD	
13	令和5年5月25日	第6回生物環境科学科会議 ・来年度以降の実習について	FD	汪、長田、日野、田村、細田、近藤、藤、大浦、橋本、檜崎、磯井：計11名
		・研究室配属について ・学生派遣について	SD	
14	令和5年6月1日	第7回生物環境科学科会議 ・学生派遣について ・実験・実習における合理的配慮について	SD	汪、長田、日野、新妻、細田、近藤、藤、大浦、村野、橋本、檜崎、磯井：計12名
15	令和5年6月8日	第8回生物環境科学科会議 ・カリキュラム改正について	FD	長田、新妻、細田、近藤、藤、大浦、村野、橋本、檜崎、磯井：計10名
		・学生派遣について ・実験・実習における合理的配慮について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
16	令和5年6月15日	第4回農学部教授会 ・2023年度国際専門研修プログラムについて ・2024年度 MEC プログラムの見直しについて ・数理・データサイエンス・AI教育の充実（応用基礎レベル）について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、加藤、鈴木、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、森上、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平児、細田、森田（隆）、森田（裕）、近澤、檜崎、藤原、武藤：計39名
		・2022年度卒業時・修了時アンケートの結果について ・再開発検討委員会について ・令和5年度メイネットについて ・ヒヤリ・ハット活動記録書（対象者のみ）及び安全衛生セルフチェックリストについて ・大学院進学の意向調査について	SD	
17	令和5年6月15日	第4回応用生物化学科会議 ・オープンキャンパスについて ・ハラスメント防止対策について ・2024年度名城大学カレンダーについて ・研究室配属について	FD	加藤、志水、奥村、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、濱本、湊：計11名
18	令和5年6月15日	第9回生物環境科学科会議 ・植物保全学研究室人事について ・来年度以降の実験実習について ・2024年度名城カレンダーについて	SD	汪、長田、新妻、細田、近藤、藤、大浦、橋本、檜崎、磯井：計10名
19	令和5年6月22日	第10回生物環境科学科会議 ・カリキュラム改正について	FD	汪、長田、新妻、田村、細田、近藤、藤、大浦、村野、橋本、檜崎、磯井：計12名
		・ハラスメント防止策について ・環境動物学研究室への学生配属について	SD	
20	令和5年6月29日	第5回農学部教授会 ・アントレプレナーシップ教育の把握について ・生成 AI（ChatGPT 等）に対する本学の考え方について（教育分野） ・生成 AI（ChatGPT 等）に対する本学の考え方について（研究分野）	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、加藤、田村、津呂、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、香村、兒島、志水、塚越、藤、中尾、濱本、林（義）、平児、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原、武藤：計41名
		・教員業績評価における評価対象としない教員に関する申し合わせについて ・教員業績評価に係る自己評価票の適切性の確認および修正対応の依頼について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
21	令和5年7月5日	第6回生物資源学科会議 ・2024年度入学者を対象とした入学前教育（MECプログラム）の科目選定について ・学部におけるアントレプレナーシップ教育に関する調査について	SD	平野、津呂、鈴木、荒川、太田垣、兒島、塚越、平見、黒川、藤原、武藤、上船：計12名
22	令和5年7月6日	第5回応用生物化学科会議 ・学科実験実習費について	FD	加藤、志水、奥村、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、濱本、湊：計11名
23	令和5年7月6日	第12回生物環境科学科会議 ・カリキュラム改正について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、大浦、近藤、藤、村野、橋本、磯井：計12名
		・学生派遣について ・研究室配属について ・指導教員の変更を行った学生の現況について ・ハラスメント再発防止対策について	SD	
24	令和5年7月13日	第6回農学部教授会 ・数理・データサイエンス・AI教育（応用基礎レベル）について ・令和5年度前期授業改善アンケートの実施について ・第18回FD・SD学習会の開催について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、香村、兒島、近藤、志水、塚越、中尾、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）助教：黒川、近澤、長澤、藤原、武藤：計41名
		・各キャンパスのけが・急病人発生時の連絡先について ・GPA制度の見直しについて ・スポーツ大会の実施概要について	SD	
25	令和5年7月13日	第7回生物資源学科会議 ・2024年度入学者を対象とした入学前教育（MECプログラム）の科目選定について	SD	津呂、鈴木、荒川、太田垣、兒島、塚越、平見、黒川、藤原、武藤、上船：計11名
26	令和5年7月13日	第6回応用生物化学科会議 ・研究室配属について ・2024年度学部時間割について ・オープンキャンパスについて	FD	加藤、志水、奥村、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、濱本、山口、湊：計12名
		・MECプログラムについて	SD	
27	令和5年7月13日	第13回生物環境科学科会議 ・MECプログラムの科目選定について ・研究室配属について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、大浦、近藤、村野、磯井：計10名
		・ハラスメント研修の実施	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
28	令和5年7月27日	第7回農学部教授会 ・数理・データサイエンス・AI教育 プログラム認定制度について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、 加藤、鈴木、田村、津呂、林（利）、 日野、平野、前林、松儀、湊、村野、 森上、山口、天野、荒川、太田垣、 香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、 中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、 細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、 近澤、長澤、檜崎、藤原、武藤： 計42名
		・2024年度以降の情報センターの運 営体制について ・令和5年度前期100円朝食の実施報 告および後期実施計画について ・TAの業務の拡大について ・スポーツ大会の実施について ・学生派遣に関する手続きについて	SD	
29	令和5年7月27日	第8回生物資源学科会議 ・名城カレンダーについて ・新カリキュラムの選択科目におけ る単位数と科目数について	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、 太田垣、兒島、塚越、平見、黒川、 藤原、武藤、上船：計13名
30	令和5年7月27日	第7回応用生物化学科会議 ・オムニバス科目の成績評価方法に ついて ・2024年度名城大学カレンダーにつ いて ・オープンキャンパスについて	FD	加藤、志水、近澤、林（利）、長澤、 前林、天野、松儀、濱本、山口、湊： 計11名
31	令和5年7月27日	第14回生物環境科学科会議 ・学位授与方針対応表について ・カリキュラム改正について	FD	汪、長田、日野、田村、細田、大浦、 近藤、藤、村野、橋本、檜崎、磯井： 計12名
		・配慮が必要な学生について	SD	
32	令和5年8月22日	第9回生物資源学科会議 ・専修分野名と学系名の統一につ いて	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、 太田垣、兒島、塚越、平見、黒川、 藤原、武藤、上船：計13名
33	令和5年8月22日	第15回生物環境科学科会議 ・学系名と専修分野名の統一につ いて ・カリキュラム改正の修正案につ いて	FD	汪、長田、日野、田村、細田、大浦、 近藤、藤、村野、橋本、檜崎、磯井： 計12名
34	令和5年9月7日	第8回農学部教授会 ・教員間もしくは授業科目間の成績 評価基準の平準化の検討について ・令和6年度学位授与方針対応表等 を用いた教育課程の自己点検の実 施について ・カリキュラム改正案の検討につ いて	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、 鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、 日野、平野、前林、松儀、湊、村野、 森上、天野、荒川、太田垣、奥村、 香村、兒島、近藤、塚越、藤、中尾、 橋本、濱本、平見、森田（隆）、 森田（裕）、黒川、近澤、長澤、 檜崎、藤原：計38名
		・ハラスメント行為の撲滅につ いて ・学生の宿泊費補助の考え方につ いて	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
35	令和5年9月7日	第10回生物資源学科会議 ・2024年度学科学年別時間割表について ・専門実験の名称について ・農学特別演習ⅠとⅡについて ・大学案内2025について	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、 太田垣、兒島、塚越、平児、黒川、 藤原、上船：計12名
36	令和5年9月7日	第8回応用生物化学科会議 ・2023年度GPS-Academicの実施について	FD	奥村、近澤、林(利)、長澤、前林、 天野、松儀、濱本、湊：計9名
		・障がい学生に対する配慮について	SD	
37	令和5年9月14日	第17回生物環境科学科会議 ・DP(学位授与方針)の変更について ・来年度以降の大学院農学特別演習について	FD	汪、長田、新妻、細田、藤、橋本、 磯井：計7名
		・配慮が必要な学生について ・ハラスメント研修	SD	
38	令和5年9月21日	第18回生物環境科学科会議 ・カリキュラム改正案の修正について ・公開講座について	FD	汪、長田、新妻、細田、大浦、近藤、 藤、橋本、檜崎、磯井：計10名
		・ハラスメント研修	SD	
39	令和5年9月28日	第9回農学部教授会 ・2025年度カリキュラム改正案について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、 加藤、鈴木、田村、津呂、林(利)、 平野、前林、松儀、湊、村野、森上、 山口、天野、荒川、太田垣、奥村、 香村、近藤、塚越、藤、中尾、橋本、 濱本、林(義)、平児、細田、 森田(隆)、森田(裕)、黒川、近澤、 長澤、檜崎、藤原：計39名
		・総合型選抜(スポーツ)入学試験に係る事前面談実施申合せ等の改訂について ・附属高等学校特別推薦入学試験プレテストにおける選抜方法変更(科目追加)について ・障がい学生に対する受講上および評価上の配慮について	SD	
40	令和5年9月28日	第11回生物資源学科会議 ・2024年度時間割について ・2023年度卒業研究発表会について ・GPS-Academic受検に関して ・農学特別演習について	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、 太田垣、塚越、平児、黒川、藤原、 上船：計11名
		・教員の養成の目標・計画について	SD	
41	令和5年9月28日	第9回応用生物化学科会議 ・授業改善アンケートについて ・大学院農学特別演習1,2の授業運営について	FD	奥村、近澤、林(利)、長澤、前林、 天野、松儀、濱本、加藤、山口、湊： 計11名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
42	令和5年10月5日	第19回生物環境科学科会議 ・2024年度転学部・転学科試験について ・2024年度学生便覧について ・2024年度時間割について ・実験実習科目の時間数について	FD	汪、長田、日野、新妻、細田、大浦、近藤、藤、村野、橋本、楢崎、磯井：計12名
		・教員の養成の目標・計画について ・実験実習科目における欠席対応について ・配慮が必要な学生について ・ハラスメント研修	SD	
43	令和5年10月14日	第20回生物環境科学科会議 ・来年度の3年生の配属と生物環境学実験について ・来年度の野生動物管理論担当非常勤講師について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、大浦、近藤、藤、村野、橋本、楢崎、磯井：計13名
44	令和5年10月19日	第10回農学部教授会 ・教員の養成の目標・計画について ・名城大学農学部特任助手の選考に関する内規の一部改正について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、加藤、鈴木、田村、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、楢崎、藤原、武藤：計43名
		・障がい学生に対する受講上および評価上の配慮について	SD	
45	令和5年10月19日	第12回生物資源学科会議 ・来年度の「生命・食料・環境」について ・研究室説明会について	FD	森上、平野、鈴木、荒川、太田垣、兒島、塚越、平見、黒川、藤原、武藤、上船：計12名
		・2024年度入学試験における入学者数目標について ・入学試験実施方法の見直し等に伴う入学試験基本事項の変更について	SD	
46	令和5年10月19日	第10回応用生物化学科会議 ・令和5年度GPS-Academic受検について	FD	奥村、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、濱本、加藤、志水、山口、湊：計12名
		・2026年度の公募制推薦入試基本事項について	SD	
47	令和5年10月24日	第21回生物環境科学科会議 ・学生の単位認定について ・学科名変更の検討について	FD	汪、長田、大浦、近藤、藤、橋本、磯井：計7名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
48	令和5年10月27日	第11回応用生物化学科会議 ・令和6年度国際専門研修プログラムの応募について ・2025年度のカリキュラム改正時期に合わせた学科名変更の是非について	FD	奥村、近澤、林(利)、長澤、前林、天野、松儀、濱本、加藤、志水、山口、湊：計12名
		・令和7年度および8年度の入試基本事項について	SD	
49	令和5年10月	第13回生物資源学科会議(メール審議) ・2024年度以降の雑草学の担当者について	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、太田垣、兒島、塚越、平児、黒川、藤原、武藤、上船：計13名
50	令和5年11月1日	第14回生物資源学科会議 ・学科名称について ・雑草学の非常勤講師について ・「生命・食料・環境」の非常勤講師について ・地方公務員(農業職)への就職を学科の売りにすることについて	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、太田垣、兒島、塚越、平児、黒川、藤原、武藤、上船：計13名
51	令和5年11月3日	第22回生物環境科学科会議(メール審議) ・学科名変更について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、大浦、近藤、藤、村野、橋本、檜崎、磯井：計13名
52	令和5年11月9日	第11回農学部教授会 ・名城大学農学部特任助手の選考に関する内規の一部改正について ・名城大学組換えDNA講演会の案内 ・令和5年度父母懇談会実施報告	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林(利)、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、香村、兒島、近藤、志水、藤、中尾、橋本、濱本、林(義)、平児、細田、森田(隆)、森田(裕)、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原、武藤：計43名
		・令和6年度学部・研究科の国際専門研修プログラム募集について ・ハラスメント防止の徹底について	SD	
53	令和5年11月9日	第15回生物資源学科会議 ・キングモンクット工科大学との進捗状況について	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、太田垣、兒島、平児、黒川、藤原、武藤、上船：計12名
		・入学試験実施方法の見直し等に伴う入学試験基本事項の変更について ・文部科学省概算要求(教育分)に係る補助金事業への申請について	SD	
54	令和5年11月9日	第12回応用生物化学科会議 ・令和7、8年度推薦入試の変更について	FD	奥村、近澤、林(利)、長澤、前林、天野、松儀、濱本、志水、山口、湊：計11名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
55	令和5年11月16日	第23回生物環境科学科会議 ・非常勤講師の交代について（ランドスケープ・デザイン学） ・非常勤講師の依頼について（生物環境科学実習） ・学科名変更について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、大浦、近藤、藤、村野、橋本、檜崎、磯井：計13名
56	令和5年11月26日	第16回生物資源学科会議 ・推薦入試の面接結果について	SD	森上、平野、鈴木、太田垣、兒島、塚越、平兒、黒川、藤原、武藤、上船：計11名
57	令和5年11月30日	第12回農学部教授会 ・2025及び2026年度入学試験基本事項について ・MS-26戦略プラン（部署版）と2024年度事業計画書（学部・研究科）について	FD	磯井、氏田、上船、大浦、長田、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、平兒、森田（裕）、長澤、檜崎、藤原、武藤：計38名
		・2024年度推薦入学試験等の判定について	SD	
58	令和5年11月30日	第17回生物資源学科会議 ・研究室配属について	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、太田垣、兒島、塚越、平兒、黒川、藤原、武藤、上船：計13名
		・学びのコミュニティーへの申請について	SD	
59	令和5年11月30日	第14回応用生物化学科会議 ・学生実験における安全教育について	FD	加藤、志水、奥村、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本、湊：計11名
60	令和5年11月30日	第24回生物環境科学科会議 ・推薦入試合格判定	SD	長田、日野、新妻、田村、大浦、近藤、藤、村野、橋本、檜崎、磯井：計11名
61	令和5年12月14日	第18回生物資源学科会議 ・カリキュラム改正について ・研究室配属について	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、太田垣、兒島、塚越、平兒、黒川、藤原、武藤、上船：計13名
62	令和5年12月21日	第25回生物環境科学科会議 ・学科名変更について ・学系名変更に伴う「学位授与方針」および「入学者受入れ方針」における記載変更について	FD	汪、長田、日野、大浦、藤、村野、橋本、檜崎、磯井：計9名
		・配慮が必要な学生について ・ハラスメント対応について	SD	
63	令和6年1月11日	第14回農学部教授会 ・学部の教員編成方針の確認と2025年度以降の教員編成に向けた農学部の考え方について	FD	磯井、上船、氏田、汪、大浦、長田、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平兒、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原、武藤：計44名
		・学部長表彰の創設について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
64	令和6年1月11日	第15回応用生物化学科会議 ・2023年度化学実験成績について	FD	加藤、志水、奥村、林（利）、長澤、 前林、天野、松儀、山口、濱本、 近澤、湊：計12名
		・2024年度本学科一般入試における 障がいのある方からの受験希望に ついて	SD	
65	令和6年1月11日	第26回生物環境科学科会議 ・景観解析学研究室人事について ・学科名変更について	FD	汪、長田、日野、新妻、大浦、村野、 近藤、藤、田村、細田、橋本、檜崎、 磯井：計13名
66	令和6年1月25日	第19回生物資源学科会議 ・カリキュラム改正の書類関連につ いて	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、 太田垣、兒島、塚越、平児、黒川、 藤原、武藤、上船：計13名
		・一般入学試験における選抜方法の 変更について ・附属高等学校特別推薦入試の見直 しについて ・教育課程のポリシー更新について	SD	
67	令和6年1月25日	第16回応用生物化学科会議 ・2025年度学科ポリシーについて	FD	加藤、志水、奥村、林（利）、長澤、 前林、天野、松儀、山口、濱本、 近澤、湊：計12名

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 農学研究科 ）

1. 令和5年度の活動報告

活動方針：令和5年度は新カリキュラム5年目となる。新たな試みである指導教員グループ制や修士課程の中間発表などの実施状況について点検を進める。

活動目標：新カリキュラム実施と点検

活動内容：

① FD 共通課題（学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善）

大学院生全員が受講する農学特別演習において、毎回提出を義務づけているレポートの取り扱いについてこれを着実に遂行している。すなわち、発表者の発表内容に対して、その「価値」、「質疑」、「触発」、「質問」に分けてコメント、さらに、発表全体に対する意見を報告させ、特任助手の協力により集まったレポートに記されたコメントを発表者にフィードバックしている。

② SD 共通課題（ハラスメント）

ハラスメントの疑いがある事案については、個人情報保護に気を配りながら教員と職員が協同して解決に向け取り組んでいる。

③ その他研究科独自の取組

副指導教員による最終審査時以外の指導が総じて行われていない現状を鑑み、新カリキュラムが始まった令和元年度より副指導教員を含む指導教員グループによる修士課程あるいは博士後期課程の中間段階における研究進捗状況の確認作業を実施している。

修士課程においては、新カリキュラムへ移行後実施している中間発表をポスター発表にて実施した。

2. 今後の課題、方向性

修士課程入学者が定員を大幅に超過する年度が続いている状況を鑑み、入学定員の見直しを行う。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和5年4月13日	第1回生物資源学科会議 ・研究室環境チェックリストに関して	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、 太田垣、兒島、塚越、平兒、黒川、 藤原、武藤、上船：計13名
2	令和5年4月27日	第2回大学院農学研究科委員会 ・農学研究科修士課程および博士後 期課程における教育課程編成方針 の改訂について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、 加藤、鈴木、津呂、林（利）、日野、 平野、前林、松儀、湊、村野、森上、 山口、天野、荒川、太田垣、奥村、 兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、 橋本、濱本、林（義）、平兒、細田、 森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、 長澤、檜崎、藤原、武藤：計41名
3	令和5年4月27日	第2回生物資源学科会議 ・教授会よりハラスメント対策につ いて	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、 太田垣、兒島、塚越、平兒、黒川、 藤原、武藤、上船：計13名
		・障がい者の対応に関して	SD	
4	令和5年4月27日	第2回応用生物化学科会議 ・ハラスメント防止に向けての対策 について	FD	加藤、志水、奥村、前林、近澤、 林（利）、長澤、天野、松儀、山口、 濱本、湊：計12名
		・学生の学外への派遣について	SD	
5	令和5年4月27日	第2回生物環境科学科会議 ・大学院指導教員の変更について	SD	汪、長田、日野、細田、近藤、藤、 大浦、村野、橋本、檜崎、磯井： 計11名
6	令和5年5月11日	第4回生物環境科学科会議 ・大学院指導教員の変更について	SD	汪、長田、田村、細田、近藤、藤、 大浦、村野、橋本、檜崎、磯井： 計11名
7	令和5年5月18日	第4回生物資源学科会議 ・農学研究科カリキュラムの改正に ついて	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、 太田垣、兒島、塚越、平兒、黒川、 藤原、武藤、上船：計13名
8	令和5年5月25日	第6回生物環境科学科会議 ・専修分野（研究科）の名称変更 について	FD	汪、長田、日野、田村、細田、近藤、 藤、大浦、橋本、檜崎、磯井： 計11名
9	令和5年6月1日	第7回生物環境科学科会議 ・カリキュラム改正（大学院）につ いて ・専修分野（研究科）の名称変更 について	FD	汪、長田、日野、新妻、細田、近藤、 藤、大浦、村野、橋本、檜崎、磯井： 計12名
10	令和5年6月15日	第4回大学院農学研究科委員会 ・令和6年度学位授与方針対応表等 を用いた教育課程の自己点検の実 施について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、 加藤、鈴木、津呂、新妻、林（利）、 平野、前林、松儀、湊、森上、山口、 天野、荒川、太田垣、兒島、近藤、 志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、 林（義）、平兒、細田、森田（隆）、 森田（裕）、近澤、檜崎、武藤： 計36名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
11	令和5年6月15日	第5回生物資源学科会議 ・農学研究科カリキュラムの改正について	FD	森上、平野、津呂、荒川、太田垣、 兒島、塚越、平見、藤原、武藤、 上船：計11名
12	令和5年6月29日	第5回大学院農学研究科委員会 ・修士論文の副査担当に関する変更 案について ・修士課程研究進捗状況報告書の提 出について ・2023年度修士論文中間発表会につ いて	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、 加藤、田村、津呂、新妻、林（利）、 日野、平野、前林、松儀、湊、村野、 森上、山口、天野、荒川、太田垣、 奥村、兒島、志水、塚越、藤、中尾、 濱本、林（義）、平見、細田、 森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、 長澤、檜崎、藤原、武藤：計40名
13	令和5年7月6日	第5回応用生物化学科会議 ・アントレプレナーシップ教育につ いて	FD	加藤、志水、奥村、近澤、林（利）、 長澤、前林、天野、松儀、濱本、湊： 計11名
14	令和5年7月13日	第6回大学院農学研究科委員会 ・農学研究科修士課程の入学定員の 増員について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、 加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、 林（利）、日野、平野、前林、松儀、 湊、村野、森上、山口、天野、荒川、 太田垣、奥村、兒島、近藤、志水、 塚越、中尾、濱本、林（義）、平見、 細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、 近澤、長澤、藤原、武藤：計40名
15	令和5年7月27日	第7回大学院農学研究科委員会 ・アドミッションポリシーと入試方 式との対応表の更新について ・大学院カリキュラム改正委員会の 設置について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、 加藤、鈴木、田村、津呂、林（利）、 日野、平野、前林、松儀、湊、村野、 森上、山口、天野、荒川、太田垣、 兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、 橋本、濱本、林（義）、平見、細田、 森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、 長澤、檜崎、藤原、武藤：計41名
16	令和5年8月25日	第15回生物環境科学科会議（メール 審議） ・学系名と専修分野名について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、 近藤、藤、大浦、村野、橋本、檜崎、 磯井：計13名
17	令和5年9月7日	第10回生物資源学科会議 ・農学特別演習ⅠとⅡについて	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、 太田垣、兒島、塚越、平見、黒川、 藤原、上船：計12名
18	令和5年9月7日	第8回応用生物化学科会議 ・2023年度 GPS-Academic の実施に ついて ・大学院修士課程科目の農学特別演 習1,2の在り方について	FD	奥村、近澤、林（利）、長澤、前林、 天野、松儀、濱本、湊：計9名
		・障がい学生に対する配慮について	SD	
19	令和5年9月14日	第17回生物環境科学科会議 ・来年度以降の大学院農学特別演習 について	FD	汪、長田、新妻、細田、藤、橋本、 磯井：計7名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
20	令和5年9月28日	第11回生物資源学科会議 ・農学特別演習について	FD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、 太田垣、塚越、平児、黒川、藤原、 武藤、上船：計12名
21	令和5年9月28日	第9回応用生物化学科会議 ・大学院農学特別演習1,2の授業運営 について	FD	奥村、近澤、林（利）、長澤、前林、 天野、松儀、濱本、加藤、山口、湊： 計11名
22	令和5年10月19日	第10回大学院農学研究科委員会 ・新カリキュラムにおける農学特別 演習の取り扱いについて ・2024年度大学院農学研究科開講科 目について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、 田村、新妻、林（利）、日野、平野、 前林、松儀、湊、村野、森上、天野、 荒川、太田垣、奥村、兒島、近藤、 志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、 林（義）、平児、細田、森田（隆）、 森田（裕）、黒川、近澤、長澤、 檜崎、藤原、武藤：計38名
23	令和5年10月19日	第10回応用生物化学科会議 ・令和5年度GPS-Academic受検に ついて	FD	奥村、近澤、林（利）、長澤、前林、 天野、松儀、濱本、加藤、志水、 山口、湊：計12名
24	令和5年11月9日	第11回大学院農学研究科委員会 ・大学院農学研究科の改組について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、長田、 加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、 林（利）、日野、平野、前林、松儀、 湊、村野、森上、山口、天野、荒川、 太田垣、奥村、兒島、近藤、志水、 藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、 平児、細田、森田（隆）、森田（裕）、 黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原、 武藤：計42名
25	令和5年11月30日	第12回大学院農学研究科委員会 ・大学院農学研究科の改組に係る学 則改正新旧対照表について	FD	磯井、氏田、上船、大浦、長田、 加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、 林（利）、日野、平野、前林、松儀、 湊、村野、森上、山口、天野、荒川、 太田垣、奥村、兒島、近藤、志水、 塚越、藤、中尾、橋本、濱本、平児、 森田（裕）、長澤、檜崎、藤原、 武藤：計37名
26	令和5年11月30日	第17回生物資源学科会議 ・学びのコミュニティーへの申請に ついて	SD	森上、平野、津呂、鈴木、荒川、 太田垣、兒島、塚越、平児、黒川、 藤原、武藤、上船：計13名
27	令和5年11月30日	第14回応用生物化学科会議 ・学生実験における安全教育につ いて	FD	加藤、志水、奥村、林（利）、長澤、 前林、天野、松儀、山口、濱本、湊： 計11名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
28	令和5年12月14日	第13回大学院農学研究科委員会 ・2025年度大学院農学研究科入学試験基本事項について ・大学院生の留学や学会発表等による単位認定について	FD	磯井、上船、氏田、汪、大浦、長田、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、平児、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原、武藤：計42名

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 薬学部 ）

1. 令和5年度の活動報告

1) 薬学部 FD・SD 委員会活動目標及び活動項目

・FD・SD 委員会活動目標

薬学部の教育理念および目標に到達するために、教職員組織で取り組む教育改善をサポートする。

・FD・SD 委員会活動項目

A. 実質的な授業改善

①授業改善アンケートによる学生の学びの問題点の抽出

②学びの問題点に対する教育改善方法の検討・提案

B. 学生の主体的な学びの促進

①学生の主体的活動のサポートによる主体的な学びの促進

②学びの成果の可視化：学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善（全学共通 FD 課題）

C. 教育活動の可視化と IR の実施

①教育活動の可視化

② IR の実施と教育改善の提案：教学 IR（全学共通 SD 課題）

2) 令和5年度活動内容

A. 実質的な授業改善

①授業改善アンケートによる学生の学びの問題点の抽出

前期61科目実施：回収率平均 91.0%（昨年度91.2%、一昨年度93.8%）

後期53科目実施：回収率平均 87.4%（昨年度88.5%、一昨年度88.9%）

- ・本年度は、コロナ以前の講義形態に戻し、すべての科目で対面授業とした。そのためか、ジャンル別でまとめると、概ね理解度や目標達成感、成長実感、満足度においてまとまりを見せていることがわかったが、医療系においては科目間のばらつきがでていることが興味深く、成績との関連性など今後の解析が望まれる。また、すべてを対面授業としたことで、予習テストの実施を行った科目においては予習時間の増加に伴い、勉強時間の増加も認められている。その一方で、復習時間が減少している科目も散見された。これらの要因については、ポートフォリオを介した演習、小テストなどの実施状況などとともに、確認・検証していきたいと考えている。
- ・学生へのフィードバックとして、授業改善アンケートの自己評価部分をレーダーチャート化し、当該学年の平均を含めて可視化した。

- ・教員へのフィードバックでは、授業改善のヒントとなるように、IRの一環として下記のデータを作成し、フィードバックした。【フィードバック内容】当該科目の各アンケート項目の単純集計グラフ、学生の当該科目の授業スキル及び自己評価についてのリーダーチャート（全科目平均及び当該学年平均を含む）、当該科目成績と満足度の関係、当該科目成績と各指標の関連の散布図（基礎学力、授業外学修時間、授業集中、理解度、到達度、満足度）、各系列の科目の各指標の分布グラフ。
- ・教員から各科目履修学生への授業改善アンケートについてのフィードバックは、現在ポートフォリオで受付実施中（2月1日から29日まで、昨年度100%（前期））を達成。後期についても、同様の検討およびフィードバックを行う。

②学びの問題点に対する教育改善方法の検討・提案

下記内容で、FD・SD講演会およびワークショップを開催した。

- ・FD報告（教学IR 2017入学生評価）
実施日：令和5年7月20日
- ・FD・SD講演会「権限によらない全員発揮のリーダーシップとは」
実施日：令和6年2月6日
講師：松岡 洋佑氏（株式会社イノベスト）
- ・FD・SDワークショップ
実施日：令和6年3月11日
 - 1) 講演：「診療報酬改定から読み解く、社会から求められる薬剤師像」
講師：安川 孝志氏（厚生労働省保険局医療課）
 - 2) ワークショップ：「名城大学薬学部の抱える課題」

B. 学生の主体的な学びの促進

①**学びの成果の可視化**→【全学共通FD課題】①学生の学修成果を可視化する取り組みに基づく教育改善。毎年1～4年生を対象に、ディプロマ・ルーブリックと学修成果サマリーを利用した振り返りを半期ごとに行っており、前期は2年生、3年生の指導教員との面接時に利用した。また、1、4年生を対象にして、外部指標としてGPS-Academicを実施した。GPS-Academicについては、4年生の実施により初めて1年次との直接比較が可能となった。その結果、本学の薬学生は批判的思考力や協働的思考力は成長している一方で、創造的思考力やレジリエンス、コミュニケーション、さらに自己管理や対人関係、計画・実行といった点での成長度は乏しいという結果が得られており、問題解決に向かう姿勢や態度を身につけ、問題解決の力を磨くための経験を積む必要性が示唆された。

C. 教育活動の可視化と IR の実施 → 【全学共通 SD 課題】 教学 IR

①教育活動の可視化

教育活動の可視化として、2021年度より行っているディプロマ・ループリックによる振り返りを半期ごとに実施するとともに、半期の学びを振り返る学修成果サマリーの作成を行い、学生の学修のサポートを行った。

○振り返りの実施時期

前期：8月中（未実施は、再実施メールにて督促）

後期：3月中（未実施は、再実施メールにて督促）

○内容

- ・ディプロマ・ループリックを用いた振り返り
- ・半期の学びを振り返り、「満足な成果」「不満足な成果」について2科目ずつ選択し、以下の振り返りを行う
- ・思うようにいったこと、思うようにいかなかったこと、できるようになったこと
- ・まだ不十分なこと、つぎに活かすこと

② IR の実施と教育改善の提案

・令和4年度学位授与方針対応表の検証について

2017年度入学生に対して実施した。

- a. 領域、順次制、難易度を踏まえた体系性
- b. ディプロマ・ポリシーで謳う能力の育成とカリキュラムの整合性
- c. 学生の学修成果の確認
- d. アセスメントポリシーに基づく評価（学位プログラムの評価）

材料：間接データ：ディプロマ・ループリック、学修成果サマリー、授業評価アンケート、学修スタイルなど

直接データ：GPS-Academic、ジャンル別成績、修得度、CBT、国家試験など

上記の材料から分析を行い、学位授与方針対応表に基づく学修成果が得られているかを基本として評価を行い、課題と改善点を提案した。本年度は、2016年度の結果を比較対照とした2017年度入学生の評価を行い、2020年度から始まったコロナ禍の影響を評価し、当該学年（4～6年生）において大きな影響を受けていることを確認した。一方、2017年度入学生のストレート卒業率は上昇傾向を続けており、進級率については改善傾向が続いていることが確認された。

また、入学時からの成績変化を追跡し、学生の学業における挙動を可視化する試みを入学センターの協力を得て行い、1年次の成績がその後の学業成績の推移に大きな影響を与えていることが明らかとなり、1年次における学生自身の学修への取り組みの重要性があらためて浮き彫りになったと考えている。

2. 今後の課題、方向性

上記の活動で判明した問題点や課題はいくつかあり、それらに対する解決策が明らかなものについては、その対応が実現可能かどうか、また明白な解決策のないものについては、どのように対策をしていくべきか、議論していく必要があると考えている。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和5年7月11日	第1回FD・SD委員会 ・2017年度入学生の学修成果の可視化について ・成績評価の平準化について ・本年度の活動について	FD	能勢委員長、飯田、大津、亀井、小森、田口、丹羽、野田、犬山 計9名
2	令和5年7月15日	第2回FD・SD委員会（メール審議） ・2017年度入学生IRデータについて	FD	能勢委員長、飯田、大津、亀井、小森、田口、丹羽、野田、村田、犬山 計10名
3	令和5年7月20日	第8回拡大教授会 ・アセスメントポリシーに基づく学修成果のエビデンスについて（2017年入学生の学修成果の可視化）	SD	北垣、吉田、原、西川、坂井、井藤、高谷、能勢、日坂、山田、水本、豊田、湯川、根岸、都築、村田、橋本、柳澤、神野、青木、岡本（誉）、打矢、輪島、水野、今西、小島、平松、衣斐、間宮、小田、栗本、丹羽、近藤、灘井、加藤、榊原、岡本、奥田、大津、田辺、酒井（隆）、野田、吉見、築山、伊藤、早川、山本、亀井、半谷、黒野、長谷川、伊東、稲垣、守屋、牛田、梅田、金子、飯田、小森、田口、黒羽子、植田、武永、リバック、酒井（達）、高橋、宮川、田巻、藤井、石川 計70名
4	令和5年8月31日	第10回拡大教授会 ・令和6年度学位授与方針対応表および履修系統図について	FD	北垣、吉田、原、西川、坂井、井藤、高谷、能勢、日坂、山田、水本、豊田、湯川、根岸、都築、村田、橋本、柳澤、神野、青木、岡本（誉）、打矢、輪島、水野、今西、小島、平松、衣斐、間宮、小田、栗本、丹羽、近藤、灘井、加藤、榊原、岡本、奥田、大津、田辺、酒井（隆）、野田、吉見、築山、伊藤、早川、山本、亀井、半谷、黒野、長谷川、伊東、稲垣、守屋、牛田、梅田、金子、飯田、小森、田口、黒羽子、植田、武永、リバック、酒井（達）、宮川、田巻、藤井 計68名

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
5	令和5年9月13日	第3回FD・SD委員会（メール審議） ・FD・SD活動中間報告について ・前期授業改善アンケートについて	FD	能勢委員長、飯田、大津、亀井、小森、田口、丹羽、野田、村田、石川 計10名
6	令和5年9月20日	第4回FD・SD委員会（メール審議） ・新カリキュラムの学位授与対応表について	FD	能勢委員長、飯田、大津、亀井、小森、田口、丹羽、野田、村田、石川 計10名
7	令和5年12月1日	第5回FD・SD委員会（メール審議） ・FD・SD講演会のテーマについて	FD	能勢委員長、飯田、大津、亀井、小森、田口、丹羽、野田、村田、石川 計10名
8	令和6年1月26日	第6回FD・SD委員会（メール会議） ・FD・SDワークショップの詳細について ・学生フォーラムについて	FD	能勢委員長、飯田、大津、亀井、小森、田口、丹羽、野田、村田、石川 計10名
9	令和6年2月6日	令和5年度薬学部FD・SD講演会 「権限によらない全員発揮のリーダーシップとは」 講師：株式会社イノベスト代表取締役 松岡洋佑氏	FD	北垣、吉田、西川、坂井、井藤、能勢、日坂、山田、水本、湯川、根岸、橋本、神野、青木、岡本（誉）、打矢、輪島、今西、小島、平松、間宮、丹羽、近藤、灘井、加藤、岡本、奥田、大津、野田、吉見、築山、伊藤、亀井、半谷、黒野、長谷川、稲垣、牛田、小森、田口、黒羽子、植田、武永、藤井、石川 計44名
10	令和6年2月13日	第7回FD・SD委員会（メール審議） ・FD・SD活動最終報告について ・後期授業改善アンケートについて	FD	能勢委員長、飯田、大津、亀井、小森、田口、丹羽、野田、村田、石川 計10名

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
11	令和6年3月11日	<p>令和5年度薬学部FD・SD ワークショップ 「診療報酬改定から読み解く、 社会から求められる薬剤師像」 講師：安川孝志氏（厚生労働 省保険局医療課） 「名城大学薬学部の抱える課 題」</p>	FD	<p>午前の部（講演会） 能勢委員長、伊東、井藤、稲垣、 飯田、牛田、植田、打矢、奥田、 岡本（誉）、大津、加藤、亀井、 北垣、黒野、近藤、小森、小島、 坂井、酒井、神野、高谷、武永、 都築、灘井、西川、丹羽、根岸、 野田、橋本、長谷川、日坂、平松、 間宮、水本、守屋、山本、吉見、 吉田、輪島、宮川、石川 計42名</p> <p>午後の部（ワークショップ） 能勢委員長、伊東、井藤、稲垣、 飯田、牛田、植田、打矢、奥田、 岡本（誉）、大津、加藤、亀井、 北垣、黒野、黒羽子、近藤、小森、 小島、坂井、酒井、神野、武永、 都築、灘井、西川、丹羽、根岸、 野田、橋本、長谷川、日坂、平松、 間宮、守屋、山本、吉見、吉田、 輪島 計39名</p>

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 薬学研究科 ）

1. 令和5年度の活動報告

1) 大学院薬学研究科 FD・SD 委員会の活動方針と目標

薬学研究科における教育の質の向上を図るため、薬学研究科 FD・SD 委員会が中心となって FD・SD 活動を推進する。この活動を通じて研究科全教員が実効性の高い授業改善を進めるとともに、所属学生の研究活動が活性化されるよう教育遂行能力や指導力の向上を図る。

2) 令和5年度の FD・SD 委員会の活動内容

以下について活動を行った。(行っている。)

- 教員・学生に対する授業改善アンケートの実施と評価のフィードバック
- 教員・学生に対する特殊研究評価アンケートの実施と評価のフィードバック
- 副指導教員との面談の実施
- 授業改善アンケートの内容についての検討

3) FD・SD の取り組みを推進する具体的な活動実績

I. 授業改善アンケートを活用した今後の授業改善について

令和5年度「特論」科目（講義）に関するアンケートを前期終了時に実施した。

該当科目：2 教科、回答率 学生：100%、教員：70%（令和4年度前期 該当科目：3 教科、回答率 学生：78%、教員：57%、令和3年度前期：1 教科、回答率 学生：33%、教員：56%）アンケートの実施方法を Google Form を利用する方法に変更し、回収率向上につなげることができた。アンケート結果を担当教員に配布し、次年度のシラバスや授業内容・方法の改善へ向けた情報としての利用を促した。後期開講科目についても、実施する予定である。

II. 特殊研究評価アンケートについて

3月初旬に実施する特殊研究成果発表会の後に特殊研究評価アンケート調査を予定しており、結果を教員・学生双方にフィードバックする予定である。

III. 副指導教員との面談について

昨年度に引き続き、副指導教員との面談機会を設け（面談シート回収率：25%）、主指導教員とは異なる多様な助言が得られるような環境づくりを推進している。なお、副指導教員との面談については、締切日を10月末に設定しているため、現時点では回収率が低くなっているが、今後締切日にむけて回収率が上がってくると思われる。

2. 今後の課題、方向性

(1) 授業改善へ向けたアンケートの実施

次年度も今年度と内容を変更することなく、大学院講義に対するアンケートを実施する。学生・教員双方からの要望や改善点を大学院運営委員会で報告・共有化し、講義が学生にとっての継続的な学びの場となるよう講義内容や実施方法を改善していく。また、必要に応じて、大学院講義の在り方について、学部FD・SD委員会と協同し、FDワークショップの実施を検討する。

(2) ディプロマポリシーに明示した学修成果の可視化

ディプロマポリシーに明示した学修成果を可視化する試みの一つとして、今年度より学生に対し、後期開講科目の授業改善アンケート実施時に、年度振り返りアンケートを実施する予定である。

(3)「教育」の工夫や実践を知る機会の提案、提供

FD講演会の開催と教員への研修機会の提供は、今後の検討課題である。学部との共催も視野に入れ検討したい。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和5年 9月～10月	令和5年度 前期授業改善アンケート	FD	全大学院生 井藤千裕、高谷芳明、打矢恵一、 小森由美子、輪島丈明、水野初、 今西進、岡本誉士典、神野透人、 豊田行康、水本秀二、山田修平、 根岸隆之、栗本英治、湯川和典、 早川伸樹、小田彰史、村田富保
2	令和5年 9月～10月	副指導教員との面談	FD	全大学院生 築山郁人、水野初、半谷眞七子、 坂井健男、村田富保、亀井浩行、 奥田知将、平松正行、衣斐大祐、 柳澤聖
3	令和5年11月30日	第12回薬学研究科運営委員会 前期授業改善アンケート結果の振り返り	SD	研究科運営委員 45名
4	令和6年2月下旬	令和5年度 後期授業改善アンケート	FD	全大学院生 野田幸裕、奥田知将、築山郁人、 半谷眞七子、岡本誉士典、柳澤聖、 水本秀二、灘井雅行、衣斐大祐、 神野透人、大橋渉、村田富保、 マーク・リバック

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
5	令和6年3月初旬	令和5年度 特殊研究評価アンケート	FD	全大学院生 【主指導教員】 井藤千裕、大津史子、小田彰史、 神野透人、灘井雅行、丹羽敏幸、 築山郁人、野田幸裕、平松正行、 湯川和典、岡本浩一、柳澤聖
6	令和6年3月初旬	令和5年度 振り返りアンケート	FD	全大学院生

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 都市情報学部 ）

1. 令和5年度の活動報告

＜活動方針＞

① FD 共通課題

外部調査（アセスメントテスト GPS-Academic）により、学生の学修成果を可視化し、学年間での比較、学年進行による学習進捗確認を通じて、専門科目、ゼミナール等での学生指導に役立てる。

② SD 共通課題（社会人基礎力の育成）

- ・【社会人基礎力 育成の手引き－「実践のための工具箱」－『社会人基礎力育成の手引き－日本の将来を託す若者を育てるために教育の実践現場から』（経済産業省 制作・調査 河合塾）】を活用して、組織的な社会人基礎力の育成方法を検討する。
- ・経済産業省『社会人基礎力を育成する授業30選』実践事例集を活用した教職員に必要な知識及び技能を修得する。
- ・FD・SD 学習会、FD・SD フォーラム、学外での FD・SD 関連研修会等の情報提供を行い、関係行事への積極的参加を推奨する。

③ その他学部独自の取り組み

社会人基礎力診断テストを継続的に実施することにより、学生の成長度合いを組織的に確認し、学生の修学意欲を向上させる取り組みとして活用していく。

社会人基礎力診断テストにおける入学から卒業までの推移把握を実施し、経年比較による在学生の傾向を分析し、その結果を全教員に共有する。

＜目標＞

全教員が、本学部の人材養成目的を認識し、学位授与方針（Diploma Policy）に記載する資質能力を身につけさせることを意識したうえで、授業における課題、工夫を明確にする。特にゼミナール運営・指導の工夫に取り組み、改善に繋げることによって学生の成長に役立てる。また、組織としては、学生の成長推移、学習進捗を分析確認しながら、新しい取り組みも検討する。

＜活動内容＞

① 学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

- ・『アセスメントテスト GPS-Academic』1年次と3年次の経年での集計・分析結果を教授会で共有し、特に本学部学生の学習傾向を把握することによって、授業改善等のFD活動に役立てる。
- ・全学年の学生を対象に社会人基礎力診断テストを実施し、集計結果を教授会で共有する。各教員が集計結果を活かしてゼミナール実施方法を工夫し、ゼミナール指導における学生

の研究力向上、プレゼンテーション能力向上に繋げる。

②その他学部独自の取り組み（SD含む）

授業改善アンケートの対象科目を1教員2科目以上で実施し、フィードバックされた結果を各教員が授業改善に繋げる。

ゼミナールにおいては、中間発表会、卒業論文発表会を実施することで、研究力、プレゼンテーション能力等の成長度についての検証をする。

在学生の状況や様子、講義受講状況を報告しあい、情報共有、情報交換を活発に行うことによって、学生の修学支援に繋げる。

2. 今後の課題、方向性

FD・SD委員会を中心として、学部内関連委員会との連携による系統的な取り組みの検討・実施を実現する。具体的には、講義・ゼミナール運営の工夫・改善点についての意見交換、GPS-Academic アセスメントテスト実施結果、学生の受講状況等についての情報共有を通して、教育を中心とした組織的で多面的な改善に繋げていくための取り組みの場とする。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和5年4月20日 (FD・SD委員会)	令和4年度卒業生の卒業時社会人基礎力診断テスト実施結果について、入学時からの推移について集計資料に基づいて審議した。	FD	酒井、柄谷、手嶋 計3名
2	令和5年5月18日 (FD・SD委員会)	FD・SD取組を推進する組織の活動について、活動目標及び具体的取り組みの内容を確認した。	SD	酒井、柄谷、手嶋 計3名
3	令和5年6月22日 (FD・SD委員会)	令和5年度入学者を対象とした入学前教育の見直しについて意見交換した。	SD	酒井、稲葉、柄谷、手嶋 計4名
		令和5年度入学者を対象としたGPS-Academicアセスメントテストの受検完了について確認した。		
4	令和5年7月20日 (FD・SD委員会)	社会人基礎力診断テスト（1・2・3・4年次）について、年次ごとの回答状況と経年による回答の変化を確認のうえ、結果が低い能力を向上させる方策について意見交換し、次回教授会（7月27日開催）での報告について検討した。	FD	酒井、柄谷、手嶋 計3名
		入学前教育における実施科目の選定について意見交換のうえ、検討した。	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
5	令和5年7月27日 (教授会)	社会人基礎力診断テスト(1・2・3・4年次)の実施分析結果を共有し意見交換した。	FD	赤木、稲葉、宇野、大野(栄)、鎌田、亀井、柄谷、酒井、島田、杉浦(真)、杉浦(伸)、鈴木(淳)、張、手嶋、西野、昇、福島、水野、宮本、森杉、山谷、若林、田口、大野(沙)、鈴木(千)、森 計26名
6	令和5年9月21日 (FD・SD委員会)	SD活動共通課題として、今年度の新たな取り組みである【社会人基礎力育成の手引き-「実践のための工具箱」-『社会人基礎力育成の手引き-日本の将来を託す若者を育てるために教育の実践現場から』(経済産業省 制作・調査 河合塾)】の資料を確認し、次回教授会(9月28日開催)で構成員に共有することになった。	SD	酒井、柄谷、手嶋 計3名
7	令和5年9月21日 (教務委員会)	学務センターからの依頼に基づく成績評価基準の平準化について、資料に基づいて意見交換を行った。	FD	福島、赤木、森杉、大野(沙) 計4名
8	令和5年9月28日 (教授会)	SD活動共通課題として、今年度の新たな取り組みである【社会人基礎力育成の手引き-「実践のための工具箱」-『社会人基礎力育成の手引き-日本の将来を託す若者を育てるために教育の実践現場から』(経済産業省 制作・調査 河合塾)】の資料を確認し、構成員に共有した。	SD	赤木、稲葉、宇野、大野(栄)、鎌田、亀井、柄谷、小池、酒井、島田、杉浦(真)、杉浦(伸)、鈴木(淳)、張、手嶋、西野、昇、福島、水野、宮本、森杉、山谷、若林、大野(沙)、森 計25名
9	令和5年10月19日 (FD・SD委員会)	GPS-Academic アセスメントテスト1年次実施結果について、ベネッセiキャリア担当者からの説明により、確認と課題の抽出を行った。	SD	酒井、柄谷、小池、手嶋 計4名
10	令和5年12月14日 (FD・SD委員会)	専任教員に対して実施する『授業改善の達成度に関する評価アンケート』の設問項目を検討し、確認した。	FD	酒井、手嶋 計2名
11	令和6年2月15日 (教授会)	GPS-Academic アセスメントテスト実施結果のまとめ及び学修成果の現状を確認し、課題抽出した。(講演:ベネッセiキャリア森岡氏)	SD	赤木、稲葉、宇野、大野(栄)、鎌田、亀井、柄谷、酒井、島田、杉浦(真)、杉浦(伸)、鈴木(淳)、手嶋、西野、昇、福島、水野、宮本、森杉、山谷、大野(沙)、鈴木(千)、森 計24名
12	令和6年2月22日 (FD・SD委員会)	GPS-Academic アセスメントテスト実施結果報告の振り返りと次年度取り組みへの展開について議論した。 専任教員に対して実施した『授業改善の達成度に関する評価アンケート』結果を集計し、結果を共有した。	FD	酒井、柄谷、小池、手嶋 計4名

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 都市情報学研究科 ）

1. 令和5年度の活動報告

＜活動方針＞

- 1) 研究者として必要な、高度な能力と専門知識、問題解決力等を身につけ、専門職人材として社会のあらゆる場面でリードできる研究者の養成を目指す。
- 2) 成績評価・研究進捗の評価・論文審査など、大学院修了に向けた研究プロセスの中で、研究指導担当者としての係り方、研究指導の効果、適切性などを確認するとともに、研究者養成における課題の検討と改善についてFD活動の継続的取り組みとする。
- 3) 個別の研究指導のなかでは、研究者として研究推進に関わりながら、研究発表の活性化を促し、修士論文や博士論文の成果向上に繋げる。

＜目標＞

- 1) 高度専門職人材に必要な「基礎学力」や「専門知識」などの『技術的能力』に加え、「コミュニケーション能力」や「バイタリティー」、「積極性」、「協調性」など『行動能力』の必要性を意識させる。
- 2) 大学院入学後、遅くとも半年以内に研究テーマおよび研究計画書を主指導教員の指導で作成するとともに、副指導教員を含めた研究に関するディスカッションの機会を学生自ら計画し、実施する。
- 3) 学会参加や研究発表を推奨する。
- 4) 年度末に行われる研究報告会（中間発表および審査発表）に、すべての大学院生および教員の参加を促し、学生相互で研究報告内容を評価する。
- 5) すべての大学院教員に教室内での座学に留まらず、少なくとも半年に1回以上の学外での体験学習や外部講師とのディスカッションの機会の設定を推奨する。

＜活動内容＞

① FD 共通課題

修士課程及び博士後期課程の1年次を対象として実施する「研究中間発表会」においては、聴講者が共通の観点での評価を行い、その評価結果を、研究指導教員を通じて発表者へフィードバックする。発表者は評価結果を受け止めながら、研究の深化、研究者としての成長をはかるとともに論文の完成を目指し、審査発表会に向けて発表技術の向上に努める。

指導教員は、研究倫理教育を徹底するとともに、『研究指導プロセス』に基づいて、指導学生の研究進捗の状況を確認する。研究科は指導教員と情報を共有し、研究指導プロセスの適切性について意見交換しながら、学位授与に向けた研究進捗と研究成果を確認する。

② SD 共通課題

国の大学院政策や他大学並びに他研究科の取り組みなどを絶えず注視することで、本研究

科において取り組んでいる研究指導活動、将来構想、社会のニーズに照らした博士人材づくりについて、さらなる展開を検討していく。

③その他課題

博士後期課程については、学位授与申請に向けた申請基準の充足状況を年次進行で確認する方法について、新たに作成する『研究活動進捗報告書』を効果的な取り組みとして確立する。

大学院生の教育能力の開発の取り組みとして努力義務（大学院設置基準）とされている『プレFD』について検討する。

2. 今後の課題、方向性

- 1) 本研究科が掲げるディプロマポリシーを確実に身につけることができるように、研究進捗のプロセス管理の方法等について、組織的な取り組みの適切性の検証を継続的に行う。
- 2) 修士論文や博士論文の成果向上の定期的な検証を継続的に行う。
- 3) 大学院修了時アンケート及び大学院生満足度調査の結果から、学生の学習成果、意見・要望等を把握し改善に努めるとともに、学部FD・SD委員会との連携の下、組織的な取り組み改善に繋げていく場とする。
- 4) 現行カリキュラムについて、各授業担当者から意見を聴取し、教育課程編成方針に照らしながら次期カリキュラム改正に向けた方向性を検討する。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和5年4月13日 学務委員会	博士課程の学位授与申請手続きの確認 修士論文作成要領の確認 学位授与に関する申請基準及び審査基準の確認	FD	森杉、西野、昇、福島、山谷 5名
		令和4年度論文公聴会及び中間発表会の聴講者による評価集計結果の確認	SD	
2	令和5年5月11日 学務委員会	研究中間発表会、学位論文公聴会実施要領の確認 院高度化費の運用見直しの提案	FD	森杉、西野、福島 3名
3	令和5年6月15日 学務委員会	院高度化費の執行基準の見直し審議	FD	森杉、西野、昇、福島、山谷 5名
		学位授与に関する申請基準及び審査基準の取扱い審議	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	令和5年7月13日 学務委員会	修士課程及び博士後期課程の研究計画書確認 院高度化費の執行基準の見直し審議 学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検審議 博士後期課程の学位授与申請基準の見直し審議	FD	森杉、昇、福島、山谷 4名
5	令和5年9月14日 学務委員会	博士論文（課程・論文）の学位授与申請基準の見直し審議	SD	森杉、西野、昇、福島、山谷 5名
6	令和5年10月12日 学務委員会	博士論文（課程・論文）の学位授与申請基準の見直し継続審議 研究活動進捗報告書（案）の意見交換<継続>	SD	森杉、西野、福島、山谷 4名
7	令和5年11月9日 学務委員会	『博士の学位授与取扱に関する申合せ事項』の見直し審議	SD	森杉、西野、昇、福島、山谷 5名
8	令和6年2月13日 学務委員会	研究活動進捗報告書（修正案）の見直しについて意見交換 修士課程の入学試験改革（案）について意見交換	SD	森杉、昇、福島、山谷 4名
9	令和6年3月7日 学務委員会	現行カリキュラムの検証（履修者及び授業担当教員への聞き取り）結果の共有と課題の確認	FD	森杉、西野、昇、福島 4名

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 人間学部 ）

1. 令和5年度の活動報告

人間学部FD・SD委員会は、委員長1名、委員4名、事務職員1名により構成される。教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上を活動目標としてFD・SD活動に取り組んでいる。令和5年度は以下に取り組んだ。

- 人間学部FD・SD委員会の開催
- 人間学部FD・SDフォーラムの開催
- 人間学部SD学習会の開催
- 学修成果の可視化を目的とした外部調査（GPS-Academic）の実施
- 人間学部FD活動（成績評価基準の平準化について）

人間学部教授会では、大学教育開発センター委員会でのFD・SDに関連する事項が報告され、本学のFD・SD活動についての情報共有が図られている。4月に開催した第1回人間学部・人間学研究科合同FD・SD委員会では、FD・SD活動の年間計画および進め方に関して協議を行った。

第2～3回学部・研究科合同FD・SD委員会での検討を経て、7月6日にSD学習会として、「アカデミックハラスメントに関する学習会」が開催された。また、7月20日に、第1回人間学部・研究科合同FD・SDフォーラム「新任教員を交えた教授法に関する意見交換会」が開催された。令和5年4月に本学に着任した教員から話題提供がなされ、授業における工夫等を情報交換・共有することによって授業づくりに活かす機会とすることを趣旨とした。

9月の第9回人間学部教授会においては、人間学部教務委員会から、同一名称科目の成績の分布に加え、シラバスの成績評価方法の一覧データの抜粋が提示され、専任教員が担当する「基礎ゼミナール」「文献講読A」「基幹ゼミナール」「卒業研究ゼミナール」の4科目について成績分布の検討がなされた結果、以下のような意見があった。

【ゼミに関すること】

- 判断基準ができる評価物があることが大切である。

【成績評価方法に関すること】

- 評価の多様化、経過及び色々な角度からの判断が必要である。
- 授業によって目指す方針が異なるので、授業内での対応が重要である。
- 再試験時の平常点の取り扱い基準が明確でない。

今後とも「成績評価基準の平準化」については引き続き検討がなされる予定である。

第5回学部・研究科合同でのFD・SD委員会での検討を経て、10月12日に、第2回人間学部・

研究科合同のSD学習会として、事務職員を講師とした「教務学習会」が開催された。この学習会は学生への履修指導を的確に行うために必要とされる知識等を向上させるための組織的な取り組みであるSD活動に該当する。内容としては、教務事項のうち煩雑なルールや間違いやすいポイント、他学部でのトラブル事例が取りあげられた。教務経験の豊富な職員2名が教務事項に関する3択問題を10問出題し、教員が回答した後、職員が解説する方式をとった。学則や教務規程の情報共有がなされたことにより、今後の履修指導について考える有意義な場となった。

また、3月には学部・研究科合同の第2回FD・SDフォーラムを開催する予定である。2023年度に実施したGPS-Academicの結果に関してのベネッセiキャリアの担当者による説明の後、2021年度（当時1年次生）と2023年度に受検した学生（本年度3年次生）の両結果について比較しながら意見交換を行い、今後の教育課題を見出すことを試みる。

2. 今後の課題、方向性

人間学部の学生の4年間における学びを支援するための教育内容および教育環境のさらなる改善に向けた取り組みを検討、実施する。次年度には、以下のFD・SD活動を予定している。

- FD・SD委員会の開催
- FD・SDフォーラムの開催
- SD学習会の開催
- FD・SD情報の共有化のための活動
- 学修成果を可視化する取り組みとしてのGPS-Academicの実施

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD区分	出席者
1	令和5年4月27日	【第1回 FD・SD委員会（研究科合同）】 ・2023年度 FD・SD委員会活動予定 ・3年生GPS-Academicの実施について	FD・SD FD	岡戸、谷口、宮嶋、志村、高橋、西村、中村（7名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
2	令和5年 5月12日～17日	【第2回 FD・SD委員会（研究科合同）】 ・各学部・研究会等におけるFD・SD取組の推進組織一覧表の確認について ・GPS-Academicの独自設問について ・ハラスメントに関する学習会の開催について（SD学習会） ・FD・SDフォーラム（新任教員を交えた教授法に関する意見交換会）について	FD・SD FD SD FD	岡戸、谷口、宮嶋、志村、高橋、西村、中村（7名）
3	令和5年6月20日	【第3回 FD・SD委員会（研究科合同）】 ・MECプログラムの見直しについて ・GPS-Academicの受検率について ・7月に開催するSD学習会について ・FD・SDフォーラムについて	FD FD SD FD	岡戸、谷口、宮嶋、志村、高橋、中村（6名）
4	令和5年7月6日	第1回 人間学部・研究科合同SD学習会 テーマ：アカデミックハラスメントに関する学習会	SD	岡戸、伊藤（康）、伊藤（俊）、一ノ谷、笠井、加茂、塩崎、船田、和田、櫻井、西村、水尾、畑中、志村、ウエストビィ、加藤、原田、ビーチ、谷口、西山、高橋、中村、荒川（23名）
5	令和5年7月20日	第1回 人間学部・研究科合同SD・FDフォーラム テーマ：新任教員を交えた教授法に関する意見交換会	FD	岡戸、伊藤（俊）、一ノ谷、笠井、加茂、塩崎、船田、和田、櫻井、西村、水尾、宮嶋、畑中、志村、ウエストビィ、加藤、原田、ビーチ、谷口、西山、高橋、中村（22名）
6	令和5年 8月1日～4日	【第4回 FD・SD委員会】 メール審議 人間学部FD・SD活動報告（中間）の作成について	FD・SD	岡戸、谷口、宮嶋、志村、高橋、中村（6名）
7	令和5年9月7日	【第9回 人間学部教授会】 成績評価基準の平準化について	FD	一ノ谷、伊藤（康）、伊藤（俊）、岡戸、笠井、加茂、櫻井、塩崎、谷口、西村、畑中、船田、水尾、和田、ウエストビィ、加藤、志村、西山、原田、高橋、荒川、中村（22名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
8	令和5年9月21日	【第5回 FD・SD委員会（研究科合同）】 1. 令和6年度入学前オリエンテーションについて 2. 3年次生向けGPS-Academicの受検率について 3. FD・SD学習会について 4. 授業改善アンケートについて	FD FD SD FD	岡戸、志村、高橋、西村、中村（5名）
9	令和5年10月12日	第2回 人間学部・大学院人間学研究科合同SD学習会 テーマ：教務学習会	SD	岡戸、伊藤（康）、伊藤（俊）、笠井、加茂、塩崎、船田、和田、櫻井、西村、宮嶋、畑中、志村、ウェストビィ、加藤、原田、ビーチ、谷口、西山、高橋、荒川、深川、中村（23名）
10	令和5年11月9日	【第6回 FD・SD委員会】 ・MS26戦略プランおよび2024年度事業計画書について ・3年次生向けGPS-Academicの受検率について ・授業改善アンケートについて	FD FD FD	岡戸、谷口、志村、高橋 香、宮嶋、中村（6名）
11	令和6年 1月15日～17日	【第7回 FD・SD委員会（大学院合同）】 メール審議 ・FD・SD活動報告書の作成について ・第2回FD・SDフォーラムについて ・GPS-Academicについて	FD・SD FD FD	岡戸、西村、志村、高橋、谷口、宮嶋、中村（7名）
12	令和6年 2月14日～16日	【第8回 FD・SD委員会】 メール審議 ・令和5年度事業計画書およびチェックリストの作成について ・次年度GPS-Academicの独自設問（1年次および3年次）について	FD・SD FD	岡戸、志村、高橋、谷口、宮嶋、中村（6名）
13	令和6年2月29日 ～3月4日	【第9回 FD・SD委員会（大学院合同）】 メール審議 ・令和6年度サプリメント教育について ・非常勤講師との意見交換会について	FD FD	岡戸、志村、高橋、谷口、宮嶋、中村（6名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
14	令和6年3月28日	<p>第2回 人間学部・大学院人間学研究科合同FD・SDフォーラム</p> <p>テーマ：人間学部におけるGPS-Academicの結果からみる人間学部の学修の傾向について</p> <p>講師：ベネッセiキャリア 森岡様</p>	FD	<p>岡戸、伊藤（康）、伊藤（俊）、笠井、加茂、塩崎、船田、櫻井、西村、水尾、宮嶋、畑中、志村、ウェストビィ、加藤、原田、ビーチ、谷口、西山、高橋、深川、中村（22名）</p>

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 人間学研究科 ）

1. 令和5年度の活動報告

人間学研究科 FD・SD 委員会は、委員長1名、委員3名（内1名は学部 FD・SD 委員長を兼務）、事務職員1名により構成される。教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上を活動目標として FD・SD 活動に取り組んでいる。令和5年度は以下に取り組んだ。

- 人間学部・人間学研究科 FD・SD 委員会の開催
- 人間学部・人間学研究科 FD・SD フォーラムの開催
- 人間学部・人間学研究科 SD 学習会の開催
- 授業アンケートの実施

本年度の活動の目標は、教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上のために①教育内容及び教育環境の改善、②教育技法の改善・向上のための具体的活動、③教員の資質開発を図るための組織的な研修である。計画内容（具体的取り組み）[達成度指標]は、以下の通りである。（1）学部の FD・SD 委員会と合同で教員の資質向上につながる FD・SD 活動を実施する [実施した FD・SD 活動回数]。（2）大学院生に対する聴き取り調査を行い、問題点を明らかにするとともに、要望への対応策を検討する [聴き取りの実施割合、配慮事例数]。

教授法の充実等については、学部と合同での FD・SD フォーラムを実施した。1年生には、面接による授業アンケート、2年生には、紙面による授業アンケートを実施した。院生が少ないことからくる制約は感じられた。研究科委員会において、アンケート結果を報告し、全教員での共有を図った。

学部・研究科合同 FD・SD 委員会での検討を経て、7月6日に SD 学習会として、「アカデミックハラスメントに関する学習会」が開催された。また、7月20日に、第1回人間学部・研究科合同 FD・SD フォーラム「新任教員を交えた教授法に関する意見交換会」が開催された。令和5年4月に本学に着任した教員から話題提供がなされ、授業における工夫等を情報交換・共有することによって授業づくりに活かす機会とすることを趣旨とした。

10月12日に、第2回人間学部・研究科合同の SD 学習会として、事務職員を講師とした「教務学習会」が開催された。この学習会は学生への履修指導を的確に行うために必要とされる知識等を向上させるための組織的な取り組みである SD 活動に該当する。内容としては、教務事項のうち煩雑なルールや間違いやすいポイント、他学部でのトラブル事例が取りあげられた。教務経験の豊富な職員2名が教務事項に関する3択問題を10問出題し、教員が回答した後、職員が解説する方式をとった。学則や教務規程の情報共有がなされたことにより、今後の履修指導について考える有意義な場となった。

また、3月には学部・研究科合同の第2回FD・SDフォーラムを開催する予定である。2023年度に実施したGPS-Academicの結果に関してのベネッセiキャリアの担当者による説明の後、2021年度（当時1年次生）と2023年度に受検した学生（本年度3年次生）の両結果について比較しながら意見交換を行い、今後の教育課題を見出すことを試みる。

2. 今後の課題、方向性

本研究科におけるFD・SD活動については、従来のように院生を対象にした授業・研究環境に関するアンケートを継続すると同時に、講義のあり方や研究指導のあり方を検討する。今後の計画としては、作成された学位授与方針対応表に沿ったシラバスの作成と点検、後期授業改善アンケートの実施、また、以下のFD・SD活動を予定している。

- FD・SD委員会の開催
- FD・SDフォーラムの開催
- SD学習会の開催
- FD・SD情報の共有化のための活動

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者 ※研究科所属教職員のみ記載
1	令和5年4月27日	【第1回 FD・SD委員会（学部合同）】 ・2023年度 FD・SD委員会活動予定	FD・SD	岡戸、笠井、西村、大西（4名）
2	令和5年 5月12日～17日	【第2回 FD・SD委員会（学部合同）】 ・各学部・研究会等におけるFD・SD取組の推進組織一覧表の確認について ・ハラスメントに関する学習会の開催について（SD学習会） ・FD・SDフォーラム（新任教員を交えた教授法に関する意見交換会）について	FD・SD SD FD	岡戸、笠井、西村、大西（4名）
3	令和5年5月25日	【第3回 研究科FD・SD委員会】 ・2023年度前期授業アンケートの実施について	FD・SD	岡戸、笠井、西村、大西（4名）
4	令和5年7月6日	第1回 人間学部・研究科合同SD学習会 テーマ：アカデミックハラスメントに関する学習会	SD	岡戸、伊藤（康）、伊藤（俊）、一ノ谷、笠井、加茂、塩崎、船田、和田、櫻井、西村、水尾、畑中、原田、西山（15名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者 ※研究科所属教職員のみ記載
5	令和5年7月20日	第1回 人間学部・研究科合同SD・FDフォーラム テーマ：新任教員を交えた教授法に関する意見交換会	FD	岡戸、伊藤（俊）、一ノ谷、笠井、加茂、塩崎、船田、和田、櫻井、西村、水尾、宮嶋、畑中、原田、西山（15名）
6	令和5年 8月2日～4日	【第4回 研究科FD・SD委員会】メール審議 ・人間学研究科FD・SD活動報告（中間）の作成について	FD・SD	岡戸、笠井、西村、深川（4名）
7	令和5年10月12日	第2回 人間学部・大学院人間学研究科合同SD学習会 テーマ：教務学習会	SD	岡戸、伊藤（康）、伊藤（俊）、笠井、加茂、塩崎、船田、和田、櫻井、西村、宮嶋、畑中、原田、西山、深川（15名）
8	令和5年11月9日	【第5回 研究科FD・SD委員会】 ・MS26戦略プランおよび2024年度事業計画書について ・後期授業改善アンケートの実施について	FD FD・SD	岡戸、笠井、西村、深川（4名）
9	令和6年 1月16日～18日	【第6回 研究科FD・SD委員会】メール審議 ・FD・SD活動報告書の作成について	FD・SD	岡戸、笠井、西村、深川（4名）
10	令和6年3月28日	第2回 人間学部・大学院人間学研究科合同FD・SDフォーラム テーマ：人間学部におけるGPS-Academicの結果からみる人間学部の学修の傾向について 講師：ベネッセiキャリア 森岡様	FD	岡戸、伊藤（康）、伊藤（俊）、笠井、加茂、塩崎、船田、和田、櫻井、西村、宮嶋、水尾、畑中、原田、西山、深川（16名）

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 外国語学部 ）

1. 令和5年度の活動報告

外国語学部では、定例の教授会や各委員会等において、教育改善のための意見交換を行っている。ICT ワークショップ、授業方法の研修会、授業参観プログラム等を通して、総合的な教育改善を推進している。とりわけ英語教育委員会は必修の英語科目の担当教員を支援し、ICT 委員会は教員の ICT 能力を伸ばし、学務委員会は全体的にカリキュラムを改善することに努めている。

今年度の活動方針と目標

全学の共通テーマ「学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善」を踏まえ、学部の各委員会と情報共有をしながら、教育内容に適合した形で、FD・SD 活動を推進する。

今年度の活動内容と実績

共通テーマに関連した取り組みとしては、以下のものが予定されている。

- ・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化についての検討
今年度前期の成績について、学務委員会（9/5）および教授会（9/7）にて検討を行った。
- ・GPS-Academic の実施と結果分析
今年度前期・後期に検定実施済み。今後結果分析を予定。
- ・GPA 制度の更新をめぐる評価の分析
教授会（9/7）以降、今後結果分析を学務委員会にて予定。

学部独自の取り組みとしては、以下のものが予定されている。

- ・FD・SD 委員会の開催
活動記録の通り、実施中
- ・授業参観プログラムの実施
活動記録の通り、実施中
特に「基礎演習 I」の FSP プログラムの最終提案については、SD としても実施
- ・各種研修会の実施（ハラスメント研修、ゼミナール関連、ICT 関連、学習支援関連）
第1回ワークショップ「Managing and grading discussion tests」の実施
その他は後期に実施予定

2. 今後の課題、方向性

今年度は、前期途中に学部のFD・SD委員長が、津村教授より呉教授へと変更になった。業務分担の一部の教員への過度な集中のため、前期は学部のFD・SD活動が低調であったが、今後は学部内での情報共有を活発化し、昨年同様のペースで実施していく予定である。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和5年4月6日 ～7月20日	授業参観：「海外留学入門」 場所：DN301 時間：9：10～10：40 担当者：マイネハン	FD・SD	教員：富岡（5月18日）、柳沢（5月18日）、池田（5月18日） 事務：伊藤（4月6日、6月22日）、有菌（5月15日、6月8日、7月20日）、佐野（6月22日）
2	令和5年4月25日 ～7月4日	授業参観：「基礎演習Ⅰ（FSP）」 場所：DW306など 時間：13：10～14：40 担当者：萩藤ほか	SD	事務：有菌（4月25日、5月9日、5月23日、6月6日、6月20日、7月4日）、伊藤（7月4日）、佐野（7月4日）、村井（7月4日）、浅野（7月4日）、望月（7月4日）
3	令和5年5月17日	FD・SD委員会 場所：DN510、オンライン 時間：11：00～12：00	FD・SD	教員：津村、呉、豊田、安達
4	令和5年6月2日	授業参観：「アメリカ地域研究」 場所：DN302 時間：9：10～10：40 担当者：萩藤	FD・SD	教員：マレー 事務：井上、有菌、伊藤、佐野、村井、浅野、川島
5	令和5年6月20日	授業参観：「基礎演習Ⅲ（国際経営戦略）」 場所：DN413 時間：10：50～12：20 担当者：萩藤	SD	事務：有菌
6	令和5年7月4日	高大連携プロジェクト 場所：DW306 時間：14：50～16：20 担当者：西尾	SD	事務：有菌
7	令和5年7月5日	授業参観：「近現代の日韓関係」 場所：DN510 時間：10：50～12：20 担当者：萩藤	FD	教員：岩井、呉 事務：井上、有菌、佐野、村井、浅野
8	令和5年7月5日	授業参観：「ゼミナールⅢ」 場所：DN510 時間：16：30～17：50 担当者：岩井	SD	事務：佐野

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
9	令和5年7月14日	第1回ワークショップ：「Managing and grading discussion tests」 場所：DN402 時間：14：50～15：20 発表者：ガラカー	FD	教員：ウィキン、ボイズ、オグラ (非常勤)(計3名)
10	令和5年9月5日	学務委員会：教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化についての検討 場所：外国語学部資料室 時間：15：00～16：00	FD	教員：西尾、津村、宮崎、宮下、マレー
11	令和5年9月7日	教授会：教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化についての検討 場所：外国語学部資料室 時間：15：00～16：00	FD	教員：岩井、富岡、西尾、津村、呉、柳沢、藤原、ウィキン、宮崎、プレーバー、マイネハン、ロジャース、池、マレー、萩藤、宮下、安達
12	令和5年10月16日	英語教育委員会セミナー：「人を対象とする研究に関する倫理調査」 場所：DN409 時間：15：00～15：30 発表者：ウィキン	FD	教員：ウィキン、ガラカー、ボイズ、ホール、ディキンソン (計5名)
13	令和5年11月13日	英語教育委員会セミナー：「外国語単語の学び」 場所：DN409 時間：15：00～15：30 発表者：ボイズ	FD	教員：ウィキン、ガラカー、ボイズ、メヒア (非常勤)(計4名)
14	令和5年12月11日	英語教育委員会セミナー：「How to host a successful academic conference at Meijo Dome-Mae campus.」 場所：DN409 時間：15：00～15：30 発表者：ガラカー	FD	教員：ボイズ、ホール、ディキンソン、マイネハン、ガラカー、メヒア (非常勤)、ウィキン (計7名)
15	令和5年12月5日	授業参観：「インドネシアの言語と文化2」 場所：DS303 時間：14：50～16：20 担当者：岩田 (非常勤)	SD	事務：伊藤、有蘭、村井

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 総合学術研究科 ）

1. 令和5年度の活動報告

◀①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善▶

総合学術研究科の教育改善のために、入学から卒業までの学生の学びや成長を一貫して把握しながら構成員全員が議論・実践できるようサポートする。

◀②その他学部独自の取組（SD含む）▶

- ・「令和5年度 秋季 総合コアプログラム」の開催（9月16日開催）
- ・「令和5年度 海洋実習」の実施（8月22日実施）

三河湾において船舶による海洋観測を行い、愛知県水産試験場にて最新の海洋環境に関連する研究を学んだ。

2. 今後の課題、方向性

教育改善に向けて構成員全員が議論・実践できるよう、教育検討部会を中心に検討を継続する。より積極的に議論の場を設けることが今後の課題である。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和5年4月20日	「MS-26戦略プラン（部署版）」及び「2023年度事業計画書（部署版）」の再提出について	SD	景山、田中、加藤、鈴木、日比野、平松（委任）、和田、衣斐（委任）、香村、志村、神藤、伊藤 陪席：中村
2	令和5年5月18日	「MS-26戦略プラン（部署版）」及び「2023年度事業計画書（部署版）」の再提出について	SD	景山、田中、加藤、鈴木、日比野、平松（委任）、和田、衣斐（委任）、香村、志村、神藤、伊藤 陪席：山田、中村、川島
3	令和5年6月1日	秋季 総合コアプログラム開催要領（案）について	FD	景山、田中、加藤、鈴木、日比野、平松、和田、衣斐、香村（委任）、志村、神藤、伊藤 陪席：山田、小戸森、中村
4	令和5年6月29日	・秋季 総合コアプログラム開催要領について ・2023年9月卒業・修了時アンケートの実施について	FD	景山、田中、加藤、鈴木、日比野、平松、和田、衣斐、香村、志村、神藤、伊藤 陪席：山田、小戸森、中村

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
5	令和5年7月27日	秋季 総合コアプログラム開催要領について	FD	景山、田中、加藤、鈴木、日比野、平松、和田、衣斐、香村、志村、神藤、伊藤 陪席：山田、小戸森、中村
6	令和5年11月16日	「MS-26戦略プラン（部署版）」の見直し及び「2024年度事業計画書（部署版）」の作成について	SD	景山、田中、加藤、鈴木、日比野、平松（委任）、和田、衣斐（委任）、香村、志村、神藤、伊藤 陪席：山田、小戸森、中村
7	令和5年12月14日	総合学術特論Ⅰ・Ⅱの教員構成について	FD	景山、田中、加藤、鈴木、日比野、平松（委任）、和田、衣斐、志村、神藤、伊藤 陪席：山田、小戸森、中村

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 教職センター ）

1. 令和5年度の活動報告

・今年度の活動目標

教員志望学生の実践的指導力の向上及び教員採用試験合格者の確保を目標に、教職に関する科目の授業改善に向けた研究交流および教育活動の効果的な運営を図るための研修を企画し、運営する。

・活動方針

上記を踏まえ、今年度の活動方針として、主に三つの取り組みを企画した。第一に、ハラスメントに関する学習、第二に、質の高い教員養成を目指した教職科目の授業改善に向けた研究、第三に、学修成果の可視化、評価方法の研究（履修カルテ、アンケートの利用）、である。また、継続的な取り組みとして、教職および学芸員課程授業担当者（兼任教員、非常勤講師等）への発信、交流及び情報交換を目的とした懇談会を開催する。

・活動内容および実績

（1）ハラスメントの学習会について

前期は、第一の取り組みであるハラスメントに関する学習会を二回にわたって行った。第一回目はパワー・ハラスメントについて、第二回目はセクシャル・ハラスメントについてである。学習動画を視聴し、ハラスメントの基準について学習した後、教員のどのような言動がハラスメントに該当するかを学ぶために、教員自身の経験など、具体的な場面を挙げて対応や注意点について話し合った。

（2）授業改善に向けての取り組み

後期は、第二の取り組みとして挙げた、二つのテーマに関する研究会を二回に亘って行った。教職センターの全教員が二つのテーマ、すなわち、①プレコロナからポストコロナまでの授業形態の変化とその影響に関する総括、②アクティブラーニング導入に関するこれまでの総括と今後の課題のうちのどちらかを選択して、各自の授業実践を振り返りながら、資料を作成し、発表を行った。それを元に、課題や今後の見通しについて教員間で議論した。また、教員が作成した資料をいつでも閲覧できるように、Google フォルダに格納した。

後期はさらに、第三の取り組みとして、学生に対してアンケートを実施し、これを分析した結果から、学修成果の可視化、評価方法について検討する予定である。

また、教職および学芸員課程の授業を担当する非常勤講師、教職センター委員会委員を招き、交流及び情報交換を目的とした懇談会を開催する予定である。教職課程・学芸員課程の正課授業および教員採用試験対策指導の改善に繋げていきたい。

2. 今後の課題、方向性

(1) ハラスメントの学習会について

昨今、大学教育において、多様な学生に対する個別的な対応が求められている。そのため、これまでの価値観や常識にとらわれず、柔軟に対応するために、教員は常に、現代の若者を理解するための知識の収集と、自らの行動を客観的に評価する習慣を身につけるよう努力し続けなければならない。次年度においても、今年度より内容を深めて、ハラスメント学習会を実施する必要があると考える。具体的な事例を取り上げて、事例研究的な学習会を実施したい。また、アンガーマネジメントに関する学習会を開催することも考えている。

(2) 授業改善に向けての取り組み

本年度のFD研究会では、WebclassやGoogleクラスルーム等のWebを介した学習支援アプリについて、その活用方法やそれぞれについての利点や欠点について情報共有することができた。また、アクティブラーニング導入については、それぞれの教員が、創意工夫の上、授業を展開していることが示された。一方で、こうした取り組みが、学修の深化には必ずしも繋がっていないという課題も提起された。次年度は、これらの課題の改善や、新たなICTの活用についても議論していきたい。

(3) 学修成果の可視化、評価方法の研究

(4) 教職センター懇談会

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和5年5月18日	第1回 教職センターFD・SD委員会 今後の活動方針・内容について	FD・SD	木村、谷口 計2名
2	令和5年5月23日 (教職センター会議)	FD・SDの取組を推進する組織の更新について	FD・SD	片山、櫛田、曾山、平山、竹内、 木村、谷口、嶋口 計8名
3	令和5年7月11日	ハラスメント学習会(パワー・ハラスメントについて)	SD	片山、櫛田、曾山、平山、竹内、 木村、谷口、嶋口 計8名
4	令和5年7月25日	ハラスメント学習会(セクシャル・ハラスメントについて)	SD	片山、櫛田、曾山、平山、竹内、 木村、谷口、嶋口 計8名
5	令和5年9月12日 (教職センター会議)	教員間、もしくは授業科目間の成績 評価基準の平準化についての検討	FD	片山、櫛田、曾山、平山、竹内、 木村、谷口、嶋口 計8名
6	令和5年9月26日 (教職センター会議)	令和5年度前期授業改善アンケート 結果について	FD	片山、櫛田、曾山、平山、竹内、 木村、谷口、嶋口 計8名
7	令和5年11月2日	第25回FD・SDフォーラム (大学教育開発センター)	FD	木村、谷口、嶋口 計3名
8	令和5年11月14日	第2回 教職センターFD・SD委員会 教職懇談会について	FD・SD	木村、谷口 計2名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
9	令和5年12月12日	FD研究会（プレコロナからポストコロナまでの授業形態の変化とその影響に関する総括）	FD	片山、櫛田、曾山、平山、竹内、木村、谷口、嶋口 計8名
10	令和5年12月26日	FD研究会（アクティブラーニング導入に関するこれまでの総括と今後の課題）	FD	片山、櫛田、曾山、平山、竹内、木村、谷口、嶋口 計8名
11	令和6年2月24日	教職センター懇談会	FD	教職センター専任教員（片山、竹内、櫛田、曾山、谷口、平山、嶋口、木村）、教職センター開講科目担当非常勤講師、事務職員（鈴木）
12	令和6年2月27日	FD研究会（学生の学修成果を把握、評価するための調査 2023年度）	FD	片山、曾山、平山、竹内、木村、谷口、嶋口 計7名

6. トピックス

FD・SD フォーラム・FD・SD 学習会・ 新任教員 FD・SD 研修会 実施概要

1. 第25回 FD・SD フォーラム

日 時：令和5年11月2日（木）9：30～11：45

開催方法：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

テ ー マ：大学生の授業外学習時間について考える

基調講演テーマ：大学生の学習状況について～全国データからの考察～

基調講演講師：村山 和生 氏（(株)ベネッセi-キャリア まなぶとはたらくをつなぐ研究所
主席研究員）

事例報告テーマ：授業満足度調査から改善してきた主体的な学びの取り組み事例

事例報告講師：酒井 順哉 氏（都市情報学部 教授）

2. 第18回～第19回 FD・SD 学習会

（1）第18回 FD・SD 学習会

日 時：令和5年7月10日（月）13：00～14：20

開催方法：Zoom によるオンライン開催

テ ー マ：働き方を学びほぐすアンラーニング

講 師：松尾 睦 氏（青山学院大学 経営学部 経営学科 教授）

（2）第19回 FD・SD 学習会（兼新任教員 FD・SD 研修会）

日 時：令和5年9月12日（火）13：00～14：20

開催方法：Zoom によるオンライン開催

テ ー マ：学生の主体的な学びを促す授業設計～学習到達目標から授業を見直そう！

講 師：安部 有紀子 氏、竹永 啓悟 氏（名古屋大学 高等教育研究センター・東海国立
大学機構 QTA・GSI トレーニングセンター 准教授、特任助教）

3. 新任教員 FD・SD 研修会

2.（2）に記載。



名城大学 第25回 FD・SD フォーラム

テーマ：大学生の授業外学習時間について考える

日時：2023年11月2日(木) 9:30~11:45

開催方法：ZOOM ウェビナー

【企画概要】

本学では、大学・高校に関わる全ての人達と共有したい価値観として、「生涯学びを楽しむ（Enjoy Learning for Life）」を掲げています。これには、全ての学生が在学中に本学の教育によって「学ぶ楽しさ」に気づき、卒業・修了後も、楽しみながら学び続けてほしいという思いが込められています。

しかし、本学の調査によれば、授業外学習（授業の予習・復習、授業に関わる読書、授業に関わる友人との議論）を週に1時間以上行っている学生は、わずか約3人に1人という結果です。

本フォーラムでは、全国の大学生の学習に関する状況を紹介した上で、学生の学習時間を増やすための取り組み事例を紹介し、そのノウハウを共有する機会を提供いたします。



基調講演

「大学生の学習状況について～全国データからの考察～」

村山 和生 氏（株式会社ベネッセ iキャリア

まなぶとはたらくをつなぐ研究所 主席研究員）

【申込方法】（定員：300名）

下記 URL または QR コードからお申し込みください。お申し込み後、参加方法の詳細が自動メールにより送付されます。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_IxRyXyHDTfW-MW9IjCh80Q#/registration



事例報告

「授業満足度調査から改善してきた主体的な学びの取り組み事例」

酒井 順哉 氏（名城大学 都市情報学部 教授）



【お問い合わせ先】名城大学 大学教育開発センター

E-Mail：edcenter@ccml.meijo-u.ac.jp

TEL：052-838-2033（内線：2659）

MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1926 - 2026

第25回 FD・SD フォーラム実施報告

「大学生の授業外学習時間について考える」

1. 実施概要

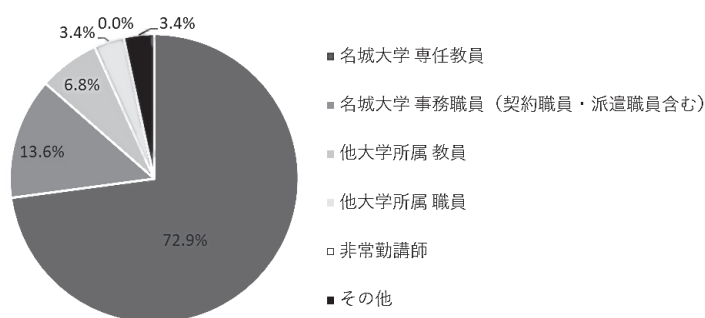
- ・日 時：令和5年11月2日（木）9：30～11：45
- ・開催方法：Zoom ウェビナーによるオンライン開催
- ・基調講演テーマ：大学生の学習状況について～全国データからの考察～
- ・基調講演講師：村山 和生 氏（(株)ベネッセiキャリア まなぶとはたらくをつなぐ研究所 主席研究員）
- ・事例報告テーマ：授業満足度調査から改善してきた主体的な学びの取り組み事例
- ・事例報告講師：酒井 順哉 氏（都市情報学部 教授）
- ・参加者数：136人
（本学専任教員等95人、本学事務職員等20人、他大学教員5人、他大学職員11人、その他5人）

2. アンケート方法等

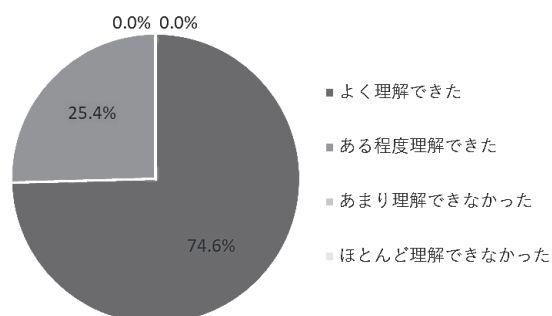
- ・アンケート方法：Google フォーム
- ・質問項目：以下のとおり
 - ①所属をお知らせください。
 - ②基調講演「大学生の学習状況について～全国データからの考察～」の内容は、理解できましたか？
 - ③基調講演「大学生の学習状況について～全国データからの考察～」の満足度について教えてください。
 - ④基調講演「大学生の学習状況について～全国データからの考察～」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。
 - ⑤事例報告「授業満足度調査から改善してきた主体的な学びの取り組み事例」の内容は、理解できましたか？
 - ⑥事例報告「授業満足度調査から改善してきた主体的な学びの取り組み事例」の満足度について教えてください。
 - ⑦事例報告「授業満足度調査から改善してきた主体的な学びの取り組み事例」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。
 - ⑧企画内容について、ご意見や感想がありましたら、ご記入ください。
- ・回答者人数：59人
- ・質問④、⑦、⑧については主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

3. アンケート結果

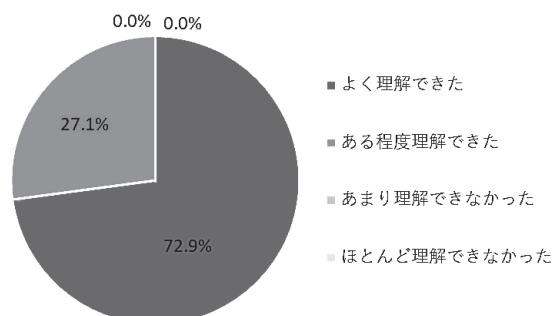
①所属をお知らせください。



②基調講演「大学生の学習状況について～全国データからの考察～」の内容は、理解できましたか？



③基調講演「大学生の学習状況について～全国データからの考察～」の満足度について教えてください。



④基調講演「大学生の学習状況について～全国データからの考察～」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。

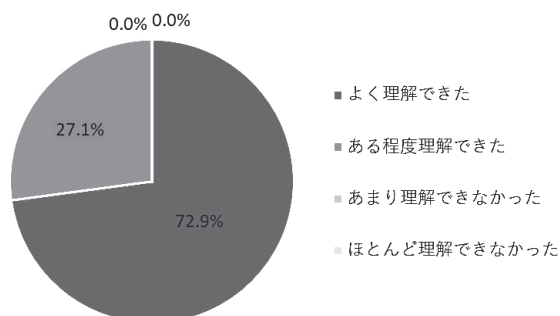
- ・実践は難しいですが、初年度に失敗をさせるという観点はとても関心を持ちました。
- ・社会人基礎力と大学での学びの連結を意識づけるという点。
- ・高校等でカリキュラムの詰め込みから脱し、学習時間を生徒に返そうとする動きがあるという点は、大学での科目編成でも参考にすべき点かと私は思いました。ありがとうございます。
- ・主体性をいかに持たせるかだと感じました。
- ・学びの意味付けは従来から言われている通り重要であるということを再認識できた。
- ・学生が課題をこなすことが主体的な学びとは必ずしもいえない、という指摘。
- ・早い段階で自分に必要なスキルなどを気づかせ、実際に身につけさせるように誘導することができれば良い。
- ・学生時代の学びや学ぶ姿勢が社会人としての満足に繋がるという点です。
- ・留学は主体的な学びの典型と考えていますので、調査結果を意外なものを受け止めました。
- ・学生の主体性を喚起するには、正課と正課外での仕掛け、このどちらも必要になりそうだと感じました。
- ・「主体的な学び」促進に当たっての FSP 講座の意義を再認識した。
- ・学びの意味づけをすることの重要性。

- ・学生調査をどう分析するか。
- ・学習の意味や目的を学生自身が把握していることが重要であるということが理解できました。
- ・学ぶ意味付けをどうするかが重要とのことだが、改めて考えるきっかけになってよかった。
- ・大学の授業改善アンケートでも結果についてもう少し踏み込んだ分析結果をいただけるとありがたいです。
- ・学びのスタイルと身に付けた資質能力の関係での説明全般と特に重要な項目としてあげられたラーニング・クラフティング及び領域を超えたカリキュラムについて。
- ・学生のニーズと大学・社会のニーズにギャップが有ること。
- ・ラーニング・クラフティングが重要と感じました。
- ・大学での学びの取り組み（学習行動）が、高校時代の学習習慣に影響されている点。大学で身についたと思う能力・スキルに対して、アルバイトよりも「大学の授業」や「卒論への取り組み」が影響力を持つ点。大学での学び（正課教育）が課外活動よりも学ぶ意義を高めていることがデータで検証されたことの意味は非常に大きいと思います。
- ・「主体的な学び」にかかわる部分、あるいはその関連領域の重要性が印象に残りました。
- ・身についた資質・能力と大学時代に力を入れた活動の関係を明確に示していただいたところに感銘を受けました。どのようにすれば、学生の主体的な活動に結び付くかを考え続ける日々ですが、参考になるデータをたくさんお示しいただきました。
- ・「主体的な学び」とはということなのか、大学側が色々と強要？してやらせるものではないことを再認識し、また、「主体的な学び」を増やせるような仕組みづくりを、学務センターとも連携して進めていって頂けると有り難いと感じました。また、授業への出席とか、予習・復習の時間とか、ある一面ではあまり重要ではなく、その講義から何を学んで、どう将来に活かせるようになったのかという視点を持っていたいと思いました。管理する指標は簡単ですが、勉強は強いてやるものではなく、自ら学ぶものと考えているためです。それが大学なのかなあと。。。もっと自由に学べる環境を作ってあげられると（単位にこだわらず、）良いですね。
- ・主体的な学びができている学生が、卒業後も輝く、という点は非常に重要かつ納得できます。一方で、「主体的な学び」と「授業外学習時間」は必ずしも結びついていない、という内容であったと思います。これは、学生がアンケート等に回答する際に「当該授業科目について使った時間」のみを「授業外学習時間」ととらえており、その学生のアクティビティの中で「当該授業科目に関する知見を活かした時間」が含まれていないせいではないかと考えました。（類似の指摘は、質疑応答の中でもあったと思います）
- ・近年の学生がどんどん受動化しているデータを拝見し、衝撃を受けました。「生徒と学生は違う、学生は自ら学ぶ人」と学生には事あるごとに言っていますが、高校生から大学生に意識転換できていない学生（子どものまま）の割合が増えており、大きな問題だと感じます。
- ・主体的な学びができている人とできていない人の分析では、相関がある要素を明らかにしていただき、大変有意義なお話でした。一方で、この分析でお示しいただいたのは大学入学後の行動・姿勢であり、なぜ両者が分かれるかという「原因」までは踏み込めていないように

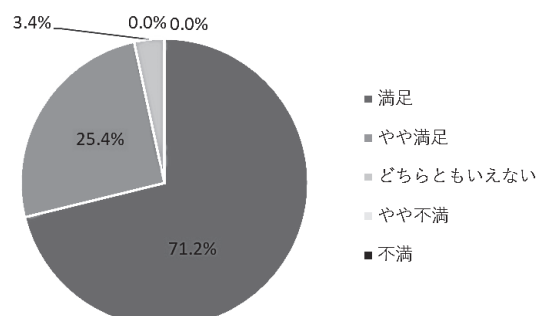
感じました。大学入学時に、既にある程度姿勢が固まってしまっているように感じております。主体的な学びができる学生とできない学生が入学してくる中で、大学入学の年齢以降の教育で主体性を身につけるために何ができるか、アドバイスをいただけますとありがたいです。

- ・ 1年生の授業を担当していますが、そもそも自主的に学習できる人は初めからよくできて、おそらく3年生になっても引き続きできるのだと思いますが、できない人の場合は、意識改革から始めて、勉強の仕方を丁寧に教える必要があると思われまます。1年生から3年生になる間に劇的な変化のあった人の話を聞きたいと思いました。
- ・ 受講生自身が、自学自習しているにもかかわらず気づいていないかもしれない、ということが印象に残った。受講生自身が主体的な学びとは何かを認識するうえで重要な事項と感じたため、今後の授業で周知していきたい。
- ・ 近年の学生全体における「他者依存傾向」が見られるデータ分析結果について、関心を持った。教育の習熟度や定着度を高めるために、自身の業務を通じて提供する様々な教育支援に関し、当該学生が「受け身」ではなく、いかに「能動的」に活用してもらえるかを念頭に置いた業務展開が必要ではないかと感じました。
- ・ 自身が幸せな活躍をしていると感じている社会人たちは、その秘訣のひとつとして学生時代に幅広い教養に触れることができたことも挙げているとのお話があったことが、興味深かった。
- ・ 学生さんの勉強時間は本当に少ないなあと思いました。色々な分析や解釈はあり得ると思いますが、根本的には、現在の我々の生きている社会の有様が反映しているのかという印象です。大学や教員がどこまで学生に働きかけることができるのか、すべきなのかは難しい問題だと感じました。
- ・ 全体的に非常に面白く、かつ有益な示唆に富んだご発表だった。特に失敗を経験することで主体的な学びの姿勢が促されるという指摘は、いつも自分が心がけていることでもあるので、今後も継続していきたいと思った。
- ・ 高校時代からグループワークやディスカッションを経験していても、主体的な学びにつながっていないのは、授業の一環と捉えてしまっているからでしょうか。
- ・ 普段の生活の中で、疑問に思ったら調べてみたり、自ら工夫したりすることが大切なのかもしれません。
- ・ もっと深く知りたい、学んでみたいという気持ちにつなげることの難しさを感じました。

⑤事例報告「授業満足度調査から改善してきた主体的な学びの取り組み事例」の内容は、理解できましたか？



⑥事例報告「授業満足度調査から改善してきた主体的な学びの取り組み事例」の満足度について教えてください。



⑦事例報告「授業満足度調査から改善してきた主体的な学びの取り組み事例」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。

- ・授業に関する具体的な取り組みがご紹介されており大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・学びを定着させる具体的な方法・工夫。
- ・どこまで学生を管理するかという話でもあり、意欲の低い学生に対するアプローチが重要になるだろうと経験的に思いました。ありがとうございます。
- ・非常にきめ細やかな対応が学生の学びにつながることを実感しました。
- ・日々学生のために授業改善を行っている教員の努力は学生に伝わっていることがよくわかりました。
- ・素晴らしい取り組みですが、受講者数が多い場合、教員負担は大きいと思います。同様の取り組みを全教員に促すには、カリキュラムのスリム化（ノルマ負担軽減）が必要と感じました。
- ・理解度確認テストの実施は学生の学習意欲向上につながっていることをデータとして見られた点。
- ・授業動画の作成方法。
- ・いかに、講義に集中させるかが大事ですね。自分の講義においても、実践しているものもあったので、これからも続けていこうと思いました。
- ・どうしたら学生の成長に繋がるかを常に意識して取り組んでいらっしゃるようです。
- ・早い段階から学生の満足度調査に取り組んでこられたご努力に敬意を表します。
- ・酒井先生がこれだけのことをされるにあたっては、かなりの労力が必要なはずで、それをサポートするような全学的な体制の構築（たとえばIRの充実、教育補助職員の増員など）が必要ではないかと感じました。
- ・専門科目、ゼミの双方について様々な創意工夫を施されていることに感銘を受けた。
- ・出席することと理解度は異なる。
- ・効果的な教材提供と理解度評価。

- ・施設や設備の変化に対して工夫していくことが思った以上に大切であるとわかりました。
- ・授業に出てよかったと思わせる工夫について、考えさせられた。
- ・学生が授業に出席した授業の理解度を深めるために多面的な工夫を実践されている点と、結果を分析して取組をブラッシュアップされ続けている。
- ・講義出席回数と定期試験得点に相関がないこと。出席しなくても良いというわけではなく、形式的に出席しただけ（出席回数が多いだけ）では得点につながらず、理解度が得点につながるということが客観的に明らかにされたこと。
- ・ご講演を拝聴し、一番に感じたことは「学生の視点や立場」で授業を行い、改善のお取り組みをしていらっしゃるということです。また、貴学全体の調査だけではなく、先生独自のアンケートや外部アセスメントなどを用いることで、実施された施策ごと・主観調査・客観調査など多面的な側面から学生の声に耳を傾けていらっしゃる点に大変感銘を受けました。
- ・酒井先生がおっしゃっていた「授業を面白く、分かりやすくすることに主体的な学びのヒントがある」というメッセージは私の中でも今後大切にしたいと思います。
- ・勉強の集中力について関心を持ちました。
- ・どのように授業を展開すれば学生が成長するのか、について常に考え、改善を継続することが重要だと思いました。コロナ禍の経験をプラスに生かしておられ（動画や、LMS の活用）、大変勉強になりました。
- ・たんに勉強するのではなく、学生が「この授業おもしろいな」と思えるように、理解度をこまめにチェックしておられることなど、こちらも学ぶべき点が多々ありました。ありがとうございました。
- ・出席確認に際して、IC 読み取り機とマークシートを併用している点が重要と思いました。
- ・私も講義に出席することの重要性を感じており、共感する内容がとても多くございました。よく講義を聞き、ノートをまとめ直したりしている学生は、自分がそうであることを教員に少しでも知っていてほしいと思っていることを普段から感じており、今後の講義の参考にさせていただきたいと思います。
- ・「社会人基礎力」の診断をゼミ生に3回にわたって行われているとのことで、学生の成長実感を得るためには非常に有効だと思いました。よろしければ、どのような診断を用いているか、教えていただければ幸いです。
- ・学生への情報提示、出席の取り方などについて緻密な設計をされており、すばらしい取り組みだと思えます。ただ、相当な労力をかけておられるご様子で、すべての講義でこれだけの手間をかけるのはなかなか難しそうに感じました。
- ・酒井先生の、学生の授業満足度を上げる工夫、不断の努力に大変感心しました。全てを取り入れることは難しいと思いましたが、自分でもできることを探っていきたいと思いました。
- ・酒井先生の授業改善のお取り組みの状況を理解することができたと感じている。山田先生の質問にもあったとおり、映像の提供により、講義の説明を聞かなくなる傾向があることは、多くの教員が感じている問題なのではないかと感じた。このあたりの改善策については、自身の講義でも引き続き検討していきたい。

- ・酒井先生の講義（＝当時の講義名称は「経営管理論」）は、私自身も一学生として受講していたため、当時を思い出しながら、今回の事例報告を拝聴していました。積極的な学会での発表や、ゼミの研究内容に係る資格取得に通ずる学びの推奨等、良い意味で当時から変わらずに今日まで貫かれている教育方針がある一方、本日の事例報告をされておられました、コロナ禍を起因とする教育のDXの機会を積極的に活用されて、常に最適解を求めて創意工夫を継続されている姿勢や内容に、感銘を受けました。
- ・毎回、受講生の指定着席場所を変更されることで講義環境の静粛を保持されている点。また誰がどこに着席しているかがすぐに判明する状況であることで、学生に緊張感を持って受講に臨むようにされている点。
- ・動画の提供や理解度テストなどを使って学生が学校外で学習する時間を増大させようとする工夫は素晴らしいと思った。しかしその一方で、たしかに「お勉強」の時間は増えると思うが、「主体的な学び」の時間が増えているといえるのかは疑問が残った。これはおそらく「主体的な学び」の定義の問題だと思うので、改めて「主体的な学び」とはどのようなことなのかを大学全体で議論すべきなのではないかと思った。
- ・授業に出席していても、聞きもらしたりすることがあるので、MP4動画で復習できるのは良い取り組みだと思いました。
- ・webクラスで資料が手に入ると授業を出席しない学生も出てきますが、出席確認マークシートの提出も義務付けているので、より効果的だと思います。また、集中力は「15分」が限界という科学的データを用いて工夫されている点も、メリハリのある授業 → 理解度につながっていると思いました。

⑧企画内容について、ご意見や感想がありましたら、ご記入ください。

- ・大変勉強になる機会を頂戴し、心より深く感謝申し上げます。
- ・今回も、大変有意義な企画でした。今後の参考にさせていただきます。
- ・今回のテーマは、経営学部においてはすでに実践されているものも多かったので、非常に実感できるものでためになりました。
- ・今回はベネッセの関連企業の行った調査でしたが、1社だけの調査結果に基づくのではなく、他社の類似の調査との比較も重要かと思います。労力は大変とは思いますが、今後の企画の中で、類似の調査を横断して分析する試みがあると、よりよいかと思います。
- ・事例について、短くても良いので文系・理系や講義種別など様々なものについてちょっとした工夫でも良いので複数の事例を紹介していただく機会があるとありがたいです。
- ・FDの企画ではないですが、授業評価アンケート内容を分析し、入学当初からどのような大学生活を送ると社会で活躍できるようになるのか、ガイダンスを行うと良い気がしました。学生がそれを理解して実行しないと無意味かもしれませんが、定期的な意識付けが必要になると思いました。薬学部では国家試験がゴールになってしまいがちなので、単位を取ることが目標になってしまう学生が多い気がします。
- ・今回のフォーラムの内容では、「主体的な学び」を通じて、ラーニング・クラフティングの

ように、「学ぶ意義」が重要であることを改めて認識できました。学ぶ意義を理解できているからこそ主体的な学びにつながるということを、今後、授業を改善していくうえで参考にしていきたいと思います。また、主体性をもって授業を受ける意義についても改めて学びました。今回の内容を学生に還元し、学生の学びの向上に資するように努めていきたいと思えます。今回のような学生の学習状況に関するデータについてはあまり触れることがなかったので、学生の実態を理解していくうえで、今回の企画は大変勉強になりました。ありがとうございました。

- ・学務センターと連携して、新しい教育方法など提案するような企画も面白いかも知れません。
- ・2件の講演はいずれも示唆に富む、素晴らしい内容だったと思います。一方で、本日のテーマである「大学生の授業時間外学習時間について考える」という観点からはベストマッチとはいえない内容であるように思いました。テーマと講師の選定・依頼は非常に難しいとは思いますが、学習会で共有したい知見は事前に整理しておいていただければ、より有意義な学習会になると思います。
- ・内容は充実していたが、長時間の開催となると他案件との重複も生じやすくなるため、後日の映像受講の申し込みフォームも用意していただきたい。
- ・基調講演の内容は、窓口対応を行う事務職員の方（可能であれば、すべての事務職員の方；異動の可能性もあるため）に、ご聴講いただけるとよいのではないかと感じた。学生の主体的な学びを促進させるのは、窓口ご対応いただける事務職員の方のお声かけが大いに影響するのではないかと、日々感じている。関連して、教育職員と事務職員、TA等の連携が強化されることを願っている。
- ・山田センター長が最後におっしゃっていた、「主体的な学びの場から落ちこぼれている学生さんを、いかにして学びの場に戻すか」をテーマとするご講演を、ぜひ開催をお願いします。一般入試以外での入学者が増加することと関連しているのか、年々深刻な問題となっています。

当日配布資料

本日の構成 Benesse i-Career

1. 全国データで見る大学生の学習状況
2. 「学習する学生」と「学習しない学生」はどで分かれるか
3. 「社会に出てからも求められる学び」とは

13

「決定木分析」について Benesse i-Career

目的変数に対して、どの説明変数を使うと最も効果的に分類できるかを、機械学習で探索する方法。

※検証したいこと※
 大学3年生時点で、「週あたり3時間以上自習をする学生」にはどのような特徴があるのか

目的変数	「週あたりのあなたの普段の自習時間（大学の授業時間以外で、授業の調べ物や復習、課題作成、自主的な勉強など）」に対して、「3時間以上」と答えたか、「3時間未満」か
説明変数	GPS-Academicで計測した343項目 <small>※測手尺度ではない項目（例：大学の魅力）は完全数値化して処理 ※2022年度の全国の大学生の学年別から、1年生（2020年度）でも使用し、アンケート全項目は総計より39,013名を対象</small>

14

【分析に用いたアセスメント】GPS-Academicの設計 Benesse i-Career

GPS-Academicは答えが1つではない問いに対して問題を解決する力を「思考力」「姿勢・態度」「経験」の3観点で測定。高次社共通の指標として使えるよう設計しています。

※出題例は商品HPでもご紹介しています。

15

【分析に用いたアセスメント】GPS-Academicの測定項目 Benesse i-Career

大項目	測定項目	中項目	内容	目安時間	新・社人基礎力	学力の深層
思考力	思考力総合スコア (問題を解決する思考スキル)	批判的思考力	論理的思考力 論理的に組み立てて表現する力 論議に賛否を述べ、共通の結論を導く力 論議に賛否を述べ、共通の結論を導く力 論議に賛否を述べ、共通の結論を導く力	45分	考え抜く力	思考、判断、実行力
		創造的思考力	創造的思考力 創造的なアイデアを生み出す力 創造的なアイデアを生み出す力 創造的なアイデアを生み出す力	100分	チームで働く力	創造性、発想力、実行力
姿勢・態度	レジリエンス リーダーシップ コラボレーション	レジリエンス	レジリエンス レジリエンス レジリエンス	100分	チームで働く力	粘り強さ、回復力、実行力
		リーダーシップ	リーダーシップ リーダーシップ リーダーシップ	100分	チームで働く力	リーダーシップ、チームワーク
経験	経験総合 (課題を解決する経験)	自己管理	自己管理 自己管理 自己管理	50分	前に踏み出す力	自己管理能力、実行力
		社会生活	社会生活 社会生活 社会生活	100分	前に踏み出す力	社会生活スキル、実行力

16

決定木分析①全項目を対象 Benesse i-Career

17

決定木分析②「1年時の自習時間」「3年時の予・復習」「3年時の読書量」を除外 Benesse i-Career

18

本日の構成 Benesse i-Career

1. 全国データで見る大学生の学習状況
2. 「学習する学生」と「学習しない学生」はどこで分かれるか
3. 「社会に出てからも求められる学び」とは

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 19

「大卒者に特に期待する資質・能力・知識」 Benesse i-Career

注: 資質・能力・知識についてはそれぞれ3つまで選択可能

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 20

【主体的な学びを育む実践事例】「Future Skills Project」① Benesse i-Career

■ 大学教育のこれまでの流れとFSP講座

大学への学びに対する意識を高め、科目履修の理由を変える

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 21

【主体的な学びを育む実践事例】「Future Skills Project」② Benesse i-Career

■ FSP講座の構成

企業	企業	内容
1	企業	マインドセット・ルール説明
2	企業	課題とは？ディスカッション練習
3	企業	企業から課題提示
4	企業	グループ活動
5	企業	企業への一次提案
6	企業	グループ活動
7	企業	企業への最終提案・評価
8	企業	振り返り・スキル紹介・チーム再編
9	企業	企業から課題提示
10	企業	グループ活動
11	企業	企業への一次提案
12	企業	グループ活動
13	企業	企業への最終提案・評価
14	企業	全体の振り返り・今後の学び検討

■ 失敗経験をさせて大学の学びへ誘導

1年生前期 正課授業	産学協同 PBL	1クラス42人 6人×7人L	2企業の課題 BtoB・BtoC
リベンジの機会	チーム再編	振り返りの時間	企業の負担軽減 (3コマ)
社員向けの課題を提供	上司と部下 学生扱いしない	教え過ぎない	講師派遣 講師研修

学生用: PROJECT SUPPORT NOTEBOOK

- PBLの経験がない教員の不安を解消する
- 教員自身の自身のPBLをなくす
- 必要な配布物などをまとめ、運営の手間を省く
- 参加する企業と目的、役割を共有する

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 22

【主体的な学びを育む実践事例】「Future Skills Project」③ Benesse i-Career

■ 「主体性」を引き出すポイント

■ 社会が求める「主体性」

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 23

【社会に出てからも求められる学びとは】幸せな活躍状態の定義 Benesse i-Career

活躍しているが、幸せではない 35.5%

活躍していないが、幸せではない 30.6%

活躍しているが、幸せであるが、活躍していない 3.3%

活躍していないが、幸せであるが、活躍している 3.3%

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 24


	Benesse i-Career
-EOF-	
© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved.	31

1

名城大学第25回FD・SDフォーラム
大学生の授業外学習時間について考える、2023.11.2

**授業満足度調査から改善してきた
主体的な学びの取り組み事例**

名城大学都市情報学部・教授
(都市情報学部FD・SD委員長)
酒井順哉



2

FD・SDフォーラム講演に至った経緯

- ◆名城大学 大学教育開発センターからのご依頼
 - ◆全国的に大学生の学習時間が少なく、授業外学習時間を増やす仕組みづくりが求められている
 - ◆本学でも、「反転授業等のアクティブ・ラーニングによる授業外学習時間の増加」が全学課題に挙げられている
 - ◆授業改善アンケート結果によると、授業外学習時間が多く、WebClassを活用し、授業で工夫された結果ではと思い、授業外学習に取り組みさせた工夫の内容を、次回FD・SDフォーラムで「事例報告」としてお願いしたい

3

多人数教育における課題

- ◆どうすれば予習の機会を増やせるか
- ◆講義の出席確認をどうすればよいか
- ◆静粛な講義がどう確保するのか
- ◆わからない箇所のフォローをどうするか
- ◆授業の理解度をどう評価するか
- ◆定期試験の不正行為を減らすには

↓

どう解決してきたか、方策を発表します

4

講義方法の改善経緯①
(COVID19感染拡大以前)

- ◆可児市に学部新設された当初の講義対応 (1995年4月～)
 - ◆PowerPointの効果的活用、サブノートの印刷配布
 - ◆ICカードリーダーを持ち込んで学生証読み取りで出欠確認
 - ◆授業中にマークシートで5択テスト5問を実施し、出席確認と講義理解度の把握、独自の授業満足度調査の実施と改善
- ◆ナゴヤドーム前キャンパス移転時の講義対応 (2017年～)
 - ◆可児時代と同様の対応を継続
 - ◆教室取付けのICカードリーダーに運用以降
 - ◆定期試験(必須科目)に指定されたメモ用紙持ち込みを許可

5

名城大学全体・都市情報学部・教員個人
でのFD・SD活動の経緯

①大学教育開発センター委員会(大学全体)の活動

授業評価アンケート ⇒ 授業満足度アンケート ⇒ 授業改善アンケート

教員対象: 2000年度～ 学生対象: 2005年度～ Webで学生対象: 2017年度～

②都市情報学部の活動 GPS-Academic受検 都市情報学部1・3年生対象: 2019年度～

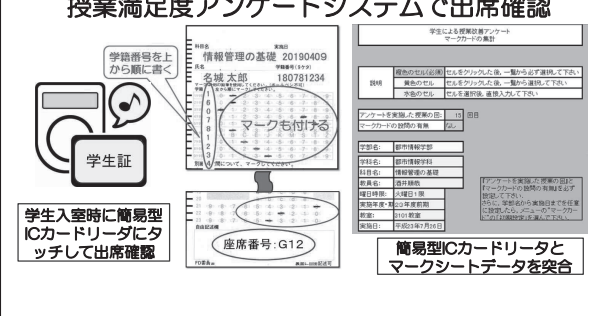
社会人基礎力診断テスト 酒井ゼミ学生: 2008年度～ 都市情報学部全学生対象: 2017年度～

③教員個人の活動

授業満足度調査実施 講義担当科目の学生対象: 2006年度～

6

大学教育開発センターから各学部へ提供された
授業満足度アンケートシステムで出席確認



学生入室時に簡易型ICカードリーダーにタッチして出席確認

簡易型ICカードリーダーとマークシートデータを突合

7

サブノート印刷仕様の変更 (PowerPointのスライドサイズ3:4仕様)

見易さに配慮
A4版1枚に
6スライドを
4スライドに
変更

a) 1995年からのサブノート
(A4版縦に6スライドカラー仕様)

b) 2000年代のサブノート
(A4版横に4スライドカラー仕様)

8

講義の15回目に実施してきた 授業満足度調査の設問項目

- ◆毎回受講する際、乱数で指定席を変更したことの是非
- ◆A4版サブノート1枚6から4スライドに変更
- ◆サブノートに重要キーワードを穴埋め記載の是非
- ◆授業の開始時刻・終了時刻は守られていたか
- ◆学生自身は授業に積極的に参加できたか
- ◆学生自身の授業への出席回数は十分か
- ◆学生自身はこの講義は将来の知識習得に役立ったか
- ◆その他

9

授業満足度調査 (2011年・情報管理の基礎)

乱数指定席	45	28	50	28	67
サブノート	44	57	17	65	37
ノート穴埋め	24	30	43	97	27
講義開始時刻	21	111	17	43	29
積極的参加	33	44	19	88	38
将来役立つ	20	59	81	32	36

◆ 座席指定の乱数で毎回変更することで講義の静肅性と座席の平等化は増したが、あまり評判が良くなかった

◆ サブノートの重要項目の穴埋め方式にしたが、手間がかかると評判が良くなかった

◆ 講義の開始・終了時刻は守られていた

◆ 学生側での講義への積極的な参加や将来の役立ち度は4割弱であった

10

企業が求める学生像 <3つの力/12の能力要素>

経済産業省 (経済産業省が2006年から推奨)

前に踏み出す力(アクション)
～多めに踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～

- 【意欲】 積極的に主体的に行動する力
- 【行動力】 自ら主体的に行動する力
- 【実行力】 目標を設定し、期限に行動する力

考え抜く力(シンキング)
～疑問を持ち、考え抜く力～

- 【観察力】 観察を重視し、目的や課題を明確にする力
- 【思考力】 課題を分析し、解決策を考案する力
- 【判断力】 課題に適切なプロセスを構築し、実行する力
- 【創造力】 新しい価値を生み出す力

チームで働く力(チームワーク)
～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～

- 【協働力】 自分と他者の役割を明確にする力
- 【調整力】 相手の意見を聞き、調整する力
- 【実行力】 自分と他者の役割を明確にする力
- 【調整力】 自分と他者の役割を明確にする力
- 【実行力】 自分と他者の役割を明確にする力

11

学生時代の学習意欲と社会人基礎力で 就職後の評価が変わる

縦軸: 就職 (0, 50, 100, 150, 200, 250)

横軸: 大学入学時 (1年次), 進級時 (3年次), 卒業時 (卒業生), 就職3年後, 就職5年後

◆ 伸び率が上がるかどうかは学生自身の努力が必要であるがゼミ指導教員のサポートも必要

◆ 社会人基礎力と学力とも充分
◆ 学力重視 > 社会人基礎力
◆ 社会人基礎力重視 > 学力
◆ いずれも不足

12

酒井ゼミが準備している 3つの実践プログラム

社会人基礎力 (酒井ゼミでは2008年から導入)

Action
(前に踏み出す力)

Teamwork
(チームで働く力)

Thinking
(考え抜く力)

2017年からは都市情報学部学生全員に範囲拡大

13

ゼミ活動におけるTeamwork Programの実践

- ◆ 歓迎会でカラオケを歌う⇒人前で発表できる
- ◆ ゼミ役員となり自発性発揮⇒行動力アップ
- ◆ 「厚生労働白書」をプレゼン⇒編集力
- ◆ 各種セミナーのスタッフ体験⇒行動力
- ◆ 冬のゼミ合宿(スキー/スノボ)⇒チーム力
- ◆ 医療福祉設備学会での研究発表⇒プレゼン力

「チームで働く力」「考え抜く力」を前に踏み出す力

↑ 社会人基礎力アップ

社会に通用する「社会人基礎力」を養う

14

各ゼミ生に社会人基礎力をフィードバック (2013年ゼミ入講の某学生の場合)

①主体性 ②働きかけ力 ③実行力 ④課題発見力 ⑤計画力 ⑥創造力 ⑦発露力 ⑧傾聴力 ⑨柔軟性 ⑩状況把握力 ⑪構構性 ⑫ストレスコントロール力

● H25.4時点 ● H26.2時点

a) 3年次の社会人基礎力 b) 4年卒業時点の社会人基礎力

15

都市情報学部でGPS-Academicを導入

- ◆ 答えが一つではない問いに対して協同的に問題発見・解決を行うためには、「批判的思考力」「協同的思考力」「創造的思考力」といった3つの思考力を総合的に発揮していくことが欠かせない
- ◆ 特に、学生生活を通して質量共に多くの「経験」を積み上げて問題解決の力を磨くことで、「姿勢・態度」をより引き出し、「思考力」を鍛えることにつながる

問題解決の力をもつための経験

問題解決に向かう姿勢・態度

自己管理 対人関係 実践

批判的思考力 協同的思考力 創造的思考力

問題解決の問いをさまざまな視点から解決する力

答えが一つではない問いに対して問題を解決する力

出典：ハネッセキャリア「GPS-Academic」

16

講義方法の改善経緯② (COVID19感染拡大以降)

- ◆ COVID19感染拡大時の講義対応 (2020年4月～)
 - ◆ 従来の紙媒体のサブノート、出席・理解度確認用マークシートの配布困難
 - ◆ WebClassによるサブノート配布、MP4動画配信、確認テスト・レポート課題の実施
- ◆ COVID19感染収束後の講義対応 (2023年4月～)
 - ◆ WebClassの良い点は残しつつ、対面講義に移行
 - ◆ WebClassのMP4は病欠等の欠席者対応に役立るとともに、予習・復習に役立ってる

17

COVID19感染拡大で名城大学の講義も遠隔講義にシフト

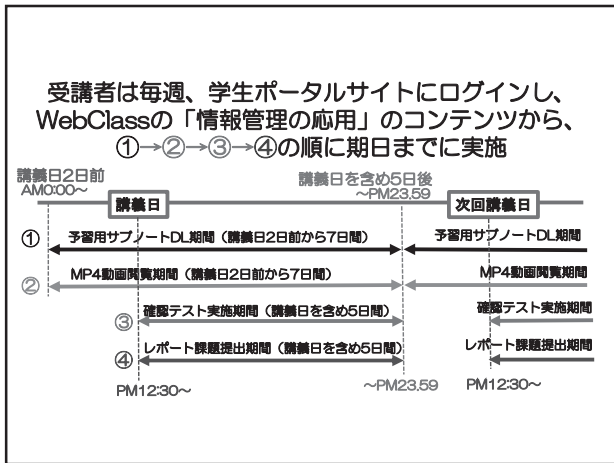
第1-(5)-2図 新型コロナウイルス感染症の新規感染者数の推移

大学でも大部分が遠隔講義にシフトしたことに伴い新たな教材作成やPCサブライ購入も必要になった

18

遠隔講義対応の新規運用形態の整備が求められた

- ◆ 授業支援システムWebClassの効果的活用
 - ◆ 掲示板での講義のオリエンテーションや学生連絡
 - ◆ サブノート (PDF) と講義用MP4録画の提供
 - ◆ 確認テスト・レポート課題の作成・解答集計
- ◆ Zoom環境の整備⇒ゼミ欠席者への補充対応
 - ◆ Webカメラ (Logicool C920Pro)
 - ◆ Web会議用360°カメラMeeting Owl Proの購入
- ◆ 講義用PowerPointへの音声録音とMP4データ圧縮
 - ◆ 高音質コンデンサーマイク (HyperX QuadCast) の購入
 - ◆ XMedia Recordの活用⇒1280×720HDで1/5圧縮できる



WebClassによるサブノート・MP4動画提供と確認テスト・レポート課題のお知らせ

資料

New 第5回サブノートR541017【PDF版】→DLは講義日2日前から7日間

資料 利用可能期間 2023/10/15 00:00 - 2023/10/21 23:59

New 第5回講義解説R051017【MP4動画】→視聴は講義日2日前から7日間

資料 利用可能期間 2023/10/15 00:00 - 2023/10/21 23:59

確認テスト・レポート課題は講義日を含め5日以内に提出

テスト/レポート

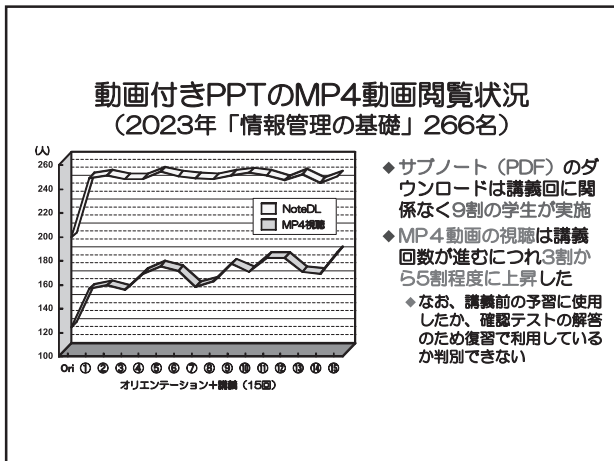
New 第5回確認テストR051017→講義日を含め5日以内

試験 利用可能期間 2023/10/17 11:00 - 2023/10/21 23:59

New 第5回レポート課題R051017→講義日を含め5日以内

レポート 利用可能期間 2023/10/17 11:00 - 2023/10/21 23:59

サブノート・MP4動画講義日2日前からダウンロード・閲覧可能



講義出席評価の判断基準

出席判定	教室出入口のカード読取装置に学生証をタッチ※1	学生証忘れの際は事前に教運車の出席簿の記入※2	授業後に出席確認用マークシートの提出	期限内での確認テストの提出 (30分以内 50点)	期限内での課題レポートの提出 (60分以内 50点)
対面講義で出席	① (Campusmaster-jiに反映)	② (常番は減点)	③ (途中退席は欠席扱い)	④ (未提出0点)	⑤ (未提出0点)
MP4で遠隔受講	病欠等で「欠席届」が学務係で受理された場合、後日出席扱い			④ (未提出0点)	⑤ (未提出0点)
欠席扱い	・出席者で「①+③」か「②+③」が欠落すると欠席 ・欠席者が2週間以内に「欠席届」を提出しないと欠席				

※1：カードで読取れる時間帯は講義前10分～講義開始から20分迄
 ※2：学生証忘れの際の出席簿の記入時間帯は講義前10分～講義開始から20分迄

学生にWebClassで通知する座席指定表

2つの表から学生自身で座席把握

別途、講義当日に教室前出入口には座席表を掲示

正確に出席確認できる体制の確立

- ◆ 教室出入口設置のICカードで学生証をタッチして受講しない学生の把握
- ◆ 独自仕様の出席確認用マークシートは出席者全員に提出を義務付ける
 - ◆ 学生証未携帯の学生には未携帯リストに記載させてチェック
- ◆ 講義内容が自分の知識習得に役立ったのかを自由記載 (100文字) で提出してもらい評価

出席確認はマークシートと学務システムの Campusmate-Jで突合チェック

出欠照合

サブノート印刷仕様の再変更 (ナゴヤドーム前キャンパスの大型スクリーン仕様とPowerPoint2013のスライドサイズが9:16に変更)

a) 従来のPowerPoint機能での印刷
(印刷仕様を4スライドを用紙に合わせ拡大)

b) 2017年からのサブノート
(フルサイズで印刷プロパティから4分割)

PowerPointに液晶ペンタブレットを使った講義のわかり易さの工夫

Zoomによる遠隔講義に最適

教室AVコンソール

CLEVAS(教室録画システム) vs 音声録音付きPPTのMP4配信の利用選択

What is Web 2.0

- ◆従来のWWWにおけるサービスやユーザ体験を踏えて、第2世代のWebという意味で、2004年にティム・オライリー (Tim O'Reilly) により提唱
- ◆ティム・オライリーは、論文「What is Web 2.0」以下の共通要素を提示する
 - ◎ ユーザの非による情報の自由な整理 (Folksonomy)
 - ◎ リッチなユーザ体験 (Rich User Experiences)
 - ◎ 高権威としてのユーザ (User as contributor)
 - ◎ ロングテール (The Long Tail)
 - ◎ ユーザ参加 (Participation)
 - ◎ 根本的な転換 (Radical Trust)
 - ◎ 分散性 (Radical Decentralization)

◆ CLEVAS (左図) では講義中の音声や雰囲気はわかるが、90分と時間が長く、これだけではスライド文字が判読できない。予習には使えない。

◆ 音声録音付きPPT (右図) は要点を20分程度に留め、スライド毎の説明が判読でき、予習・復習に活用できる。MP4データ圧縮でパケット量も減らせる

勉強の集中力は「15分」が限界？

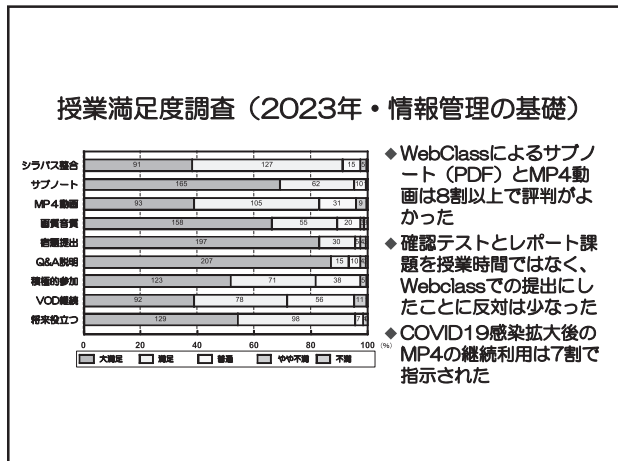
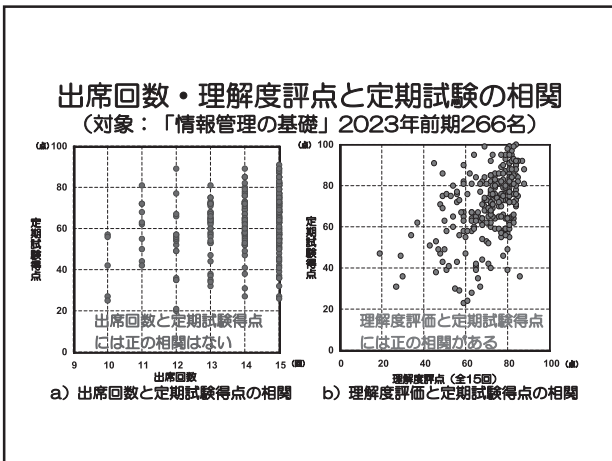
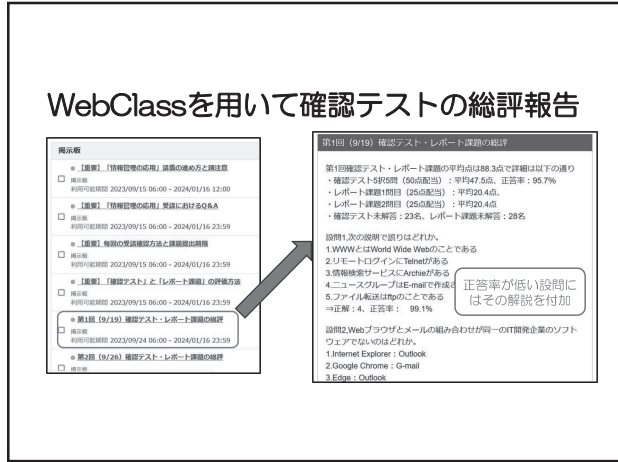
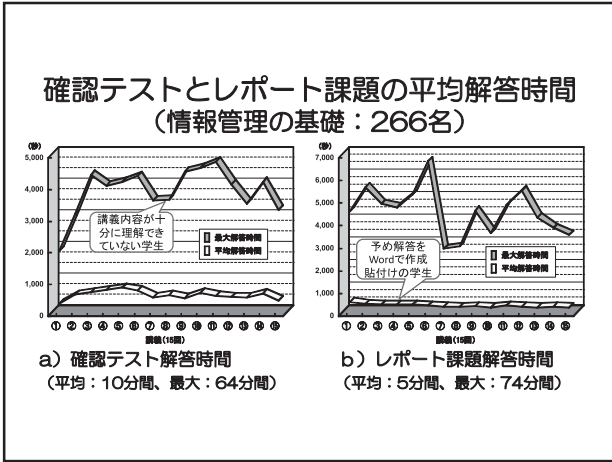
- ◆机に座って勉強をする場合はおおよそ15分以内
 - ◆神経科学分野では「集中力」の代わりに「注意」を用い、注意を「選択的注意」「分散的注意」「持続的注意」の3つ
 - ◆勉強をする際の集中力はクレペリンテストがモデル的に似ているので、その持続時間はおおよそ15分以内と考えられる
 - ◆映像コンテンツの視聴も15分ほどと言われていて、テレビが約15分間隔でCMに切り替わるのは理にかなっている
- ◆オンライン研修はリアル研修より短く
 - ◆ポップ・バイク提唱の「90/20/8の法則」から記憶を保持しながら話が聞ける時間は20分が限界

出典：朝日新聞 EduA「勉強の集中力は“15分”が限界？ 脳科学の専門家に聞く「集中」のコツ」

WebClassから各回の確認テスト、レポート課題の平均解答時間が算出できる

◆ WebClassの「成績表示」から全15回の講義の平均解答時間、最大解答時間を求めることができる

- ◆ 確認テスト：5問出題
 - ◆ 5問の解答合計
 - ◆ 全問正解で50点
- ◆ レポート課題：2問出題
 - ◆ 2問の解答合計
 - ◆ 規定より文字数が少ないと減点
 - ◆ 全問正解で50点



まとめ

- ◆講義の工夫次第で学生の理解度が上がる
 - ◆乱数を用いた指定確保による静謐な講義体制の確保
 - ◆真に授業に出席している学生の把握に教室入口IC読み取り機とマークシートの併用は効果的 →不正行為者の排除
 - ◆講義にPowerPointと液晶ペンタブレットの併用は学生の理解度を上げることに有用
 - ◆サポート印刷とMP4動画視聴の併用で予習・復習に役立つ
 - ◆授業中に解らなかつた箇所や確認テスト解答のための再視聴
- ◆授業満足度調査から約17年で改善してきた1教員の試みですが、参考になる個所があれば活用頂ければ幸いです

講師プロフィール

2023年、名城大学は、開学100周年を迎えます。 MEIJO¹⁰⁰_{th} MEIJO UNIVERSITY 1926...2026

◆酒井順哉 (さかい じゅんや)

1976年に鹿児島大学医学部附属病前手術部助手、1989年に同病院医療情報部副部長兼務、1995年から名城大学都市情報学部教授、2011年に名城大学大学院都市情報学研究科教授となり現任に至る。

医学博士・工学修士。専門は医療情報学、手術医学、医療安全学。

第34回日本医療福祉設備学会・学会長(2004年開催)、第83回日本医療機器学会・大会長(2008年開催)を歴任し、一般社団法人日本医療機器学会、日本手術医学会、一般社団法人医療福祉設備協会の理事を2023年まで歴任、医療の安全に関する研究会の常任理事。

◆問い合わせ先

名城大学都市情報学部 保健医療情報学研究室
 〒461-8594名古屋市中区東区矢田路4-102-9
 名城大学オゴヤドーム前キャンパス
 TEL: 052-768-6436、FAX: 052-721-8881
 E-mail: sakai@meijo-u.ac.jp

働き方を学びほぐすアンラーニング

- 日時 2023年7月10日(月) 13:00~14:20
- 講師 松尾 睦 教授
(青山学院大学 経営学部 経営学科)
- 会場 Zoomによるオンライン開催
- 対象 学内教職員、非常勤講師、大学院生

企画趣旨

経済のグローバル化や少子高齢化等の影響もあり、大学を取り巻く環境は、日々大きく変化しています。このような先の見えない状況下では、過去の経験や常識にとらわれず、働き方や職場のしくみを入れ替えていく「アンラーニング」が求められます。今回の講演では、職場で働く個人がどのようにアンラーニングを進めているかを紹介した上で、大学という職場で大学教職員がどのように学んでいくべきかについて考えたいと思います。

申し込み方法・問い合わせ先

下記URL等からお申し込みください。

[https://us06web.zoom.us/meeting/register/tZYucuspzIvH9SibRwyf6byQQriNOyQbM_C](https://us06web.zoom.us/join/joinMeeting?meetingRef=1234567890)

※お申し込み後、参加方法の詳細が 自動メールにより送付されます。

《お問い合わせ》

名城大学 大学教育開発センター
TEL: 052-838-2032 (内線: 2653)



第18回 FD・SD 学習会 実施報告

1. 実施概要

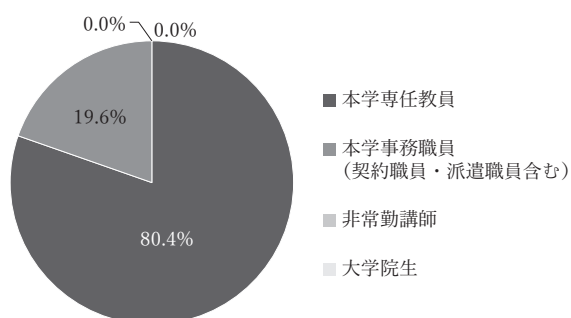
- ・日 時：令和5年7月10日（月）13：00～14：20
- ・開催方法：Zoom によるオンライン開催
- ・テ ー マ：働き方を学びほぐすアンラーニング
- ・講 師：松尾 睦 氏（青山学院大学 経営学部 経営学科 教授）
- ・参加者数：86人（専任教員63人、事務職員23人、非常勤講師0人、大学院生0人）

2. アンケート方法等

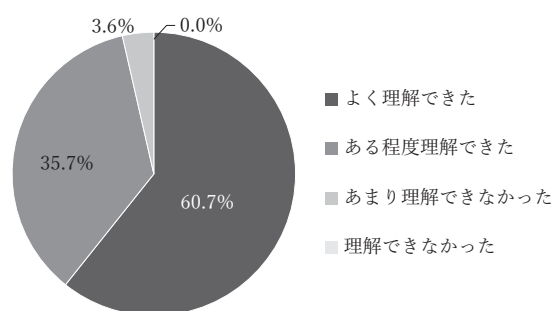
- ・アンケート方法：Google フォーム
- ・質問項目：以下のとおり
 - ①所属をお知らせください。
 - ②本日の内容は、理解できましたか？
 - ③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？
 - ④本学習会の満足度について教えてください。
 - ⑤講演の感想をお聞かせください。
 - ⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。
 - ⑦テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。
- ・回答者人数（質問①～④）：56人
- ・質問⑤～⑦については主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

3. アンケート結果

①所属をお知らせください。

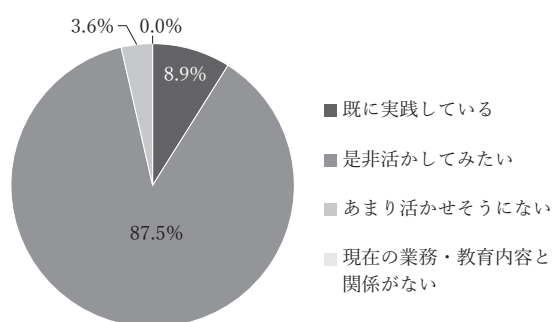


②本日の内容は、理解できましたか？

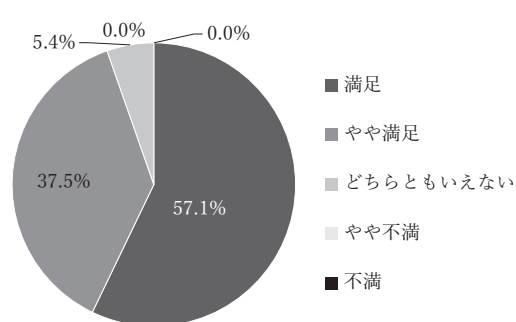


③本日学んだことを、学部や個人の教育活動

に活かしてみたいと感じましたか？



④本学習会の満足度について教えてください。



⑤講演の感想をお聞かせください。

- ・聴講者が参加できる形での講演で、考えながら参加することができた。
- ・事例が豊富で分かりやすかったです。
- ・「アンラーニング」につて考えるきっかけにしたいと思います。
- ・アンラーニングという新しい概念を理解することが出来ました。
- ・謎習慣の消去が重要であると感じた。
- ・日々の意識が重要であるため、自分だけでなくチームの意識も変えられる環境に変化させたい。
- ・今まで当たり前になっていることを定期的に振り返り、適切な方法なのかを考えることが、自己の考え、振舞い等を変えていく第一歩だと認識した。
- ・組織的な取り組みにしていくと良いとおもう。部署が変わった人から話を聞く、他大学から来た人の意見を聞くは、ぜひ、基本的なとりくみにしたい。
- ・様々な事例を用いてご講演いただけたことに感謝いたします。
- ・業務改善として実行していることの横展開の必要性、今一度、組織の中の業務のやり方を見直す良いきっかけとなりました。ありがとうございました。
- ・自身の立場や部署全体のことを考えながらお話を聞くことができました。大変勉強になりました。
- ・大学での業務はクリエイティブなようでルーティーンが多く、効率よくルーティン化することで乗り切れている面があり、アンラーニングすることは勇気がいるが必要なことだと感じた。
- ・刷新のリスクより不変のデメリットの方が大きい場合はまずは勢いで変化してみようと思いました。
- ・内容は面白かった。「アンラーニング」という言葉に違和感がある。
- ・日々の業務の振り返りをして、変化を求めてより良い教育・研究を進めていきたいと感じました。
- ・Unlearning の日本語訳（学びほぐし、知の断捨離）に興味を持った。常にアップデートが必要ですね。
- ・教員間の連絡を Slack に変えることで迅速に行えるようになったが、一部教員が Slack を使えないことで、結局電子メールでの連絡も併用せざるを得ない。こういったケースでどのように教員の意識を変えていけばよいのか、事例があったら是非お教え願いたい。

- ・なかなか聞けない話で、非常に参考となった。
- ・少しずつ、今の業務について見直しをしていきたいと思う。
- ・大変刺激になり、自身で取り組むべきポイントが満載でした。
- ・アンラーニングにより次の発展を期待できることが理解できて良かったと思う。
- ・異動がなくアンラーニングをまずしないであろう部署の職員に見せてほしいと思いました。
- ・最後の質疑応答の箇所が印象的であった。各々の業務があり、なかなか時間がとれない中、どのように全体に共有していくか（アンラーニング）という点が大切なように感じた。
アンラーニングを進めるポイントについて、わかりやすかったので挑戦できそうである。私は中途採用者であるが、4月に入職しなぜ？と思うことがあるのでメモに残し少しでも改善できるように取り組んでいきたい。
- ・個人的には、色々とベターなことを取り入れ、やってみて、うまくいかなかったら変えていけば良いと思うタイプなのですが、前例が無い、こういうルールだから、等等、抵抗にあうことが多々あります。それを打ち破るには、やはり上の方の度量が必要とってしまいます。言っても、やっても変わらなければ、言わなくなり、提案しなくなり、自分のことだけをやっている組織になって行くのに と、より一層、感じました。
- ・ご講演の内容はごもっともなことばかりでした。話ずらいこともお話し頂き、ありがとう御座いました。質問としては、時間軸はどのように考えれば良いのかということです。毎年、リニューアルするのもかえって良くないような気がします。やはり10年程度を一区切りとすべきでしょうか？
- ・松尾先生の書籍「経験からの学習」を随分と前に購入して読ませていただきました。何かを学ぶためには自ら経験する以上に良い方法はないということを兼ねてから意識していましたので大変共感しています。そして、今回のアンラーニングという視点を取り入れることで発想やアイデアの発掘につながるということが理解でき、大変勉強になりました。
- ・「教訓のアップデート」というところを実践したいと思います。ありがとうございました。
- ・固定概念にとらわれない大切さを学びました。「気づき」があってこそそのアンラーニングだと思いますが、なかなか気づくことが難しいため、日々視野を広く持っていたいと思いました。そして小さなことから初めていきたいと思いました。また、新入職員ということを活かし、新しい考え方を取り入れられるようになりたいと思いました。
- ・講演内容は明快なのですが、そうであればあるほど、実際に物事を動かす際に壁を感じざるを得ず、そのあたりの難しさに思いを致さざるを得ませんでした。
- ・本学の働き方も学びほぐす必要があると感じました。前例主義、右から左への仕事、乱れた文書、思考停止に陥っている仕事が見えます。このことは個人レベルおよび組織レベルで早急に改善する必要があると思います。できれば、この100周年の機会を利用し、業務のDX化推進、ある程度費用を掛けてでも行う必要を感じます。少子化は学生募集のみならず、教職員採用の面でも困難な状況になると危惧されます。AIを利用できる仕事は任せ、利用のできないアンラーニングなことは、一人一人の教職員すなわち組織全体での意識改革により行っていかなければならないと思いました。

⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。

- ・何か改革出来ればと思い参加しました。
- ・教授会でのアナウンスメント。
- ・事務からの連絡。
- ・学びほぐすという言葉に惹かれた。
- ・仕事の仕方を変えてみるヒントを得るため。
- ・効果的な手法、仕事の効率化などが急務だと感じていたため。
- ・変化に対応する方法論を学ぶため。
- ・自身の知識向上。
- ・Zoomによる実施のため、参加しやすい（参加時間を確保しやすい）。
- ・今後必要なことであるとの認識から申し込みをしました。
- ・アンラーニングについて興味があり、今後の業務に活かせればと思い申込をしました。
- ・アンラーニングというキーワードを最近よく耳にするため。大学の初年次教育で高校までに学習した内容を部分的にアンラーニングさせる必要があると感じることがたまにあるなど関心もあった。
- ・認証評価で指摘のあったFD及びSDの参加率向上に資するため。
- ・FDは常に参加している。
- ・学部の大学教育開発センター委員として、出席した方が良いと判断したため。
- ・在職期間が5年を超えて色々な業務にこなれてはきたものの、同時に閉塞感も感じている。上手くいっていないことについては現状を打破しなくてはいけないという思いがあったため。
- ・頭を切り替えるということを考えるきっかけになればと思いました。
- ・現在の自分の働き方は間違っていないかを確認したいと思って。
- ・FD学習の必要性。
- ・「アンラーニング」という言葉を聞いたことがなく、内容を知りたいと思ったからです。
- ・FD/SDのさらなる推進のため。
- ・アンラーニングというキーワードに興味があったから。
- ・アンラーニングという言葉が何を意味するのか知りたかった。

⑦テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。

- ・大学でのDXの推進について。
- ・教育のDXについて。
- ・授業改善に興味があるが、今回のように大学の仕組みそのものを考え直す機会を作ってくれるようなFDも良いと思います。
- ・学生気質の変化とそれへの対応。
- ・いろいろなテーマで学習会を実施していただいていますので、今後も期待しています。
- ・特定の曜日・時限に問わず参加できる形態をご検討いただけましたら幸いです。
(講義や授業準備とバッティングするのを避けるため。)

令和5年度
名城大学新任教員FD・SD研修会/第19回FD・SD学習会

学生の主体的な学びを促す授業設計 ～学習到達目標から授業を見直そう！～

- 日時：2023年 9月 12日（火） 13:00～14:20
- 講師：安部 有紀子准教授 竹永 啓悟 特任助教
(名古屋大学 高等教育研究センター・東海国立大学機構
QTA・GSIトレーニングセンター)
- 対象：令和5年度採用新任教員（参加必須）
学内教職員・特任助手・非常勤講師・大学院生
- 方法：Zoomによるオンライン開催
- 共催：名古屋大学 高等教育研究センター〔質保証を担う中核教
職員能力開発拠点〕
東海国立大学機構 アカデミック・セントラル QTA・GSI
トレーニングセンター

企画内容

「良い授業」とはどのような授業なのでしょう？
近年、「大学教育の内部質保証」という言葉をよく耳にするようになりました。この「大学全体の教育の質向上」のサイクルに「自分が担当する授業」を連動させていくことは、授業を実施する教員にとっても大きなメリットがあります。

本セミナーでは、近年注目されている「学生の主体的な学びを促進するための授業設計方法」をご紹介します。特に「学習到達目標の設定」に焦点を当て、普段の皆さんの授業を見直していく機会にしていきたいと思っております。

申し込み方法・問い合わせ先

下記URL 等からお申し込みください。

<https://us06web.zoom.us/meeting/register/tZEtc--qrTIpHN2VhmXLx6hKALcmf66eqoz8>

※お申し込み後、参加方法の詳細が 自動メールにより送付されます。

《お問い合わせ》

名城大学 大学教育開発センター
TEL：052-838-2032（内線：2653）



新任教員 FD・SD 研修会／ 第19回 FD・SD 学習会 実施報告

1. 実施概要

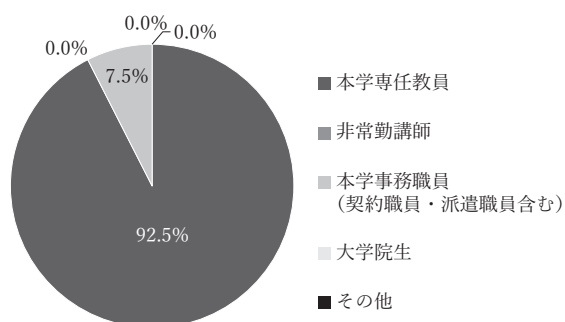
- ・日 時：令和5年9月12日（火）13：00～14：20
- ・開催方法：Zoomによるオンライン開催
- ・テ ー マ：学生の主体的な学びを促す授業設計～学習到達目標から授業を見直そう！～
- ・講 師：安部 有紀子 氏、竹永 啓悟 氏（名古屋大学 高等教育研究センター・東海国立大学機構 QTA・GSI トレーニングセンター 准教授、特任助教）
- ・共 催：名古屋大学 高等教育研究センター〔質保証を担う中核教職員能力開発拠点〕
東海国立大学機構 アカデミック・セントラル QTA・GSI トレーニングセンター
- ・参加者数：66人（専任教員58人、事務職員8人、非常勤講師0人、大学院生0人）

2. アンケート方法等

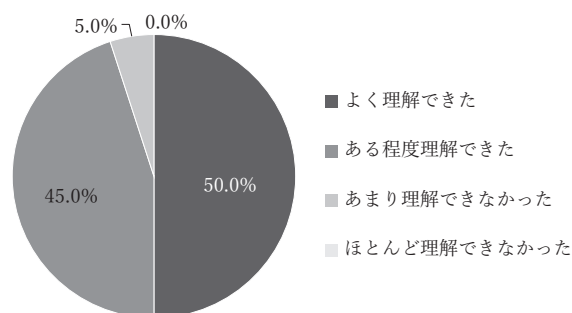
- ・アンケート方法：Google フォーム
- ・質問項目：以下のとおり
 - ①所属をお知らせください。
 - ②本日の内容は、理解できましたか？
 - ③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？
 - ④本学習会の満足度について教えてください。
 - ⑤講演の感想をお聞かせください。
 - ⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。
 - ⑦テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。
- ・回答者人数（質問①～④）：40人
- ・質問⑤～⑦については主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

3. アンケート結果

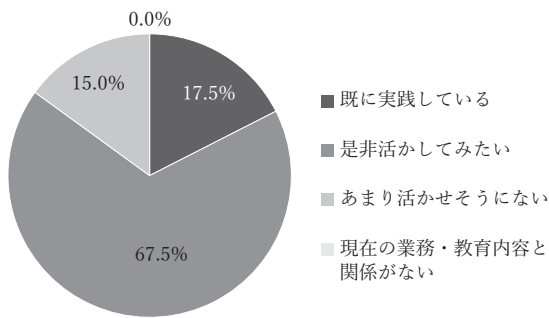
①所属をお知らせください。



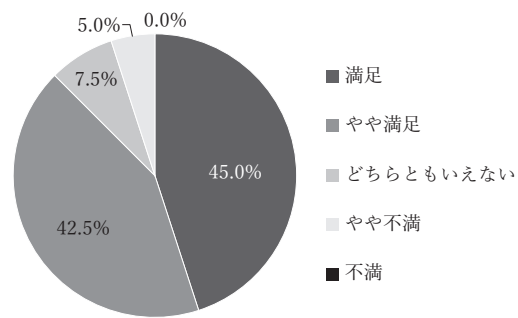
②本日の内容は、理解できましたか？



③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？



④本学習会の満足度について教えてください。



⑤講演の感想をお聞かせください。

- ・到達目標の重要性がよく理解できました。次回のシラバス作成の時に生かしたいと思います。
- ・シラバスの考え方がよくわかった。
- ・時間の関係で絞った TOPIC ではあったが、非常にためになる機会で、自身のシラバスを見直す機会になりました。
- ・到達目標から、作成するという考え方は、よくわかりました。
- ・自らのシラバスを客観的にみることが出来ました。
- ・おそらく私の理解力の問題だと思いますが、内容や概念の区分に矛盾するような箇所が散見され、うまく呑み込めませんでした。
- ・自分自身の授業の到達目標や構成など振り返る良い機会になりました。
- ・授業デザインの参考になりました。ありがとうございました。
- ・大変参考になりました。
- ・前職でシラバス作成方法について厳しく指導されていたので実践はできているつもりですが、内容を再確認でき、新しい発見もありました。ありがとうございました。
- ・ブレイクアウトルームにて他学部の先生方とお話ができる機会を得てよかったと思います。分野は違いますが、共通した部分も多々あったことが収穫でした。
- ・到達目標からバックワードで設計を見直すことの重要性は理解できたが、すでにその考え方は期末の試験結果をみて学生ができていないところを確認してその部分をどう教えるべきかと考えるのはある意味バックワード設計・・・と考えた。また、到達目標はこれ以上なく単純に説明できる、と掲載しているがこれが正しいのかももう一度考えてみたい。
- ・わかりやすいお話、話し方で理論的にお話いただき、理解が進みました。
- ・講義と自身の研究内容との共通性、および当該講義の内容がその後の講義内容に深く関わっているのかが大きく関わるように思われる。私の担当講義が上記2点のどちらとも関係が薄かったため、学べる部分が少なかった。
- ・学習目標について具体例や理論をご教授頂けたので、短時間でもよく学べたと感じた。
- ・学習目標のレベルの意味については勉強になりました。
- ・バックワードデザインについての知識を今後の講義に活かしていきたいです。

- ・他学部との教員と話す機会があったことは良かった。
- ・自分は一昨年まで大学院生だったので、ここ数年の間でシラバスをつくるという新しい作業をしなければなりません。そこでまず私が取り組んだことは、関連する科目の既存のシラバスを可能な限り調べるといことです。思いつく大学のHPに片っ端からアクセスして似たような名前の科目の講義のシラバスを確認して内容を比較し、自分がシラバスや講義の内容を考えるときの参考にしました。そのおかげで、本日の研修会で教えていただいた内容を体感として認識して実践できていたように思います。あの経験がとても大切だったんだということを改めて感じるとともに、学術的に体系化することができた講演会でした。ありがとうございました。
- 見落としてしまっていたことを再発見できたのは一番大きな収穫であった。特に、目標に数値を入れるということであった。ブレイクアウトルームは良かったです。
- ・ブレイクアウトルームでのワークは、やる前は面倒だと感じたが、やってみると非常に良かった。
- ・バックワードデザインなる概念やその意義については理解しましたが、それをどこまで実践できる・実践すべきかとなると、授業の種類や配当学年によって大きな幅があるのではないかと思います。
- ・他学部の先生方がシラバス作成上、どのようなことで悩んでいるか知ることができ、有意義でした。
- ・バックワードデザインの考え方は知らなかったため、参考になった。また、ブレイクアウトルームによる教員間のワークがシラバスについて議論できたのは大変よかった。ただ、学生の主体的な学びを促す具体的な授業の見直し事例がなかったのが残念。
- ・授業設計について改めて考える機会となり良かったと思います。
- ・非常に面白く、分かりやすかった。
- ・学部・学科また科目によっても目標は異なります。
- ・自分の分野では、適切な動詞を使って目標を記述することに難しさを感じました。特に、「⑤評価する」がどのようなことに対応するのか思いつきませんでした。また、「⑥創造する」につきまして、学部生では難しいように思う部分がありました。
- ・今回の内容をもとに、自分のシラバスを見直してみようと思います。
- ・グループワークで互いの到達目標についてアドバイスし合ったことが有益でしたが、時間が足りませんでした。グループワークの時間がもう少し長くあると、より深い所まで議論できたと感じました。授業を一方的ではなく双方向にしたり、グループワークを取り入れて自分たちで情報を集めて考えさせたり、発表させたりしたいのですが、受講人数が多い（130人）、ノートPCやタブレットを全員が持っていない&パソコン室が使えない（スマホしか使えない）、固定された机・イスでグループをつくったり移動したりしにくい、といった現状があります。受講人数の改善は難しいかもしれませんが、ハード面でノートPCを全員が持てるようにしたり、可動式の机やイスがあったりすると、到達目標の次元をより高度に設定することができます（スタンディングデスクのような立って使えるようなものもあります）。バツ

クワードデザインをしたいのですが、現実には、この学習環境でできることを考えざるを得ないかなと思いました。ただ、今回の研修会を通して新たな気づきや改善できることが見つかったので、今後取り入れていきたいと思います。有益な企画をありがとうございました。

⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。

- ・新任教員であるため。
- ・FD・SDの研修を受けてみようと思ったため。
- ・シラバスを記載する際のポイントを知りたかったため。
- ・後期の授業が始まるので授業設計を見直す機会になればと思い申し込みました。
- ・シラバスの作成の一考察になればと思い参加しました。
- ・今よりも良い講義になるメソッドを常に探しているので申し込みました。
- ・学部FD・SD委員であるため。
- ・自身の授業改善のため。
- ・FDには必ず参加している。
- ・FD活動の一環。
- ・学部のFD・SD担当となったため。
- ・初年度教員の参加が必須であったから。
- ・内容に興味があった。
- ・大学教育開発センター委員であるため。
- ・「到達目標」の書き方について疑問を持っていたため、申し込みました。
- ・学生の主体的な学びを促すヒントが得られると思ったため。
- ・大学の教員として参加すべきと思ったから。
- ・FD・SD関連の学習会はできるだけ受講するようにしています。
- ・教務系の業務があり、シラバスの内容を深く理解したかったから。
- ・FD研修会に参加することが、教員の自己評価のポイントとしてカウントされるから。
- ・より良い授業をしていくためのヒントを得たいと思ったから。

⑦テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。

- ・大学教育におけるICTの活用などいかがでしょうか？
- ・学習到達目標に対して、学生自身が自己点検する仕組みでルーブリックも有効だと思います。このあたりも今回のようなワークを入れる形で練習をしてみると導入が進むのではないかと
思うので、テーマとしてご検討いただければ幸いです。
- ・実際のシラバス（他大学のものでも良いので）を例にして添削結果を示してほしい。
- ・学生により理解できるようなシラバスが作製できればと思いました。自分のシラバスで「理解する」をあまりにも多投していることが再認識できました。
- ・シラバスの学修目標、本学の到達目標を書く欄を改善して大きくしていただいた方がよいと

思います。項目立てて書こうと思うと2行しかなく不足です。

- ・研究活動に進むことを念頭に置いた高等教育のあり方について訊いてみたい。研究への興味を引くような講義内容みたいな部分がフォーカスされなくなってきているため。
 - ・企業から見た学生採用における大学の役割。
 - ・効果的な授業方法。
 - ・最後思い出したことは、英語圏ではシラバスは学生と教員との「契約」であるという大前提の重要性です。この理解が進めば、日本でも改革につながるのではないのかと思います。テーマへの意見ではありませんが、本日の学習会を受けて、本学のシラバスの到達目標欄が狭すぎるのではないかと思いました。学生側から見るシラバスでは、展開されると思いますが、教員側が記述する際、全体が見えるように欄を大きくとっていただけるとよいと思いました。
- 数学ができないで入学してきた文系の学部生に、どうやって数学を勉強させるか。動機付け・難易度の設定・正課外で教育を行う場合の制度設計など。
- ・今回の内容を、続編として、より深堀して学びたいです。例えば、参加者一人一人がシラバスの到達目標について説明し、講師を含めた参加者全体からアドバイスをもらう。これを時間いっぱい繰り返すだけでも、講師や互いのアドバイスから学ぶことは多いと思います。

教育功労賞表彰報告

教育功労賞制度は、学校法人名城大学職員規則第47条に基づき、各学部及び研究科等において、教育活動及び教育改善に大きく貢献した者を表彰することにより、職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的として表彰するものです。

表彰の種類は、各学部及び研究科等における教育活動及び教育改善に大きく貢献した者及びグループを表彰する教育功労賞と、教育功労賞受賞者のうち、全学的な取組として波及できる可能性のあるものを表彰する特別教育功労賞からなり、いずれも各学部及び研究科等から推薦された者について大学教育開発センター委員会において審査し、大学協議会での審議を経て学長が決定するものです。

令和5年度は4件の推薦があり、大学教育開発センター委員会（令和6年1月11日開催）で慎重に審査した結果、推薦のあった4件を教育功労賞候補者として相応しい旨を学長に報告した後、大学協議会（令和6年1月26日開催）の総意を踏まえ、学長が承認しました。

表彰者について

1. 教育功労賞受賞者

NO.	氏名・グループ名	所属学部等	活動・テーマ
1	交換留学生受入れ 国際日本学・日本語プログラム	外国語学部 国際化推進 センター	交換留学生受入れ 国際日本学・日本語プログラム
2	新学部検討ワーキンググループ (PBL 導入関係)	情報工学部	情報工学部設置に伴う PBL 導入の検討
3	都竹 愛一郎	理工学部	「モノづくり」を担う人材育成のための実感教育
4	高井 宏之	理工学部	アジア4都市の超高層住宅に関する研究成果の社会 への普及

2. 特別教育功労賞受賞者

該当者なし

教育功労賞候補者推薦書

大学教育開発センター委員会委員長 殿

学部・研究科・センター等 外国語学部・国際化推進センター

下記の教育職員（グループ）を「教育功労賞要項」に基づき、教育功労賞候補者として推薦します。

教育功労賞候補者

所属学部等	候補者氏名
取組タイトル	交換留学生受入れ 国際日本学・日本語プログラム

【グループの場合は、以下にグループ名等を記載してください。】

グループ名	交換留学生受入れ 国際日本学・日本語プログラム		
学部等・氏名（代表）	鈴木 裕輔	学部等・氏名	外国語学部
学部等・氏名	池田 菜採子	学部等・氏名	外国語学部

1. 推薦理由

この度、受入れ交換留学生を対象とした教育プログラム充実への多大なる貢献から、鈴木裕輔准教授および池田菜採子特任講師を教育功労賞候補者として推薦したい。

本学では、国際化計画2026において、「キャンパスの国際化」を目標の一つと掲げてきた。中でも本学学生に、キャンパス内でも国際的な学びを提供するため、英語圏をはじめとする多様な国からの交換留学生の受入れは長年の課題であった。

交換留学生の受入れのプログラムに係る学則の変更（2020年4月）に合わせ、鈴木准教授、池田特任講師が尽力されたことにより、受入れ交換留学生を対象とする教育プログラム（国際日本学科目・日本語科目）が充実し、安定的かつ多様な受入れ交換留学生の確保が実現しつつある。

2020年より発生したコロナ禍においては、本学へ留学が叶わなかった受入れ予定交換留学生に対して、当初よりオンラインを活用した教育プログラムを提供した。困難な環境でも、工夫を重ねることでモチベーションを高め、留学生への教育活動を止むことなく継続させた。現在、オスロ大学（ノルウェー）より毎年度10名程度、交換留学生を受け入れているが、これも両氏が、パンデミックや時差の影響も受けながらも、継続して留学生向けの教育プログラムを提供した功績が大きいと考える。

2022年度以降、徐々に世界的に留学が再開され、従来の交換留学に加え、UMAPを通じた留学生受入れも開始し、2023年度においては、8カ国の大学から41名の交換留学生（前後期累積）を受け入れることができた。特に、英語圏からの受入れ交換留学生数については、2023年度には

25名にまで増加しており、コロナ以前と比較すると、国籍の多様性および受入れ人数で大きく進捗が見られる。こうしたことから、キャンパスの国際化への両氏の貢献はきわめて大きく、教育功労賞に値すると考える。

【受入れ交換留学生 推移】



(1) 鈴木 裕輔 准教授：国際日本学科目担当

日本文化、日本社会などに係る科目を英語で開講することで、従来日本語能力が十分でなかったために本学の交換留学に参加できなかった学生に対しても、交換留学生として学ぶ機会を提供することができることとなった。

担当科目の一部である国際日本学入門やフィールドワークでは、各界で活躍される方々から直接学ぶ機会や、現地を実際に訪れて学ぶ機会を外国人留学生に提供することで理解の深化を進めている。

(2) 池田 菜採子 特任講師：日本語科目担当

受入れ交換留学生に対する日本語プログラムのコーディネーターとして、非常勤講師（6名）とコミュニケーションをとり、学習者のレベルに応じた学習環境を提供するとともに、各学生の様子を観察しながら、きめ細やかなサポートを提供している。

授業外においても、交換留学生の日本語をサポートするスピーキングパートナーを担当する本学学生（スチューデントアシスタント：SA）に対して、日本語学修サポートに関する事前研修などを実施し、本学としての交換留学生受入れ体制の質の向上へも貢献している。

2. 取組の発展性について

受入れ交換留学の促進を含め、さらなる本学の国際化に向けて、英語による開講科目の充実には欠かせない。国際日本学プログラムにおける英語による科目開講の経験値を、全学的な英語開講科目の展開につなげていきたいと考えている。

また、受入れ交換留学生と本学学生が、英語を使用しながら、共に学ぶ機会を提供することは、言語学習のみにとどまらず、異文化理解の促進、グローバルマインドの醸成など大きな利点がある。現時点では、国際日本学は受入れ交換留学生向け科目として開講しており、本学学生の履修は聴講扱いとなるが、将来的には、本学学生にとっても単位が付与されるよう制度を整え、本学学生と受入れ交換留学生が共に英語開講科目を受講できる環境を提供したいと考えている。

さらに、受入れ交換留学生の増加に伴い、彼らと本学学生との交流の機会も増加しており、国際化計画2026に掲げる「キャンパスの国際化」の進展や、将来的には「海外における国際化」として交換留学や海外留学に関心を持つ学生の増加も期待できる。

3. その他教育活動に係る特記事項

(1) 鈴木 裕輔 准教授

受入れ交換留学促進策の一環として実施している短期プログラム（サマープログラム、ウィンタープログラム、オンラインプログラム）においても、日本の文化、社会を英語で学ぶ機会を参加学生に提供し、リピーターを含む多数の参加者を集めることができている。

(2) 池田 菜採子 特任講師

受入れ交換留学生に対するオリエンテーションへの協力や、学修面以外での課題を抱える交換留学生のケアも行っている。

教育功労賞候補者推薦書

大学教育開発センター委員会委員長 殿

学部・研究科・センター等

情報工学部

下記の教育職員（グループ）を「教育功労賞要項」に基づき、教育功労賞候補者として推薦します。

教育功労賞候補者

所属学部等	情報工学部	候補者氏名	下記に記載
取組タイトル	情報工学部設置に伴う PBL 導入の検討		

【グループの場合は、以下にグループ名等を記載してください。】

グループ名 新学部検討ワーキンググループ（PBL 導入関係）

学部等・氏名（代表） 情報工・山本 修身 学部等・氏名 情報工・向井 利春

学部等・氏名 情報工・亀谷 由隆 学部等・氏名 情報工・鈴木 秀和

1. 推薦理由

理工学部情報工学科を改組して情報系の新学部（後の「情報工学部」）を設置する案が大学執行部から示されたことを受け、情報工学科では新学部の具体的な構想に着手し、全体の構想を「新学部ワーキンググループ」で検討した結果、新学部の特徴として PBL（Project-Based Learning）を導入することと決め、その具体的案を「PBL 導入検討ワーキンググループ」で検討した。今回推薦するグループのメンバーは、この WG のメンバーとして、新学部が掲げる「協働力・技術力・実践力を備えた次世代情報技術者の育成」に不可欠な PBL を導入するために必要な諸課題を検討し、企業と連携しての試行を含め、具体的な導入の道を開いた点が、推薦の主な理由である。

情報工学部設置の背景は様々であるが、その一つが Society5.0や DX（Digital transformation）といった言葉が示すように、情報技術が一気に社会実装のフェーズに突入し、様々な領域に広く、かつ深くかかわるようになりつつあり、人々の価値観といったものにも変革をもたらす存在となっている点である。そのような重要な位置づけを迎える情報技術を支える技術者は、従来のように既存の技術を正しく理解しているだけでなく、これまで情報技術がかかわってこなかった新しい分野や領域に対して、情報技術がどのように貢献できるかをその分野の人々と一緒になって考え（協働力）、最新の情報技術を駆使して（技術力）、それを正しく実現に導くことのできる（実践力）能力を身に付けていなくてはならない。PBL は具体的な課題をチームで解決する経験を重ねることにより、上記3能力を身に付ける効果的な手法であり、情報工学部ではこれを学部の

学びの大きな柱として導入することになった。

しかし、PBLは課題の設定や準備する環境もこれまでの学生実験とは比べようもなく難しい。特に課題の設定に関しては、単なる課題のための課題ではなく、今実際に世の中で問題になっている課題に極めて近い、より具体的な内容でなければならない。そのためには、企業や自治体といった学外の組織との連携が必要になってくる一方、カリキュラムの中に組み込むには、課題の難易度の調整や他の科目との調整等、困難な課題が山積していることがわかった。

これらの課題を、文部科学省への新学部設置に係る事前相談のための資料作成の期限が迫る中、科目担当教職員や教務担当事務職員との打合せ、臨時の開催も含む学科会議での検討を精力的に重ね、情報工学部のPBL科目の骨子を完成させただけでなく、その実装にむけた企業（トヨタコネクテッド社）との試行にまで結び付けた功績は非常に大きく、教育功労賞に値するものとして、ここに推薦する。

2. 取組の発展性について

現状では、情報工学部のPBL科目は学部独自のものであるが、今後情報技術があらゆる分野にかかわっていくことを考えると、他学部と連携して、その学問領域とも関連するより広い課題を設定し、当該学部の学生と情報工学部の学生がチームを組んで、それぞれの専門を生かして取り組む形が実現すれば、双方の学生に与える学習効果は計り知れない。

3. その他教育活動に係る特記事項

なし

教育功労賞候補者推薦書

大学教育開発センター委員会委員長 殿

学部・研究科・センター等 理工学部長 児玉 哲司

下記の教育職員（グループ）を「教育功労賞要項」に基づき、教育功労賞候補者として推薦します。

教育功労賞候補者

所属学部等 理工学部電気電子工学科 候補者氏名 都竹 愛一郎

取組タイトル 「モノづくり」を担う人材育成のための実感教育

【グループの場合は、以下にグループ名等を記載してください。】

グループ名

学部等・氏名（代表）

学部等・氏名

学部等・氏名

学部等・氏名

1. 推薦理由

推薦者は、長きにわたり本学科の教育方針であるエネルギー、ロボット、ナノテク、情報通信など、幅広い分野の基礎知識と応用力を身に付けた「モノづくり」を担う人材の育成のための実感教育を推進してきた。その取組は、ブレッドボードを用いた電子回路の製作とマイコン実習の実施であり、学生一人一人に赤外線リモコン等の電子回路を作製し、音が出たり、光ったり、動いたり、回路が完成したときに、目に見えない電気の働きを、学生の五感に訴え、電気電子分野への興味及び学習意欲を持たせる効果も狙っている。マイコン実習では講義で学習する論理回路と一対一に対応するアセンブリ言語を用いて、LED点灯プログラム等の実習を実施し、プログラムをコンパイルしマイコンに書き込むための統合開発環境ソフトウェアのインストールと、電源や周辺部品などのハードウェア機器の接続も含めて実習も実施してきた。本取組は高く評価され、平成23年3月、理工学部の教育貢献表彰を受賞した。さらに本取組に対して2017年度から2022年度にかけて「学びのコミュニティ創出支援事業」に採択され、継続的に推し進め、本学科の教育活動および教育改善をし続けてきた。

さらに本取組は、本学科の科目である「コンピュータサイエンス」、「電気電子工学基礎実験」、「基礎通信工学」、「電子回路B」および「電子回路C」でも実施されることで本学科の全学生が座学だけでは得られない実学的な教育を受講している。推薦者が実施してきた電子回路動作・マイコン体験型教育は、作製に関しては学生個々もしくは少人数にて協力しあいながら実施し、教員および大学院生等が、きめ細やかに指導することで学生同士や担当指導者とのコミュニケー

ションの場として機能している。本実習の経験が学生実験や卒業研究および修士の研究へ大いに役立っている。

他にも、学科オープンキャンパス等での実験工房の企画・実施により高校生への電気電子分野への興味・関心を持たせるための試みも積極的に取り組んだ。以上のことから、本賞の候補者として推薦する。

2. 取組の発展性について

本取組み製作する電子回路・マイコンは、いずれも音が出たり、光ったり、動いたり、回路が完成したときに、目に見えない電気の働きを、学生の五感に訴えるものであり、完成の喜びを味わうことができるように構成している。この体験を通して、生活の中のいろいろな場所で使われている電子回路に興味を持ち、その動作を理解することにより、電気を学ぶことが、いっそう楽しくなると考えている。本取組は、オープンキャンパス等で実験工房「電気電子の現象を実感できる楽しい実験工房」として次世代を担う学生に対しても実践してきた。特にブレッドボードは、電子部品をそのボードに差し込むだけで、半田付けしなくても電氣的に接続でき、電子回路を実現できるものである。そのため狭いスペースで短時間に電子回路の製作が可能である。さらに、ブレッドボードは部品を差し替えることで使い回しが出来るため、あらかじめ必要な部品を用意しておけば、全く別の回路の製作も容易である。このことから実践的な教育活動をするうえで有効であり、高大連携教育等で利用すれば、高校生に対して電気電子分野への興味も持たせ、大学進学を促進させることも可能である。

電気電子工学科では、より早い段階から物作りにかかわる授業を行うべく、1年次の「コンピュータサイエンス」でマイコン実習を組み入れている。2年次前期に「電気電子基礎実験」を実施するとともに、「基礎通信工学」では電子回路工作を取り入れている。本取組では、これらの工作実習の時間に、新たに、企業で物作りに携わっているOBに直接指導を受けることで、大学で学ぶことが物作りの現場でどう生かされているのか、企業はどのような人材を求めているのか等を、早い段階で学生に知ってもらい、その後の学びおよび就活につなげることを主眼としている。

さらに本取組は、他学部・他学科で電気電子分野に興味がある学生への初年次教育にも生かせるとも考えている。

3. その他教育活動に係る特記事項

推薦者は、学会活動における教育活動にも熱心に実施し、映像情報メディア学会の無線光伝送研究会、(財)名古屋産業科学研究所が主催する社会人向けの技術セミナー、デジタルCATV実験協議会が主催する社会人向けの技術講習会等で「デジタル放送」に関する講演、講師等を担い、学生および社会人への教育も実施してきた。さらに総務省(旧郵政省)の職員研修機関である情報通信政策研究所のデジタル放送科の講師(受講者は地方総合通信局の放送関係者)を務め、その分野のスペシャリスト達への教育指導も実施してきた。

長きにわたる研究教育活動にて令和2年6月「2020年6月1日「電波の日」総務大臣表彰」、

令和4年3月「第73回日本放送協会（NHK）放送文化賞受賞」および令和5年5月「日本ITU協会賞 功績賞」受賞をしました。推薦者が長年にわたる放送技術の発展への寄与（FM同期放送、地上デジタルテレビジョン放送、CSデジタル放送の高度化、4K・8K放送等各種放送方式の技術的条件の策定）や、放送分野における国際標準化活動に貢献したことが高く評価された結果である。さらにその成果は、電波の専門家として東京スカイツリーの設計にかかわったほか、BSデジタル放送の高度化にも尽力してきたことが高く評価されております。

以上のように、学内のみならず国内外へ研究教育活動を継続的に進めてきた。よって本賞の候補者とふさわしく、推薦申し上げます。

教育功労賞候補者推薦書

大学教育開発センター委員会委員長 殿

学部・研究科・センター等 理工学部長 児玉 哲司

下記の教育職員（グループ）を「教育功労賞要項」に基づき、教育功労賞候補者として推薦します。

教育功労賞候補者

所属学部等	理工学部	候補者氏名	高井 宏之
取組タイトル	アジア4都市の超高層住宅に関する研究成果の社会への普及		

【グループの場合は、以下にグループ名等を記載してください。】

グループ名	
学部等・氏名（代表）	学部等・氏名
学部等・氏名	学部等・氏名

1. 推薦理由

高井宏之の専門分野は「**超高層住宅の共用空間・施設に関する研究**」であり、大学院生以来、継続的に研究を実施し、平成4年11月に論文題目「**超高層集合住宅の空間構成に関する計画論的研究**」により京都大学より博士（工学）を取得した。ここで得た知見をその後の成果も踏まえ、2年生科目「建築計画Ⅱ」および修士課程「建築計画特論」で講義を行っている。

その後、アジアの超高層住宅に関する研究の深化を目指し、平成28年度から5年間、科学研究費・基盤研究（B）海外学術調査「**超高層住宅の孤立居住問題に対する計画・管理手法－アジア4都市の先進居住の知見活用**」【*1】に対し助成金を得て、調査研究を実施した。この研究は、積極的に建設、かつ意欲的な取り組みが行われているアジア4都市（シンガポール・香港・北京・台北）の超高層住宅について設計・管理、および居住者の意識・生活の実態を明らかにすることにより、プライバシー重視に偏重し居住者の孤立化が強く懸念される日本の集合住宅に対する改善提案の知見を得ることを目的にしている。

この度、この研究成果に、日本を含めたこれまでの研究成果を加え、次の2つの形により社会への成果普及を行った。

1) 出版

高井宏之ほか編著「超高層住宅の未来絵図－アジア4都市からみた日本」、技報堂出版、2023年11月5日

2) 名城大学公開講座

「同上」、2023年11月16日 13:30～16:30、ZOOM ウェビナー

講演者：高井宏之（名城大学）、高田光雄（京都美術工芸大学、京都大学名誉教授）、
川崎直宏（株）市浦ハウジング&プランニング、鈴木雅之（千葉大学）

なお、1) は1000部発行され全国書店に配架されたが、このうち100部は、銀行で私募債を発行した建設会社の指定により、名城大学学生の教育資料とし寄贈された。また2) については、公開講座の聴講者数は111名であったが、この内訳は次の通りであった。

- 一般 26名 ○学生 16名 ○研究者 17名 ○不動産会社 6名、
- 設計事務所・コンサルタント・建設会社 35名 ○その他専門分野 11名 ◎計 111名
(上記以外に41名の申し込みがあったが、当日欠席であった)

このように、複数の手段により幅広い層に研究成果は普及され、特に不動産会社や設計事務所等により実践に活用されることが期待できる。

【* 1】研究代表者：高井宏之、研究分担者：7名

【* 2】編著者：高井宏之（名城大学）、高田光雄（京都美術工芸大学）、鈴木雅之（千葉大学）、
著者：9名

2. 取組の発展性について

◎対学生への波及

2年生科目「建築計画Ⅱ」と修士課程「建築計画特論」において、1) の研究成果を講義内容に盛り込み成果普及を行う。特に「建築計画Ⅱ」については、教科書として「松本直司編著：建築計画学、理工図書」を使っているが、現在来年度の大幅改定に向け執筆中である。今回の研究成果をその書籍に盛り込むことにより、研究成果の普及を加速することができる。

◎対設計事務所・コンサルタント・建設会社への波及

今回の公開講座は、住宅開発や設計の「実務に取り組む研究会メンバー」にアナウンスを行ったため、多くの聴講者を得ることができた。高井はその研究グループのメンバーの一人であり、引き続き研究成果の伝達を行う。

3. その他教育活動に係る特記事項

高井宏之は次の学術組織に所属している。この組織で話題として取り上げ、かつメンバーに対し、1) の書籍に更なるアナウンスを行い、成果の普及を促進する。

- A. 日本建築学会・建築計画委員会・住宅計画小委員会
- B. 日本建築学会・建築社会システム委員会・建築企画小委員会
- C. 都市住宅学会（高井は理事）・編集委員会（高井は副委員長）
- D. (一社) 新都市ハウジング協会・超高層住宅長寿命化 WG <https://anuht.or.jp/>
- E. 集合住宅研究会 <https://shujuken.com/>

7. 資 料

大学教育開発センター要項

(目的)

第1条 大学教育開発センター（以下「本センター」という。）は、全学を対象としたファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）活動の実施及び各学部、研究科へのFD活動・教育の質向上の取組の支援により、本大学の教育改善を推進することを目的とする。

(業務)

第2条 本センターは、前条に定める目的を達成するため、次の業務を行う。

- (1) 教育に係る調査・研究・提言に関すること
- (2) 教員の教育力向上に関すること
- (3) 入学前教育及び入学後の学修支援に関すること
- (4) 高大連携及び接続教育に関すること
- (5) その他必要な事項に関すること

(センター長)

第3条 大学教育開発センター長は、学長の命を受けて本センターの業務を総括し、代表する。

(委員会)

第4条 本センターの業務に関する基本事項を審議し、実施するために、大学教育開発センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

② 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 大学教育開発センター長
- (2) 学務センター長のうち1名
- (3) 各学部から選出された教育職員 各2名
- (4) 独立研究科から選出された教育職員 各1名
- (5) 教職センターから選出された教育職員 1名
- (6) 大学教育開発センター事務部長
- (7) 学務センター事務部長
- (8) その他委員長が必要と認めた者

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- ② 委員長は、大学教育開発センター長をもって充てる。
- ③ 副委員長は、委員の互選による。

(任期)

第6条 第4条第2項第3号、第4号、第5号及び第8号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

② 委員が欠けた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第7条 委員会は、委員長がこれを招集し、その議長となる。

② 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

③ 委員会は、委員の過半数の委員の出席により成立する。

④ 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は、議長がこれを決する。

(委員以外の出席)

第8条 委員会が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第9条 委員会は、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

② 専門委員会の運営に関する事項は、委員会において別に定める。

(事務)

第10条 委員会の事務は、本センターが分掌する。

附 則

① この要項は、平成29年4月1日から施行する。

② 従前の「FD委員会要項」は、この要項の施行の日から、これを廃止する。

8. おわりに

あ と が き

大学教育開発センター

本報告書は、令和5年度の本学におけるFD・SD活動、正課外教育活動及びその詳細についてまとめたものです。

本学のFD・SD活動は、各学部・研究科等を主体とし、大学教育開発センター委員会がサポートする形で企画運営、各種取組を推進しています。

大学教育開発センターは、大学教育開発センター委員会とともに、国の文教政策の動向を踏まえ、本学の発展のため、今後も引き続き教育改善に取り組みます。

本報告書により、本学のFD・SD活動等の現状を確認いただき、次年度に向け、抱負を新たにさせていただきますと幸いです。

最後になりますが、各FD・SD活動の企画・運営、そして本報告書の企画・編集にご協力いただきました皆様方に、心より御礼申し上げます。

令和6年3月

発行：名城大学 大学教育開発センター

編集：名城大学 大学教育開発センター

住所：〒468-8502
名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地

電話：(052)838-2032

FAX：(052)833-5230

